

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	5
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
		1年			
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	10
		2年			
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	11	
	2年				
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	12	
	2年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	13	
	2年				
共同体と身体 PHR210F 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	16
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	2学期	2	2	17
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	18
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	教養演習AI GES201F 伊原木 大祐	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI GES201F 稲月 正	1学期	2	2	19
		2年			
	教養演習AI GES201F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI GES201F 徳永 政夫	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI(防衛セミナー) GES201F 戸蔭 仁司	1学期	2	2	20
		2年			
	教養演習AI GES201F 日高 京子	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI(発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	
		2年			
教養演習AI GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	21	
	2年				
教養演習AII GES202F 伊原木 大祐	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 AII GES202F 稲月 正	2学期	2	2	22
		2年			
	教養演習 AII GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 AII GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 AII GES202F 徳永 政夫	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 AII (防衛セミナー) GES202F 戸蒔 仁司	集中	2	2	23
		2年			
	教養演習 AII GES202F 日高 京子	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 AII (発達障がいセミナー) GES202F 伊野 憲治	2学期	2	2	
		2年			
	教養演習 AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	24
		2年			
	教養演習 B I GES301F 伊原木 大祐	1学期	3	2	
		3年			
	教養演習 B I GES301F 稲月 正	1学期	3	2	
		3年			
教養演習 B I GES301F 神原 ゆうこ	1学期	3	2		
	3年				
教養演習 B I GES301F 小林 道彦	1学期	3	2		
	3年				
教養演習 B I GES301F 徳永 政夫	1学期	3	2		
	3年				
教養演習 B I (防衛セミナー) GES301F 戸蒔 仁司	1学期	3	2	25	
	3年				
教養演習 B I GES301F 日高 京子	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BI (発達障がいセミナー) GES301F 伊野 憲治	1学期	3	2	26
	3年				
	教養演習BI GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	26
	3年				
	教養演習BII GES302F 伊原木 大祐	2学期	3	2	
	3年				
	教養演習BII GES302F 稲月 正	2学期	3	2	
	3年				
	教養演習BII GES302F 神原 ゆうこ	2学期	3	2	
	3年				
	教養演習BII GES302F 小林 道彦	2学期	3	2	
	3年				
	教養演習BII GES302F 徳永 政夫	2学期	3	2	
	3年				
教養演習BII (防衛セミナー) GES302F 戸蔭 仁司	集中	3	2	27	
3年					
教養演習BII GES302F 日高 京子	2学期	3	2		
3年					
教養演習BII (発達障がいセミナー) GES302F 伊野 憲治	2学期	3	2		
3年					
教養演習BII GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	28	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	29
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	30
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
1年					
自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	31	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	32
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	33
		1年			
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	34
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	35
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	36
		1年			
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	37
		1年			
	文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	1学期	1	2	38
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	39
		1年			
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 PHR003F 重松 博之	1学期	1	2	40	
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	41	
	1年				
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	42	
	1年				
政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	43	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	44
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	45
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	46
		1年			
	共生の作法 LAW001F 高橋 衛 他	1学期	1	2	47
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭	2学期	1	2	48
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	49
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	50
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	51
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	52
		1年			
現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	53	
	1年				
都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	54	
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	55	
	1年 (2015年度以降入学生)				
現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	56	
	1年				
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	57	
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 田中 淳平 他	1学期	1	2	58	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	59
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	60
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	61
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	62
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	63
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	64
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	65
		1年			
戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	66	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	67	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	68	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	69	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	70
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	71
	1年				
西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	72	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	73
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	74
		1年			
地誌学 GEO112F 外柙保 大介	2学期	1	2	75	
	1年				
日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	1学期	1	2	76	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	77
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	78
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	79
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	80
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	81
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	82
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	83
		1年			
フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	84	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	85	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	86	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	87
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	88
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	89
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	90
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	91
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	92
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	93
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	94	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	95	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	96	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	97	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	98
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	99
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	100
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	101
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	102
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	103
		2年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	104
		2年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	105
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	106
		1年			
プロジェクト演習I CAR280F 後藤 宇生	1学期	2	2	107	
	2年				
プロジェクト演習II CAR281F 柳井 雅人	2学期	2	2	108	
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 後藤 宇生	1学期	3	2	109	
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 柳井 雅人	2学期	3	2	110	
	3年				
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月正	2学期	1	2	111
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	2学期	1	2	112
		1年			
教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	113
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	114
		1年 (2016年度以降入学生)			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	115
		2年 (2016年度以降入学生)			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	116
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	117	
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	118	
	3年 (2016年度以降入学生)				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	情報表現 INF230F 浅羽 修丈	2学期	2	2	119
	2年				
情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	1学期	3	2	120	
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (済営 1 - I) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	121
		済営 1 - I			
	英語I (済営 1 - J) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	122
		済営 1 - J			
	英語II (済営 1 - I) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	123
		済営 1 - I			
	英語II (済営 1 - J) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	124
	済営 1 - J				
英語III (済営 1 - I) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	125	
	済営 1 - I				
英語III (済営 1 - J) ENG102F デール・スティーレル	1学期	1	1	126	
	済営 1 - J				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV (済営 1 - I) ENG112F デール・ スティール	2学期	1	1	127
		済営 1 - I			
	英語IV (済営 1 - J) ENG112F ダンカン・ ウォトリイ	2学期	1	1	128
		済営 1 - J			
	英語V (済 2 - A) ENG201F マイケル・ バーグ	1学期	2	1	129
		済 2 - A			
	英語V (済 2 - B) ENG201F 下條 かおり	1学期	2	1	130
		済 2 - B			
	英語V (済 2 - C) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	131
		済 2 - C			
	英語V (済 2 - D) ENG201F 村田 希巳子	1学期	2	1	132
		済 2 - D			
	英語V (済 2 - E) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	133
		済 2 - E			
	英語VI (済 2 - A) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	134
		済 2 - A			
	英語VI (済 2 - B) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	135
		済 2 - B			
	英語VI (済 2 - C) ENG211F 村田 希巳子	2学期	2	1	136
		済 2 - C			
英語VI (済 2 - D) ENG211F 大塚 由美子	2学期	2	1	137	
	済 2 - D				
英語VI (済 2 - E) ENG211F 下條 かおり	2学期	2	1	138	
	済 2 - E				
英語VII (済 2 - A) ENG202F アルバート・ オスカー・ モウ	1学期	2	1	139	
	済 2 - A				
英語VII (済 2 - B) ENG202F ホセ・ クルーズ	1学期	2	1	140	
	済 2 - B				
英語VII (済 2 - C) ENG202F ジェイムズ・ ヒックス	1学期	2	1	141	
	済 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII (済 2 - D) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	142
		済 2 - D			
	英語VII (済 2 - E) ENG202F 相原 信彦	1学期	2	1	143
		済 2 - E			
	英語VIII (済 2 - A) ENG212F ホセ・クルーズ	2学期	2	1	144
		済 2 - A			
	英語VIII (済 2 - B) ENG212F ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	145
		済 2 - B			
	英語VIII (済 2 - C) ENG212F クリスティン・マイスター	2学期	2	1	146
		済 2 - C			
	英語VIII (済 2 - D) ENG212F アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	147
		済 2 - D			
	英語VIII (済 2 - E) ENG212F ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	148
		済 2 - E			
英語IX (済 営 律 政 3 年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	149	
	済 営 律 政 3 年				
英語X (済 営 律 政 3 年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	150	
	済 営 律 政 3 年				
英語XI (済 営 律 政 3 年) ENG302F アルバート・オスカー・モウ	1学期	3	1	151	
	済 営 律 政 3 年				
英語XII (済 営 律 政 3 年) ENG312F デビッド・アダム・ストット	2学期	3	1	152	
	済 営 律 政 3 年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	153
		済 営 人 律 政 群 1 年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	154
		済 営 人 律 政 群 1 年			
中国語III CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	155	
	済 営 律 政 群 1 年				
中国語IV CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	156	
	済 営 律 政 群 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	157
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	158
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 肖 婷婷	1学期	2	1	159
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 肖 婷婷	2学期	2	1	160
		英済営人律政群 2年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	161
		英国済営比人 3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	162
		英国済営比人 3年			
	上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	163
		英国済営比人 3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	164
		英国済営比人 3年			
	朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	165
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	166
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III KRN102F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	167
	済営律政群 1年				
朝鮮語IV KRN112F チャン ユンヒャン	2学期	1	1	168	
	済営律政群 1年				
朝鮮語V KRN201F チャン ユンヒャン	1学期	2	1	169	
	済営人律政群 2年				
朝鮮語VI KRN211F チャン ユンヒャン	2学期	2	1	170	
	済営人律政群 2年				
朝鮮語VII KRN202F 金 貞淑	1学期	2	1	171	
	済営人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VIII KRN212F 金 貞淑	2学期	2	1	172
		済営人律政群 2年			
	上級朝鮮語I KRN301F 金 貞淑	1学期	3	1	173
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 金 貞淑	2学期	3	1	174
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	175
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV KRN312F 金 貞愛	2学期	3	1	176
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	177
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	178
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	179
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	180
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	181
		英中国済営比人律政 2年			
ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	182	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	183	
	英中国済営比人律政 2年				
ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	184	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	185	
	済営人律政 1年				
ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	186	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	187
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	188
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	189
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	190
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	191
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	192
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	193
		済営人律政 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	194
		済営人律政 1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	195
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	196
		済営人律政 1年			
フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	197	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	198	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	199	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	200	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語I SPN101F 岡住 正秀	1学期	1	1	201	
	中国済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II SPN111F 岡住 正秀	2学期	1	1	202
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	203
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	204
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	205
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	206	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	207	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	208	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	209
		留学生 1年			
	日本語II JSL102F 則松 智子	1学期	1	1	210
		留学生 1年			
	日本語III JSL103F 徐 曉輝	1学期	1	1	211
		留学生 1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	212
		留学生 1年			
日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	213	
	留学生 1年				
日本語VI JSL113F 吉嶺 加奈子	2学期	1	1	214	
	留学生 1年				
日本語VII JSL104F 小林 浩明	1学期	2	1	215	
	留学生 2年				
日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	216	
	留学生 2年				

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	217
		留学生 1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	218
		留学生 1年			
	日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	219
		留学生 1年			
	日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	220
		留学生 1年			
■専門教育科目 ■専門基本科目	数学 MTH100M 久保 宏和	1学期	1	2	221
		1年			
	統計学I ECN130M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	統計学II ECN230M 林田 実	1学期	2	2	222
		2年			
	ミクロ経済学I ECN112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	ミクロ経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期	2	2	223
		済 2年			
	マクロ経済学I ECN113M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	マクロ経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期	2	2	224
		済 2年			
	入門演習 SEM110M 畔津 憲司	1学期	1	2	225
		1年			
入門演習 SEM110M 魏 芳	1学期	1	2	226	
	1年				
入門演習 SEM110M 牛房 義明	1学期	1	2	227	
	1年				
入門演習 SEM110M 田村 大樹	1学期	1	2	228	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 SEM110M 後藤 尚久	1学期	1	2	229
		1年			
	入門演習 SEM110M 藤井 敦	1学期	1	2	230
		1年			
	入門演習 SEM110M 前林 紀孝	1学期	1	2	231
		1年			
	入門演習 SEM110M 土井 徹平	1学期	1	2	232
		1年			
	基礎演習 SEM210M 畔津 憲司	1学期	2	2	233
		2年			
	基礎演習 SEM210M 魏 芳	1学期	2	2	234
		2年			
	基礎演習 SEM210M 朱 乙文	1学期	2	2	235
		2年			
	基礎演習 SEM210M 後藤 宇生	1学期	2	2	236
		2年			
	基礎演習 SEM210M 土井 徹平	1学期	2	2	237
		2年			
	基礎演習 SEM210M 藤井 敦	1学期	2	2	238
		2年			
基礎演習 SEM210M 前田 淳	1学期	2	2	239	
	2年				
基礎演習 SEM210M 前林 紀孝	1学期	2	2	240	
	2年				
基礎演習 SEM210M 柳井 雅人	1学期	2	2	241	
	2年				
専門演習I SEM311M 牛房 義明	1学期	3	2	242	
	3年				
専門演習I SEM311M 城戸 宏史	1学期	3	2	243	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	専門演習I SEM311M 後藤 宇生	1学期	3	2	244
		3年			
	専門演習I SEM311M 後藤 尚久	1学期	3	2	245
		3年			
	専門演習I SEM311M 朱 乙文	1学期	3	2	246
		3年			
	専門演習I SEM311M 田中 淳平	1学期	3	2	247
		3年			
	専門演習I SEM311M 田村 大樹	1学期	3	2	248
		3年			
	専門演習I SEM311M 林田 実	1学期	3	2	249
		3年			
	専門演習I SEM311M 藤井 敦	1学期	3	2	250
		3年			
	専門演習I SEM311M 前田 淳	1学期	3	2	251
		3年			
	専門演習I SEM311M 松永 裕己	1学期	3	2	252
	3年				
専門演習I SEM311M 魏 芳	1学期	3	2	253	
	3年				
専門演習I SEM311M 土井 徹平	1学期	3	2	254	
	3年				
専門演習I SEM311M 前林 紀孝	1学期	3	2	255	
	3年				
専門演習I SEM311M 柳井 雅人	1学期	3	2	256	
	3年				
専門演習I SEM311M 畔津 憲司	1学期	3	2	257	
	3年				
専門演習II SEM312M 牛房 義明	2学期	3	2	258	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	専門演習II SEM312M 城戸 宏史	2学期	3	2	259
		3年			
	専門演習II SEM312M 後藤 宇生	2学期	3	2	260
		3年			
	専門演習II SEM312M 後藤 尚久	2学期	3	2	261
		3年			
	専門演習II SEM312M 朱 乙文	2学期	3	2	262
		3年			
	専門演習II SEM312M 田中 淳平	2学期	3	2	263
		3年			
	専門演習II SEM312M 田村 大樹	2学期	3	2	264
		3年			
	専門演習II SEM312M 林田 実	2学期	3	2	265
		3年			
	専門演習II SEM312M 藤井 敦	2学期	3	2	266
		3年			
	専門演習II SEM312M 前田 淳	2学期	3	2	267
		3年			
専門演習II SEM312M 松永 裕己	2学期	3	2	268	
	3年				
専門演習II SEM312M 魏 芳	2学期	3	2	269	
	3年				
専門演習II SEM312M 土井 徹平	2学期	3	2	270	
	3年				
専門演習II SEM312M 前林 紀孝	2学期	3	2	271	
	3年				
専門演習II SEM312M 柳井 雅人	2学期	3	2	272	
	3年				
専門演習II SEM312M 畔津 憲司	2学期	3	2	273	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	卒業研究A	1学期	4	2	274
	SEM411M 牛房 義明	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	275
	SEM411M 城戸 宏史	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	276
	SEM411M 武田 寛	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	277
	SEM411M 後藤 宇生	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	278
	SEM411M 後藤 尚久	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	279
	SEM411M 朱 乙文	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	280
	SEM411M 田中 淳平	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	281
	SEM411M 田村 大樹	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	282
	SEM411M 林田 実	4年			
卒業研究A	1学期	4	2	283	
SEM411M 藤井 敦	4年				
卒業研究A	1学期	4	2	284	
SEM411M 前田 淳	4年				
卒業研究A	1学期	4	2	285	
SEM411M 松永 裕己	4年				
卒業研究A	1学期	4	2	286	
SEM411M 魏 芳	4年				
卒業研究A	1学期	4	2	287	
SEM411M 土井 徹平	4年				
卒業研究A	1学期	4	2	288	
SEM411M 前林 紀孝	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	卒業研究A	1学期	4	2	289
	SEM411M 柳井 雅人	4年			
	卒業研究A	1学期	4	2	290
	SEM411M 畔津 憲司	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	291
	SEM412M 牛房 義明	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	292
	SEM412M 城戸 宏史	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	293
	SEM412M 武田 寛	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	294
	SEM412M 後藤 宇生	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	295
	SEM412M 後藤 尚久	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	296
	SEM412M 朱 乙文	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	297
	SEM412M 田中 淳平	4年			
卒業研究B	2学期	4	2	298	
SEM412M 田村 大樹	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	299	
SEM412M 林田 実	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	300	
SEM412M 藤井 敦	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	301	
SEM412M 前田 淳	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	302	
SEM412M 松永 裕己	4年				
卒業研究B	2学期	4	2	303	
SEM412M 魏 芳	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	卒業研究B	2学期	4	2	304
	SEM412M 土井 徹平	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	305
	SEM412M 前林 紀孝	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	306
	SEM412M 柳井 雅人	4年			
	卒業研究B	2学期	4	2	307
	SEM412M 畔津 憲司	4年			
	経済学入門 A	1学期	1	2	
	ECN110M 休講	1年Aグループ			
	経済学入門 A	1学期	1	2	
	ECN110M 休講	1年Bグループ			
	経済学入門 B	1学期	1	2	
	ECN111M 休講	1年Aグループ			
	経済学入門 B	1学期	1	2	
	ECN111M 休講	1年Bグループ			
	情報科学入門	1学期	1	2	308
	INF100M 武藤 直彦	1年			
	簿記論I		1	2	
	ACC110M 休講	1年			
簿記論II		1	2		
ACC111M 休講	1年				
現代日本経済入門 A	1学期	1	2	309	
ECN150M 江本 伸哉	1年				
現代日本経済入門 B	2学期	1	2	310	
ECN151M 前田 淳	1年				
実証経済分析	1学期	2	2	311	
ECN231M 藤井 敦	2年				
計量経済学	2学期	2	2	312	
ECN232M 藤井 敦	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	プログラミング INF211M 中山 仁	2学期	2	2	313
		2年			
	日本経済史I ECN220M 土井 徹平	1学期	2	2	314
		2年			
	日本経済史II ECN221M 土井 徹平	2学期	2	2	315
		2年			
	西洋経済史 ECN223M 山崎 勇治	1学期	3	2	316
		3年			
	アジア経済史 ECN224M 山崎 勇治	2学期	3	2	317
		3年			
	経済学史 ECN222M 村田 和博	1学期	3	2	318
		3年			
	業界研究I CAR310M 福井 直人	1学期	3	2	319
		3年			
	業界研究II CAR380M 福井 直人	集中	3	2	320
		3年			
	外書講読 ECN390M 山崎 好裕	2学期	3	2	321
		3年			
	ビジネス英語A (選抜クラス) ENG331M マーニー・セイテイ	1学期	3	2	322
		3年選抜クラス			
ビジネス英語A ENG331M マーニー・セイテイ	1学期	3	2	323	
	3年				
ビジネス英語A ENG331M 林 裕二	1学期	3	2	324	
	3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) ENG332M マーニー・セイテイ	2学期	3	2	325	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語B ENG332M マーニー・セイテイ	2学期	3	2	326	
	3年				
ビジネス英語B ENG332M 林 裕二	2学期	3	2	327	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	
	ECN260M 休講	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	ECN261M 休講	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	328
	ECN240M 魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	329
	ECN241M 魏 芳	2年			
	公共経済学	1学期	2	2	330
	ECN262M 牛房 義明	2年			
	ファイナンス論	2学期	3	2	331
	ECN360M 武田 寛	3年			
	環境経済学	2学期	3	2	
	ECN340M 休講	3年			
	財政学I	1学期	3	2	332
	ECN361M 前林 紀孝	3年			
	財政学II	2学期	3	2	333
	ECN362M 前林 紀孝	3年			
	産業組織論I	1学期	3	2	334
	ECN341M 川崎 晃央	3年			
産業組織論II	2学期	3	2	335	
ECN342M 川崎 晃央	3年				
労働経済学I	1学期	3	2	336	
ECN343M 畔津 憲司	3年				
労働経済学II	2学期	3	2	337	
ECN344M 畔津 憲司	3年				
国際貿易論I	1学期	3	2	338	
ECN345M 水戸 康夫	3年				
国際貿易論II	2学期	3	2	339	
ECN346M 水戸 康夫	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際金融論I ECN363M 休講	1学期	3	2	3年	
	国際金融論II ECN364M 休講	2学期	3	2		3年
	国際マクロ経済学I ECN310M 末永 勝昭	1学期	3	2	3年	
	国際マクロ経済学II ECN311M 末永 勝昭	2学期	3	2		3年
	経済地理学I ECN242M 休講	1学期	2	2	2年	
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2		2年
	地域経済I ECN244M 田村 大樹	1学期	2	2	2年	
	地域経済II ECN245M 田村 大樹	2学期	2	2		2年
地域政策 ECN250M 松永 裕己	2学期	2	2	2年	344	
北九州経済分析I ECN251M 城戸 宏史	1学期	2	2			2年
北九州経済分析II ECN252M 城戸 宏史	2学期	2	2	2年	346	
地方財政論 ECN365M 難波 利光	1学期	3	2			3年
中国経済 ECN350M 園 康寿	1学期	3	2	3年	348	
アメリカ経済 ECN351M 山崎 好裕	2学期	3	2			3年
東アジア経済論 ECN352M 柳 学洙	2学期	3	2	3年	350	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	経営学入門 BUS100M 福井 直人	1学期	1	2	351
		1年Aグループ			
	経営学入門 BUS100M 福井 直人	1学期	1	2	352
		1年Bグループ			
	企業論基礎 BUS110M 久多里 桐子	2学期	1	2	353
		1年			
	マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	354
		1年			
	経営組織論 BUS212M 山下 剛	1学期	2	2	355
		2年			
	経営戦略論 BUS213M 浦野 恭平	2学期	2	2	356
		2年			
	企業ファイナンスI BUS214M 松本 守	1学期	2	2	357
		2年			
	企業ファイナンスII BUS215M 松本 守	2学期	2	2	358
		2年			
	マーケティングI BUS230M 別府 俊行	1学期	2	2	359
		2年			
	マーケティングII BUS231M 別府 俊行	2学期	2	2	360
		2年			
企業論I BUS210M 中間 信博	1学期	2	2	361	
	2年				
企業論II BUS211M 中間 信博	2学期	2	2	362	
	2年				
人的資源管理論 BUS310M 福井 直人	1学期	3	2	363	
	3年				
証券市場論 BUS330M 久多里 桐子	1学期	3	2	364	
	3年				
中小企業論 BUS313M 別府 俊行	1学期	3	2	365	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	国際経営	2学期	3	2	366
	BUS311M 王 効平	3年			
	地域企業分析	2学期	3	2	367
	BUS400M 浦野 恭平 他	3年			
	コンピュータシステム	1学期	2	2	368
	INF220M 武藤 直彦	2年			
	オペレーションズ・マネジメント	1学期	2	2	369
	INF200M 齋藤 朗宏	2年			
	データ構造	2学期	2	2	370
	INF231M 隈本 寛	2年			
	データベース	2学期	2	2	371
	INF232M 池田 欽一	2年			
	Webプログラミング	2学期	2	2	372
	INF212M 池田 欽一	2年			
	企業データ分析	1学期	3	2	373
	INF341M 齋藤 朗宏	3年			
	システム分析	1学期	3	2	374
	INF340M 平山 克己	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	375
	INF320M 隈本 寛	3年			
システム設計	2学期	3	2	376	
INF420M 平山 克己	3年				
簿記論III	1学期	2	2	377	
ACC210M 白石 和孝	2年				
工業簿記	集中	2	2	378	
ACC211M 加藤 典生	2年				
原価計算論I	1学期	2	2	379	
ACC212M 梅澤 俊浩	2年				
原価計算論II	1学期	2	2	380	
ACC213M 梅澤 俊浩	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	財務会計論I ACC214M 西澤 健次	1学期	2	2	381
		2年			
	財務会計論II ACC215M 西澤 健次	2学期	2	2	382
		2年			
	経済学特殊講義A ECN301M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	経済学特殊講義B ECN302M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	経営学特殊講義A BUS390M 工藤 一成	1学期	3	2	383
		3年			
	経営学特殊講義B BUS391M 松田 憲	2学期	3	2	384
		3年			
	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	385
		1年			
	地方自治法 LAW223M 岡本 博志	1学期(ペア)	3	4	386
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 岡本 博志	2学期	3	2	387
		3年			
	労使関係法 LAW241M 井川 志郎	2学期	2	2	388
		2年			
雇用関係法 LAW240M 井川 志郎	1学期	2	2	389	
	2年				
社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	390	
	2年				
環境法 LAW342M 森田 崇雄	集中	3	2	391	
	3年				
独占禁止法 LAW340M 諏佐 マリ	集中	3	2	392	
	3年				
民法総則 LAW160M 小野 憲昭	2学期(ペア)	1	4	393	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業活動と法	1学期	2	2	394
	LAW273M 今泉 恵子	2年			
	会社法I	1学期	3	2	395
	LAW270M 高橋 衛	3年			
	会社法II	2学期	3	2	396
	LAW271M 高橋 衛	3年			
	国際法I	1学期	2	2	397
	LAW250M 二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	398
	LAW251M 二宮 正人	2年			
	福祉国家論	2学期	1	2	399
	PLC112M 狭間 直樹	1年			
	都市経済論	2学期	1	2	400
	PLC113M 田代 洋久	1年			
	地方自治論	1学期	2	2	401
	PAD211M 森 裕亮	2年			
	公共政策論	1学期	2	2	402
	PLC211M 楢原 真二	2年			
	政治過程論	2学期	2	2	403
	PLS210M 秦 正樹	2年			
自治体政策研究	2学期	2	2	404	
PLC214M 楢原 真二	2年				
政治学	2学期	2	2	405	
PLS100M 秦 正樹	2年				
地方行政改革論	2学期	2	2	406	
PAD310M 森 裕亮	2年				
途上国開発論	1学期	2	2	407	
PLC215M 三宅 博之	2年				
都市政策論	1学期	3	2	408	
PLC219M 田代 洋久	3年				

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	3	2	409
		3年			
	東南アジアの政治と外交 ARE216M 篠崎 香織	2学期	3	2	410
		3年			
	ビジネス英語研究 ENG232M 松田 智	2学期	3	2	411
		3年			
	Advanced English I ENG353M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	4	2	412
		4年			
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	413
		4年			
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	414
		4年			
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	415
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	416
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	417
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	418
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	419
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	420
	1年				
日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	421	
1年					
生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	422	
1年					
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	423	
1年					
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	424	
1年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	425
	1年				
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	426
1年					
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2		
1年					
現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	427
		1年			
	人権論 SOC004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 稲月 正	2学期	1	2	428
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	429
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	430
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	431
		1年			
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	432
		1年			
グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	433	
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 休講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期	1	2		
	1年				

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は	2学期	1	2	
	HIS002F 休講	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	
	HIS001F 閉講	1年			
	ヨーロッパ道徳思想史	2学期	1	2	
	PHR005F 休講	1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI	1学期	1	2	434
	PSY001F 中島 俊介	1年			
	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	PSY002F 休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	435
	HSS001F 山本 浩二	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	
	HSS002F 閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	
	HSS081F 閉講	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	436	
HSS082F 山本 浩二	1年				
■情報教育科目	データ処理	1学期	1	2	437
	INF101F 佐藤 貴之	1年			
	情報表現	1学期	2	2	438
	INF230F 浅羽 修丈	2年			
■専門教育科目 ■専門基本科目	数学		1	2	
	MTH100M 休講	1年 (再履修のみ)			
	統計学I	2学期	1	2	439
	ECN130M 林田 実	1年 (再履修)			
	統計学II	1学期	2	2	440
	ECN230M 林田 実	2年 (再履修)			
ミクロ経済学I	2学期	1	2	441	
ECN112M 朱 乙文	1年 (再履修)				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	ミクロ経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期	2	2	442
		2年(再履修)			
	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	443
		1年(再履修)			
	マクロ経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期	2	2	444
		2年(再履修)			
	入門演習 SEM110M 閉講		1	2	
		1年			
	基礎演習 SEM210M 閉講		2	2	
		2年			
	専門演習I SEM311M 閉講		3	2	
		3年			
	専門演習II SEM312M 閉講		3	2	
		3年			
	卒業研究A SEM411M 閉講		4	2	
		4年			
	卒業研究B SEM412M 閉講		4	2	
		4年			
	経済学入門 A ECN110M 藤井 敦	1学期	1	2	445
		1年			
経済学入門 B ECN111M 畔津 憲司	1学期	1	2	446	
	1年				
情報科学入門 INF100M 昼のみ開講		1	2		
	1年				
簿記論I ACC110M 森脇 敏雄	1学期	1	2	447	
	1年				
簿記論II ACC111M 森脇 敏雄	2学期	1	2	448	
	1年				
現代日本経済入門 A ECN150M 昼のみ開講		1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	現代日本経済入門B		1	2	1年
	ECN151M 昼のみ開講				
	実証経済分析		2	2	2年
	ECN231M 閉講				
	計量経済学		2	2	2年
	ECN232M 閉講				
	プログラミング		2	2	2年
	INF211M 閉講				
	日本経済史I		2	2	2年
	ECN220M 閉講				
	日本経済史II		2	2	2年
	ECN221M 閉講				
	西洋経済史		3	2	3年
	ECN223M 閉講				
	アジア経済史		3	2	3年
	ECN224M 閉講				
	経済学史		3	2	3年
	ECN222M 閉講				
	業界研究I		3	2	3年
	CAR310M 昼のみ開講				
業界研究II		3	2	3年	
CAR380M 昼のみ開講					
外書講読		3	2	3年	
ECN390M 閉講					
ビジネス英語A		3	2	3年	
ENG331M 休講					
ビジネス英語B		3	2	3年	
ENG332M 休講					
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	449
	ECN260M 後藤 尚久			2年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	金融論II ECN261M 後藤 尚久	2学期	2	2	450
	2年				
	国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国際経済論II ECN241M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	公共経済学 ECN262M 閉講		2	2	
	2年				
	ファイナンス論 ECN360M 閉講		3	2	
	3年				
	環境経済学 ECN340M 牛房 義明	2学期	3	2	451
	3年				
	財政学I ECN361M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	財政学II ECN362M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	産業組織論I ECN341M 閉講		3	2	
	3年				
	産業組織論II ECN342M 閉講		3	2	
	3年				
労働経済学I ECN343M 昼のみ開講		3	2		
3年					
労働経済学II ECN344M 昼のみ開講		3	2		
3年					
国際貿易論I ECN345M 閉講		3	2		
3年					
国際貿易論II ECN346M 閉講		3	2		
3年					
国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	452	
3年					

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	453
		3年			
	国際マクロ経済学I ECN310M 閉講		3	2	
		3年			
	国際マクロ経済学II ECN311M 閉講		3	2	
		3年			
■地域経済学系	経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期	2	2	454
		2年			
	経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期	2	2	455
		2年			
	地域経済I ECN244M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地域経済II ECN245M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域政策 ECN250M 休講		2	2	
		2年			
	北九州経済分析I ECN251M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	北九州経済分析II ECN252M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	地方財政論 ECN365M 昼のみ開講		3	2	
		3年			
中国経済 ECN350M 閉講		3	2		
	3年				
アメリカ経済 ECN351M 閉講		3	2		
	3年				
■選択科目B	経営学入門 BUS100M 閉講		1	2	
		1年			
	企業論基礎 BUS110M 篠崎 伸也	2学期	1	2	456
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	マネジメント論基礎 BUS111M 遠藤 雄二	2学期	1	2	457
		1年			
	経営組織論 BUS212M 休講		2	2	
		2年			
	経営戦略論 BUS213M 休講		2	2	
		2年			
	企業ファイナンスI BUS214M 休講		2	2	
		2年			
	企業ファイナンスII BUS215M 休講		2	2	
		2年			
	マーケティングI BUS230M 閉講		2	2	
		2年			
	マーケティングII BUS231M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
	企業論I BUS210M 昼のみ開講		2	2	
		2年			
企業論II BUS211M 昼のみ開講		2	2		
	2年				
人的資源管理論 BUS310M 福井 直人	1学期	3	2	458	
	3年				
証券市場論 BUS330M 休講		3	2		
	3年				
中小企業論 BUS313M 別府 俊行	1学期	3	2	459	
	3年				
国際経営 BUS311M 休講		3	2		
	3年				
地域企業分析 BUS400M 昼のみ開講		3	2		
	3年				
コンピュータシステム INF220M 泉 英明	1学期	2	2	460	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	オペレーションズ・マネジメント		2	2	
	INF200M 昼のみ開講	2年			
	データ構造		2	2	
	INF231M 休講	2年			
	データベース	2学期	2	2	
	INF232M 休講	2年			
	Webプログラミング		2	2	
	INF212M 閉講	2年			
	企業データ分析		3	2	
	INF341M 昼のみ開講	3年			
	システム分析	1学期	3	2	461
	INF340M 劉 怡	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	
	INF320M 休講	3年			
	システム設計		3	2	
	INF420M 閉講	3年			
	簿記論III		2	2	
	ACC210M 昼のみ開講	2年			
	工業簿記		2	2	
	ACC211M 昼のみ開講	2年			
原価計算論I		2	2		
ACC212M 閉講	2年				
原価計算論II		2	2		
ACC213M 昼のみ開講	2年				
財務会計論I	1学期	2	2		
ACC214M 休講	2年				
財務会計論II		2	2		
ACC215M 昼のみ開講	2年				
経済学特殊講義A		3	2		
ECN301M 昼のみ開講	3年				

経済学部 経済学科 (2017年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目B	経済学特殊講義B		3	2		
	ECN302M	昼のみ開講	3年			
	経営学特殊講義A		3	2		
	BUS390M	昼のみ開講	3年			
	経営学特殊講義B		3	2		
	BUS391M	昼のみ開講	3年			
	法学総論			1	2	
	LAW100M	休講	1年			
	会社法I		1学期	3	2	462
	LAW270M	高橋 衛	3年			
会社法II		2学期	3	2	463	
LAW271M	高橋 衛	3年				
国際法I			2	2		
LAW250M	休講	2年				
国際法II			2	2		
LAW251M	休講	2年				
地方自治論		1学期	2	2	464	
PAD211M	森 裕亮	2年				
公共政策論			2	2		
PLC211M	休講	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

生命と環境 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

環境問題概論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 長 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体の哲学
- 3回 日本的身体のイメージ
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 5回 古代ギリシャの身体観1【プラトン】
- 6回 古代ギリシャの身体観2【概観】
- 7回 キリスト的共同体の身体
- 8回 身体としての共同体1【表現主義】
- 9回 身体としての共同体2
- 10回 身体・家族・社会1【精神分析的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会2【脳科学的アプローチ】
- 12回 身体・家族・社会3【シユレーパー症例】
- 13回 身体の社会的統制1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

共同体と身体 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 【確率の影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) 生命と遺伝子操作1 【再生医療】 【iPS細胞】
- 12回 生命の倫理 (2) 生命と遺伝子操作2 【ゲノム編集】
- 13回 生命の倫理 (3) 生命科学と家族 【遺伝的つながり】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

* タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加 (課題提出を含む) 100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) により提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解する。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 演習1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 5回 近未来の入力装置 【モーショントラッキング】
- 6回 演習2：ウェアラブルコンピュータ・モーショントラッキングを利用した未来のサービスを読む
- 7回 画像認識の仕組み 【画像処理】【ドット】【解像度】
- 8回 顔画像認識の応用と危険性 【マーケティング】【個人情報】
- 9回 画像認識技術はどこまで人間に近づけるか 【形状認識】【機械学習】
- 10回 演習3：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 11回 IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 12回 演習4：IoTを利用した未来のサービスを読む
- 13回 自律型ロボットと人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 14回 人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】【法整備】
- 15回 演習5：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 50%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 40%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
			地域資源管理論
			ENV200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
 本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。
 ①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
 ②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
 ③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -
 上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。
 法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也、富野暉一郎編著（2006）『コモンズ論再考』晃洋書房
 角谷 嘉則著（2009）『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
 神谷由紀子編著（2014）『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について -
- 第7回 静岡県伊東市地区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム -
- 第8回 地域資源の過剰利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

地域資源管理論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：20%
最終試験：80%（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジュメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はおかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 B II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~), 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員、および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義です。北九州市は化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市であり、古くより交通の要衝として栄えてきた都市でもあります。北九州の自然と歴史の魅力、それを展示している博物館を、まず皆さんに知ってもらうことがこの講義の大きな目的です。講義では、地球の歴史、生物の歴史、人間の歴史に関する基礎的な知識を身につけながら、各学芸員や教員による調査・研究を通して、それぞれの分野の最先端の話を聞いていただきます。北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学んでもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通りです (【 】内はキーワード、()内は担当者)。

- 1回 ガイダンス (日高・柳川)
- 博物館1日目
- 2回 石の音が聞こえる (森) 【岩石】【鉱物】【大地のダイナミクス】
- 3回 生命の起源を探る (柳川) 【微生物】【極限環境】【地球外生命体】
- 4回 館内見学 (1回目)
- 5回 アンモナイトの古生物学 (御前) 【化石】【古生態学】【異常巻アンモナイト】
- 6回 昆虫の多様性と進化 (養島) 【新種発見】【完全変態】【甲虫】
- 博物館2日目
- 7回 魚類分類学と多様性 (日比野) 【ホロタイプ】【分類学の歴史】
- 8回 両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】【ホットスポット】
- 9回 館内見学 (2回目)
- 10回 フィールドの地学と歴史を楽しむ (野井) 【地学と歴史のかかわり】【ジオパーク】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【科学史】【地球環境】【植物】【人新世】
- 博物館3日目
- 12回 哺乳類に関するトピック (未定)
- 13回 北九州の埋蔵文化財 (宮元) 【考古学】【古墳時代】
- 14回 北九州の歴史と文化 (日比野) 【近現代史】【地域の歴史意識】
- 15回 まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的な授業への参加 (課題提出を含む) 100%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に【 】内のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。10月2日に両キャンパスにて予備ガイダンスを予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月19日（土）、10月26日（土）、11月16日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、生活を豊かにするため、身近な問題の科学・技術情報の理解のため、教養としての基礎的な化学知識を必要としています。化学の知識は、興味の赴くまま学んでも、根付きません。一方、系統的に学ぶことでその知識を根付かせることができますが、学習の意欲を育てるとは限りません。これらを両立させることが教育の課題です。高校の化学教育を基礎に、化学への興味の促進、身近な現象への理解力の向上がこの授業のねらいです。その学習を進めるために、身近な現象と学習事項の関連を講義の中で示します。

身近な物質や現象を通して、物質の構造（原子・分子・化学結合）、物質の状態すなわち物質三態（気・液・固、コロイド）や物性（酸塩基、酸化還元など）など、さらに一般化学物質（無機物、有機物）や生命に関わる生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）を、生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題との関連で解説します。

これらの学習で化学現象の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解することをねらいます。

教科書 /Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)

著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著

出版社：三共出版

定価2592円（本体2400円＋税8%） / 2016年4月発行

ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）¥2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1, 2コマ： 1) 身近な元素と周期律と化学結合
1章 原子の成り立ちと周期律
2章 化学結合と物質の結合
- 第3, 4コマ： 2) 化学物質はどう造られるか。化学の言葉での表現
化学式、化学反応式の説明。
11章 無機物質と無機化学 補足：石灰岩(北九州市の資源)
- 第5, 6コマ： 3) 物質の存在状態は身の回りの現象とどう関わるか。
気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
3章 物質の三態と相平衡
- 第7, 8コマ： 4) 酸や酸化などの現象と生活の関わり。健康と酸塩基、電池
5章 酸と塩基、6章 酸化と還元
- 第9, 10コマ： 5) 有機物とは何、身の回りの有機物の特性と分類
第7章 簡単な有機化合物
第10章 生活の中の有機物質
- 第11, 12コマ： 6) 生命と健康への生体物質の関わり
第8章 生体を構成する物質
第9章 生命を支える物質
- 第13コマ： 7) エネルギー源と原子力問題
第13章 原子力エネルギーとクリーンエネルギー
- 第14コマ： 8) 人間生活と地球環境問題
第14章14-7節 放射能汚染
第14章 大気と環境
第15章 水と環境
- 第15コマ： 9) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など)20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調(しるし)することで復習がやりやすいので行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問すると良い。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、糖、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
現代人のこころ				
PSY003F				

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第7回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第8回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第9回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
 事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 | 【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【胚】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)細胞の増殖 | 【細胞周期】【細胞死】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)シグナル伝達 | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【染色体】【テロメア】 |
| 12回 | 体を守るしくみ(2)細菌とウイルス | 【ウイルス】【細菌】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(3)免疫 | 【自然免疫】【抗体】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

人間と生命 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 999円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（日高）
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～（法学部・三宅）
- 3回 北九州の自然と環境（日高・村江）
- 4回 北九州における環境政策（外部講師）
- 5回 環境問題と市民の関わり（外部講師）
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済（経済学部・牛房）
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて（外部講師）
- 11回 小テスト（日高）
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
- 13回 環境問題と企業の取り組み（外部講師）
- 14回 環境問題と学生の取り組み（421Lab・村江）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績（40％）、小テストおよび授業中の課題（60％）

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・エコタウン（バスツアー）は12月25日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・環境ミュージアム見学は11月23日（土）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・環境首都検定は12月15日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)
永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所, 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 金本 恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所
河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		
			未来を創る環境技術
			ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポートおよび小テスト70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文系学生にもわかりやすい授業内容です。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 100%
(不定期に実施されるMoodle上での課題内容をもとに評価する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
		文化と表象	MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
- 10回 イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
- 11回 【特別講義】
- 12回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 13回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 14回 映画を事例として③まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 20% 期末レポート ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトゥガーズ「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト 2回 50%
- レポート(学期末) 40%
- 日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防衛民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1：制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2：選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3：運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4：社会【コンソリデーション・モラリティー】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇔独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

そのために、以下の2点について講義する。

- (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
- (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル

政治のなかの文化【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と政治に関する知識を学び、人間と「思想・文化」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と政治に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			政治のなかの文化
			ANT001F

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代的な政治体制や経済体制が世界中に広がる以前から、さまざまな共同体において独自の統治の方法があり（これもまた文化のひとつである）、近代国家に特有の制度が共有されるようになってからも、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、その土地に住む人々の政治や経済に関する固有の価値観や習慣について、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、現代の世界への総合的な理解と考察を深めることが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれませんが（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ヘンドリー・ジョイ2002『社会人類学入門』法政大学出版局
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- ピエール・ブルデュー1993『資本主義のハビトゥス』藤原書店
- 本多俊和ほか編2011『グローバリゼーションの人類学』

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

政治のなかの文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入/グローバル化の時代と文化
- 第2回 理念の土着化は可能か？
- 第3回 伝統社会のなかの政治の始まり
- 第4回 互酬と社会
- 第5回 伝統的社会における支配と近代的な社会における支配
- 第6回 資本主義への対抗
- 第7回 異なる社会の価値観を図る
- 第8回 中間テスト
- 第9回 政治体制の変化が文化に与える影響①：社会主義と近代化
- 第10回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換と民主主義
- 第11回 開発の現場における公共性と文化
- 第12回 地域通貨の可能性
- 第13回 市民参加の時代における実践の土着化
- 第14回 中間テストの解説
- 第15回 グローバルな連帯という想像力 / 講義全体の総括

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 中間テスト+課題など40%、期末テスト60%
- ※受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目へのリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や、電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。欠席しても履修できるかも知れませんが、不利になるかもしれないことを覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者(または代替提出課題の未提出者)、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 人々はどうやって意思決定をしてきた(いる)か、どうやって経済活動をしてきた(いる)かということに興味があると、講義の内容は面白いのではないかと思います。
- ・ 「異文化理解の基礎」または「現代社会の文化」を受講済み・受講中の学生は、授業の理解度が高まります。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、互酬、国家

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉症スペクトラム障害を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症スペクトラム障害とは①自閉症の特性【自閉症観の変遷】
- 第6回：自閉症スペクトラム障害とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉症スペクトラム障害支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉症スペクトラム障害支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
中村 英樹 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
水野 陽一 / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			共生の作法	LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 民主主義の限界と立憲主義
- 第 3 回 政教分離と叙任権闘争
- 第 4 回 変化する社会と行政
- 第 5 回 国際社会と法—国際行政の観点から
- 第 6 回 刑罰とは何か
- 第 7 回 刑事裁判とは何か
- 第 8 回 契約とは何か
- 第 9 回 担保とは何か
- 第10回 商取引における不正競争と法
- 第11回 民事訴訟とは何か
- 第12回 「働く=労働」について考える
- 第13回 法と道徳について
- 第14回 家族とは何か
- 第15回 まとめ

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がますます深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方
			LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しません。毎回、レジユメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40 % 定期試験... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジユメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'19』信山社(1,000円)をお勧めします。

法律の読み方 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
入門・社会調査法（第3版）：2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
- 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方と方法
- 第9回 実査とデータファイルの作成
- 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第11回 検定の考え方
- 第12回 平均値の差の検定
- 第13回 変数間の関連1【クロス表】
- 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】
- 15回 予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力	
		現代社会と新聞ジャーナリズム
		SOC001F

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学び、情報を評価・識別する力（メディアリテラシー）を身につけることを目的としています。同時に、「新聞」を通して現代社会の諸側面について理解を深めることも目指します。

インターネットが普及した中で、情報や言論の発信・伝達役としての「新聞」の存在感は低下しているという指摘も聞かれます。しかし、社会に流布している情報の出所の多くは新聞です。また、ネットメディアが独自に発する情報は、断片的であったり、信頼性に欠けていたりすることも少なくありません。

新聞社は、24時間、洪水のように情報が飛び交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に、①社会の出来事を客観的に伝える、②その背景や問題点を深く掘り下げる、③社会が抱える課題の解決策を提供する、④権力者などの不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守ることに取り組んできました。この講義では、そうした新聞社が培ってきた長い経験と実績を基盤に、新聞社のデスクや第一線の記者などが取材や報道体験を話すことを通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法などについて考えます。なお、本講義は西日本新聞社の提供講座です。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目から14回目までは、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務めます。ただし、事件・事故の発生や講師の都合などにより順番・内容が変わることがあります。

【第1回】オリエンテーション / 電子メディアへの挑戦 (編集企画委員長 / 西日本新聞メディアラボ メディア事業担当部長)

【第2回】災害被災者に寄りそう (社会部記者)

【第3回】地方の視線で政治と向き合う (都市圏総局デスク)

【第4回】アジアと九州を読み解く (国際部デスク)

【第5回】調査報道・キャンペーン報道 (西日本新聞メディアラボ デジタル報道部デスク)

【第6回】新聞デザインの展開 / ビジュアル発信を目指して (デザイン部デスク)

【第7回】地域文化をみつめて / 文化部記者の仕事 (文化部デスク)

【第8回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)

【第9回】九州経済をどう見るか (経済部デスク)

【第10回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (こどもタイムズ編集長)

【第11回】スポーツ報道の世界 / 運動記者は何を伝えるか (運動部デスク)

【第12回】新聞の作り方・読み方 (編集センターデスク)

【第13回】暮らしの視点で社会見つめる (生活特報部長)

【第14回】北九州の現場から (北九州本社編集部)

【第15回】社会学者は新聞をどのように「使う」のか (稲月)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回提出が必要です)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。
詳細は第1回目の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞や雑誌などに目を通し、現代社会や地域が直面する課題やその解決の方法について考えてください。(必要な学習時間の目安は、90分以上。)

履修上の注意 /Remarks

「成績評価の方法」にも記したように、この授業では、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とします。就職活動や実習などで欠席する予定がある者はよく考えて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてください。

西日本新聞社の記者・デスクが、取材や報道の体験等をもとに、現代社会の諸問題、新聞の役割、新聞コンテンツの活用法等について解説する(西日本新聞社の提供講座)。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会、実務経験のある教員による授業

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人々での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 『都市』はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市開発 (再開発)
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / 地域共生教育センター, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年(2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
							○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		

地域防災への招待	SSS001F
----------	---------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害を「自分ごと」としてとらえる（北九大・南）
- 2 気象と地震（北九州市危機管理室又は福岡管区气象台）
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 産官学連携による消防技術の革新（北九大・上江洲）
- 8 組織の防災能力見える化と改善のための訓練（北九大・加藤）
- 9 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大・城戸）
- 10 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大・二宮）
- 11 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 12 大学生にもできる防災：災害ボランティア活動（地域共生教育センター）
- 13 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 14 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 15 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師）

なお、最後の3時限分は、北九州市が主催する大学生を対象とした防災講座に合わせて実施予定。
(7月の土曜日に実施。小倉駅周辺の会場を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
北方 - ひびきの間での遠隔講義を実施予定のため、受講人数制限あり。
最後3回分の講義は、7月に1回小倉駅周辺の会場に集まり実施予定。交通費は受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Role of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるとして		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第7回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第9回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回	グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 9回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 10回 グローバル化と人材(1)【JIT】【海外生産】【熟練】
- 11回 グローバル化と人材(2)【派遣・請負】【OJT】【Off-JT】
- 12回 国際労働移動(1)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と財政】【移民の経済的同化】【日本における外国人労働の受け入れ】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題(祖国解放のための暴力使用はテロか?)
②テロの犯罪性の問題(佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか?)
③テロの政治性の問題(テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか?)
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ(国粋主義、民族解放)
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場(1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル)
反米テロの登場(TWA機ハイジャック)
補論(ハイジャックとは何か)
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場(日本赤軍、ロッド空港事件)
劇場型テロの登場(ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
		国際社会と日本	IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 グローバル化するK-POP
- 3 韓国について概観
- 4 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 5 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I(外部講師)
- 7 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 8 日本における「韓流」史
- 9 韓国人の名字と名前①【名字について】
- 10 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 11 韓国の歴史
- 12 現代韓国社会と文化の特徴II(外部講師)
- 13 日韓の食文化について考える
- 14 現代韓国を知るVTR視聴/解説
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(出席レポートや討論への参加)40%
中間レポート20%
期末テスト40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までには予め毎回のテーマについて参考文献を読み、授業終了後には各自の「考え」をまとめること

履修上の注意 /Remarks

- 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。(チャイム以降の入室は遅刻とみなす。遅刻3回をもって1回の欠席とカウントする)
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		エスニシティと多文化社会	
		IRL001F	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 10回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 12回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 13回 「想像の共同体」の読み方
- 14回 共存のための区切り：マレーシアの民族概念
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 「東アジア」という視点
- 3回 日本の近代と国民国家の歴史観
- 4回 中国・韓国から見たアジアの近代
- 5回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 6回 新渡戸稲造の『武士道』
- 7回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 8回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 9回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 10回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 11回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 12回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 13回 「国語」とは何か
- 14回 網野善彦と日本史の多様性
- 15回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平の登場 -
- 第8回 政治との関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立・協調 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「憲法改革」の頓挫
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、映像等を交えながら、世界と日本の状況を対比させ考えていく。その過程を通じて現代世界の特徴について学んでいく。対象となるのは、第2次世界大戦前から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション（伊野担当）。【オリエンテーション】
- 第2回：第2次世界大戦以前の世界（伊野担当）。【世界大戦前の世界】
- 第3回：第2次世界大戦以前の日本（小林担当）。【世界大戦以前の日本】
- 第4回：第2次世界大戦と世界（伊野担当）。【第2次世界大戦】【世界】
- 第5回：第2次世界大戦と日本（小林担当）。【第2次世界大戦】【日本】
- 第6回：1950～60年代の世界（伊野担当）。【1950～60年代】【世界】
- 第7回：1950～60年代の日本（小林担当）。【1950～60年代】【日本】
- 第8回：1970年代の世界（伊野担当）。【1970年代】【世界】
- 第9回：1970年代の日本（小林担当）。【1970年代】【日本】
- 第10回：1980～90年代の世界（伊野担当）。【1980～90年代】【世界】
- 第11回：1980～90年代の日本（小林担当）。【1980～90年代】【日本】
- 第12回：現代の世界（伊野担当）。【現代】【世界】
- 第13回：現代の日本（小林担当）。【現代】【日本】
- 第14回：現代の世界再考（伊野担当）。【現代世界】【再考】
- 第15回：まとめ。【まとめ】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
- 第13回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

西欧における倫理思想の変遷を哲学・宗教・演劇・映画などを手がかりに読み解いてゆく。本授業は2年ごとに内容を入れ替えており、古代を中心とするか、近代を中心とするかで議論のポイントが異なってくる。今年度は古代世界における思想の展開に力点を置く。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、倫理的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの倫理(1)【悲劇の誕生】
- 3回 古代ギリシャの倫理(2)【悲劇の生成】
- 4回 古代ギリシャの倫理(3)【悲劇の実例】
- 5回 古代ギリシャの倫理(4)【道徳哲学の誕生】
- 6回 古代ギリシャの倫理(5)【道徳哲学の完成】
- 7回 古代ローマの倫理
- 8回 古代ユダヤ教の倫理(1)【宗教民族史】
- 9回 古代ユダヤ教の倫理(2)【信仰の継承】
- 10回 ローマの中のユダヤ(1)【権力と隷属】
- 11回 ローマの中のユダヤ(2)【愛と憎悪】
- 12回 ローマの中のユダヤ(3)【新時代の萌芽】
- 13回 古代キリスト教の倫理(1)【イエスの思想】
- 14回 古代キリスト教の倫理(2)【原始キリスト教】
- 15回 古代キリスト教の倫理(3)【教義の生成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方 —循環・進歩・システム—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」 —世界史における明治日本—
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 3回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 4回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 5回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 6回 前漢前期(3) -呂后-
 - 7回 前漢中期(1) -武帝-
 - 8回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 9回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 10回 前漢後期(1) -元帝-
 - 11回 前漢後期(2) -成帝-
 - 12回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 13回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 14回 後漢の光武帝と「漢委奴国王」
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・ 70% 日常の授業への取り組み・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生の名に恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門 改訂」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第6版』(岩波書店、2015年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
- 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 レッツ・スポーツ(講義)【計画・企画】
- 14回 レッツ・スポーツ(実習)【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウエイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
 この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks
 授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 - 3回 ソフトバレーボール(実習)
 - 4回 ストレッチの理論(講義)
 - 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
 - 6回 ふとる・やせる、適度な運動とは(講義)【体脂肪】
 - 7回 軽運動、エアロビクス・ダンス(実習)
 - 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
 - 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
 - 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
 - 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
 - 12回 これからの運動②(体力の維持・ 向上、継続性)(講義)
 - 13回 レッツ・ スポーツ(講義)【計画・ 企画】
 - 14回 レッツ・ スポーツ(実習)【主体性】
 - 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review
 理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自立した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、今後の人生の指針となる考え方の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人マナーについて
- 3回 北九州市での生活について
- 4回 犯罪防止について ~被害者や加害者にならないように~
- 5回 自転車の交通安全について
- 6回 薬物乱用防止について ~飲酒との向き合い方~
- 7回 消費者トラブルについて
- 8回 ブラックバイトについて
- 9回 大学生とお金について
- 10回 いざという時のための消防と救急について
- 11回 災害への備えについて
- 12回 ハラスメント防止とデートDVについて
- 13回 地域で生きることについて
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(ほぼ毎回実施する課題レポートを含む) ... 70%
まとめレポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、まとめておくこと。(必要な学習時間の目安は、60分。)振り返り内容は、レポートとして提出してもらうことがある。

履修上の注意 /Remarks

入学式で配布される資料や、北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照しておいてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

関連する自治体職員などが、大学生活を送る上での自己管理に関して解説する。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 導入実技
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
 - 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
 - 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 10回 戦術の説明
 - 11回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 12回 ダブルスの陣形の解説
 - 13回 ダブルスゲームの実践
 - 14回 ダブルスゲームのまとめ
 - 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより充実させるための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

我が国は少子高齢化に対峙し、生産年齢人口をカバーすることが急務となっています。その対策のため、未就業の状態にある人々の就業支援や、外国人労働者の受け入れに加え、近年注目されているのがRPA (Robotic Process Automation) です。RPAとは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉で、「デジタルレイバー (Digital Labor) 」や「仮想的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピューター上で再現しようとするAIや、AIが反復によって学ぶ「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の自動化を指します。つまり、従来の高度成長時代に基本を置く、一般的なコミュニケーション能力や主体性、チームワークなどの力の習得だけでなく、「AIやロボットには代替されない力」の習得が大学に課せられていると言えるでしょう。

では、その「AIやロボットには代替されない力」とは何でしょうか。それは創造力です。AIやロボットは指示されたことしかできないのだから。

では、創造力を大学時代にどう身に付ければいのでしょうか。創造力とは解決すべき課題にぶち当たった時、その課題と過去の学びとの関連性を見出す力です。具体的には、課題を一人で取り組むことはほぼないので「多様な人々と協働する力」は欠かせません。また、「幅広い視野・柔軟性」がなければ、課題を解決してくれるかもしれない新しい知識を得ることはできないし、「失敗を恐れず挑戦する力」がなければ、課題を解決する上で必要な能力を高めることもできません。そして「経験を振り返る力」がなければ、経験からの学びを記憶することはできません。さらに答えのない課題を解決する経験に取り組み、その課題と過去の学びとの関連性を見出す経験を積んで、「答えのない課題を解決する力」を高めなくてはならないのです。

大学時代は人生で最も時間を自由に使える時代です。自らが自らを成長させる機会を創り出し、試行錯誤を繰り返して、これら5つの力を身に付ける時間はたくさんあるのです。以上を念頭に、創造性を発揮する土台作りを本授業で学んでください。

< 進め方と目標 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト (ロールモデル) との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント (ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど) の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川 恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
スプツニ子! 『はみだす力』宝島社
アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
○中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③打ち合わせ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジヨブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できる

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

だけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか？」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

実務経験のある教員による授業

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
			コミュニケーション実践
			CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。

教科書 /Textbooks

レジユメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュボトム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思っております。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事 I
			CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルデイ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、カの源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製菓所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究、実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W. ヤング 『アイデアのつくり方』 CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治 『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』 CCCメディアハウス
- 加藤昌治 『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』 CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
- 金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
- J.D. クランボルツ、A.S. レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉 『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』 SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉 『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』 SBクリエイティブ
- スブツ二子! 『はみだすカ』 宝島社

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%
- 最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%
- 最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。
- ※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。
- ※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体験することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3~5団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ、実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
2019年度も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開いています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。
人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備も、そうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加貢献 (50点) + 活動報告書 (50点) = 100点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習Iの履修対象者は、原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IIIの履修対象者は、原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

プロジェクト演習II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。	
	コミュニケーション力			
			プロジェクト演習Ⅲ	CAR380F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習Ⅰの履修対象者は、原則2年次です。
- ※プロジェクト演習Ⅲの履修対象者は、原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

プロジェクト演習Ⅲ【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会人との交流をヒントに、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロジェクト演習Ⅳ	CAR381F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポート（報告書）を提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 最終レポート（報告書）作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポート（報告書）での総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。

履修上の注意 /Remarks

- ※プロジェクト演習IIの履修対象者は原則2年次です。
- ※プロジェクト演習IVの履修対象者は原則3年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。

プロジェクト演習Ⅳ【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介、稲月 正

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「流行語大賞や10大ニュースを予測してみよう」など、新聞を活用した演習やクイズを実施します。文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。新聞を授業時に配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け（※気になる記事を選んで作る「まわし読み新聞」は毎回作成します。）
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方（基礎編）
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方（応用編）
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します（100%）。詳しくは1回目の授業で説明します。

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第9回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【100円ショップ】『徹底解剖! 100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【フェアトレード】『もっと! フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第12回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第13回 グループ・ワーク
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション2、まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回のレポート (20%)、グループによるプレゼンテーション (80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、エシカル消費を促進するためのアイデアについて、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。	
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。	
			地域の文化と歴史	HIS170F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して、基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、北九州市等の地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察するきっかけをつかむことを目指す。
授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず地域外出身者にとっても、学生生活や就職、社会での諸活動の充実に繋がる学びとなる内容を指向する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財 ～「日本遺産」について

※ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。第 1 回授業において概ね確定した計画を提示する予定である。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立考古博物館、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動等にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたいと考える。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：下関の産業・社会 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第5回：下関市の都市戦略 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第6回：北九州地域の貿易現状 【関連機関等の専門家による説明】
- 第7回：地域と情報発信力 【関連機関等の専門家による説明】
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の企業④ 【地元企業関係者等による説明】
- 第12回：地域の起業環境 【関連機関等の専門家による説明】
- 第13回：北九州地域の都市戦略としての観光 【シンクタンク等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめー地域の人口と未来

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・各講義ごとのシヨートレポート(14回)：100%

地域の社会と経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・ 授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			地域のにぎわいづくり	RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域に求められるにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2019年度授業の前半は、にぎわいづくり政策の意義や課題等についてゲスト講話や事例紹介などを通じて学び、政策に対する学生の意見発表も行う。

授業の後半は、「スタジアムをいかした街の活性化」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州（小倉駅から徒歩約7分）（愛称：ミクスタ）を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、ゲスト講話やフィールドワークも実施する。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州（Jリーグ）等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
その他、授業中に適宜紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス ～講義の目的、履修上の注意など
- 第 2 回 にぎわいづくり政策の意義①【観光政策】
- 第 3 回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致政策】
- 第 4 回 北九州市の観光・MICE誘致政策に関する意見発表
- 第 5 回 にぎわいづくり政策の意義③【スポーツイベント政策】
- 第 6 回 にぎわいづくりとスタジアム(スタジアム・アリーナ改革)
- 第 7 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①
【試合前の各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 8 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②
【試合中の来場者動向等の状況視察】
- 第 9 回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦③
【試合後の観客の小倉駅周辺回遊動向等の状況視察】
- 第 10 回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 11 回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 12 回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 13 回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 14 回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 15 回 集客プラン発表会

※ 受講者数、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。

※ 第7～9回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は11月24日(日)を予定する。当日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。11月24日、12月1日の双方を欠席することは原則として認めない。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とする。

※ 以下の日にちは、北方・ひびきのキャンパスの一方が金曜休講日等の指定があるため、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

→ 9月27日、11月8日、12月26日、1月17日

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等) : 35%
- 集客プランの内容に対する評価(外部審査員等による評価) : 40%
- 期末レポート : 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題への取り組み(プラン作成)に向けては、講義時間以外において各自による情報収集・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換が求められる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むことが必要となる。

また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は11月24日(日)を予定する。その日に欠席するは12月1日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において提示する。

フィールドワークでは試合観戦料(500～1,500円程度)および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。

グループワークを行う班はクジ引きで決定する予定であるが、受講者数の状況等に応じ変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生の皆さん自身が「にぎわいづくりプラン」(2019年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン)をグループワークで検討することにより、皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員をゲストに招くと共に北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施し、にぎわいづくりプラン作成を指導する。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			北九州市の都市政策	PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 都心・副都心のまちづくり【紫川マイタウンマイリバー事業、再開発事業】
- 第6回 大規模未利用地を活かしたまちづくり【土地区画整理事業、城野ゼロカーボン地区、エリアマネジメント】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、さまざまな業界の地域づくり、まちづくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。

実際に講義していただく企業・団体については、本講義のmoodleに掲載予定です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2018)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で書くミニレポート・・・60%
- 最終レポート・・・30%
- 質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。
		まなびと企業研究II CAR370F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた、就職活動のプランニング」です。具体的には、北九州市や下関市の企業団体をリサーチしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、自らのキャリア形成に繋がめます。

<進め方> 形式は問題基盤型学習 (Problem-based-Learning) です。履修人数にも寄りますが、グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】動画セッション

あらかじめ視聴する動画を指示しますので、各自以下の2点についてまとめておいてください。

1. 動画から学んだこと、
2. その学びを就職活動にどう活かすか? 期間は1週間です。

【グループ課題】シナリオセッション

課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。

役割は、1. 文献収集、2. 物語を練る、3. パワポ作成、4. 発表練習も含めた管理など。

授業でパワーポイントを使ってプレゼンします。発表は全員で行ってください。期間は2週間です。

【フィールドワーク課題】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。北九州市や下関市の企業団体を一つ選び、取材し、

取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。期間は3カ月です。

<目標> 大学時代の活動を自らのキャリア形成につなげる理論を学び、それを日々実践することによって、本授業の目的を達成するために、大学時代における自らの活動を、自らが輝ける豊かな将来のつながるようにキャリア・プランニングすること。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社
- 金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
- 金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
- 渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
- エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
- 中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイアモンド社
- 中原淳・長岡健 『ダイアローグ 対話する組織』 ダイアモンド社
- 高尾隆・中原淳 『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』 三省堂
- モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
- 香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
- 松尾睦 『「経験学習」入門』 ダイアモンド社
- 児美川孝一郎 『キャリア教育のウソ』 筑摩書房
- デイヴィッド A.プライス 『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』 早川書房
- 本田由紀 『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』 筑摩書房
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイアモンド社
- 赤尾勝己 『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』 世界思想社
- 嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 田尾雅夫 『モチベーション入門』 日本経済新聞社
- 山崎亮 『コミュニティデザイン:人がつながるしくみをつくる』 学芸出版社
- スブツニ子! 『はみだすカ』 宝島社
- アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』 ダイアモンド社
- リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』 プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュー スコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』 東洋経済新報社
- 見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』 東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 動画セッション① 「時間は限りあるもの」
- 3回 シナリオセッション① アイデンティティ (自分を知る)
- 4回 動画セッション② 「やる気に関する驚きの科学」
- 5回 シナリオセッション② 計画された偶発性
- 6回 動画セッション③ 「成功のカギは、やり抜く力」
- 7回 シナリオセッション③ インターンシップの意義や目的
- 8回 動画セッション④ 「自動化で人間の仕事はなくなるのか？」
- 9回 シナリオセッション④ アイデアの作り方
- 10回 動画セッション⑤ 「将来に備えるために今できること」
- 11回 動画セッション⑥ 「未来を語る(前編・後編)」
- 12回 シナリオセッション⑤ 本気の企業団体研究(相手を知る)
- 13回 動画セッション⑦ 「社会で働く上で必要なこと」
- 14回 シナリオセッション⑥ 新しい大学生の就職活動
- 15回 最終プレゼンテーション: フィールドワークで何を学んだのか?

※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%
- ※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチの参加が必須となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げてください。
- 【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- 【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、将来のキャリアプランについていろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、就職活動への見通しを立て、自信をもって本番を迎えられるようにします。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報メディア演習【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力(メディア・リテラシー)を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。また、場合によっては、グループを組んでひとつのテーマに取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながり再設計する -、青弓社、2019年、1,800円(税抜)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
- 3回目：ディスカッションのまとめ方1【ザ・マインドマップ】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
- 9回目：ディスカッションのまとめ方2【ブレインストーミング】【KJ法】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

「情報表現」を先に受講して、情報収集、情報加工、情報発信に関する知識や技術について学んでいると受講しやすい。
「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容がある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、毎回のようにグループディスカッションを展開する予定である。ディスカッションには積極的に参加し、グループ活動に貢献してもらいたい。また、受講者数が多数の場合は、受講者数調整を行う場合もある。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、ザ・マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法

英語I (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの公式問題集を演習として取り込みます。

教科書 /Textbooks

『Quick Exercises for the TOEIC L & R Test 400 Listening : 切り取り提出式スコア別TOEIC L&R 徹底対策ドリル400 リスニング編』 Matthew Wilson, 鶴岡公幸著 松柏社 ¥1300+税 略号=748

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEIC概要 (予習60分、復習60分)
- 3回 TX 旅行 (予習60分、復習60分)
- 4回 TX 食べ物 (予習60分、復習60分)
- 5回 TX オフィスにて (予習60分、復習60分)
- 6回 TX ホテル (予習60分、復習60分)
- 7回 TX レクリエーション (予習60分、復習60分)
- 8回 TX 広告 (予習60分、復習60分)
- 9回 復習 TOEIC習熟度確認 (予習60分、復習60分)
- 10回 TX 仕事 (予習60分、復習60分)
- 11回 TX 交通 (予習60分、復習60分)
- 12回 TX 文化 (予習60分、復習60分)
- 13回 TX 天候 (予習60分、復習60分)
- 14回 TX 教育 (予習60分、復習60分)
- 15回 復習 (復習60分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) 与えられた課題は必ず事前に学習し授業に臨んでください。
事後学習... (復習) 授業で指定された範囲は必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Mathew Wilson 他著 「Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 400 リスニング編」松柏社 ¥1404
田中 保 他著 「Make It Clear (基本文法)」朝日出版社 ¥1600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Scene 1・ 2 / 文の要素
- 第3回 Scene 3・ 4 / 基本5文型
- 第4回 Scene 5・ 6 / 第1文型
- 第5回 Scene 7・ 8 / 動詞の種類
- 第6回 Scene 9・ 10 / 第2文型
- 第7回 Scene 11・ 12/ 名詞
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Scene 13・ 14 / 第3文型
- 第10回 Scene 15・ 16 / 代名詞
- 第11回 Scene 17・ 18 / 第4文型
- 第12回 Scene 19・ 20 / 第5文型
- 第13回 Scene 21・ 22 / 冠詞
- 第14回 Scene 23・ 24 / 関係詞 1
- 第15回 Scene 25・ 26 / 関係詞 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/ リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語II (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力（文法用語ではなく、英語という言語のルールを知り運用できること・語彙力（日英・英日に素早く転換できること、正しく発音できること）を鍛えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。

英語でコミュニケーションをとろうと思うなら、まずはインプットする力をつけましょう。そして大量にインプットしていきましょう。本授業はそのための多様な英語トレーニングを活用していきます。

授業はTOEIC (R) L&R テスト対策をしながら、TOEIC以上の英語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』LEVEL 1、Asahi Press 1700円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代の参考書があれば持参のこと

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業概要、グループわけ、アプリ紹介等)
- 2 . Unit 1 : Eating Out 文法 : 動詞 (1)
- 3 . Unit 2 : Travel 文法 : 動詞 (2)
- 4 . Unit 3 : Amusement 文法 : 動詞 (3)
- 5 . Unit 4 : Meetings 文法 : 代名詞
- 6 . Unit 5 : Personnel 文法 : 不定詞と動名詞 (1)
- 7 . Unit 6 : Shopping 文法 : 不定詞と動名詞 (2)
- 8 . Unit 7 : Advertisement 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(1)
- 9 . Unit 8 : Daily Life 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(2)
- 10 . Unit 9 : Office Work 文法 : 仮定法
- 11 . Unit 10 : Business 文法 : 分詞
- 12 . Unit 11 : Traffic 文法 : 関係詞
- 13 . Unit 12 : Finance and Banking 文法 : 接続詞
- 14 . Unit 13 : Media 文法 : 前置詞
- 15 . Unit 14 : Health and Welfare

英語II (済営 1 - I) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 : 20%
小テスト : 30%
期末試験 : 50%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストは毎週行いますので、事前準備を怠らないこと

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC L&Rテストの公式問題集を演習として取り入れます。

教科書 /Textbooks

『Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test Level 1：一歩上を目指す TOEIC Listening and Reading Test : Level 1』北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert著 朝日出版社 ￥1700+税 ISBN 978-4-255-15614-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』国際コミュニケーション協会
 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』国際コミュニケーション協会
 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』国際コミュニケーション協会
 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方、TOEIC習熟度確認
- 2回 unit 1 Eating out 動詞 (1) (復習60分、予習60分)
- 3回 unit 2 Travel 動詞 (2) (復習60分、予習60分)
- 4回 unit 3 Amusement 動詞 (3) (復習60分、予習60分)
- 5回 unit 4 Meetings 代名詞 (復習60分、予習60分)
- 6回 unit 5 Personnel 不定詞と動名詞 (1) (復習60分、予習60分)
- 7回 unit 6 Shopping 不定詞と動名詞 (2) (復習60分、予習60分)
- 8回 unit 7 Advertisement 名詞・冠詞・数量詞 (1) (復習60分、予習60分)
- 9回 復習 TOEIC習熟度確認 (復習60分、予習60分)
- 10回 unit 8 Daily Life 名詞・冠詞・数量詞 (2) (復習60分、予習60分)
- 11回 unit 9 Office Worik 仮定法 (復習60分、予習60分)
- 12回 unit 10 Business 分詞 (復習60分、予習60分)
- 13回 unit 11 Traffic 関係詞 (復習60分、予習60分)
- 14回 unit 12 Finance and Banking 接続詞 (復習60分、予習60分)
- 15回 復習 (復習60分)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、習熟テスト 20%、小テスト 20%、単語テスト 10%、授業への参加度 10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) 課題は必ず事前に学習して授業に臨んでください。
事後学習... (復習) 授業で指定された箇所は必ず学習してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語III (済営 1 - J) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - J

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PATHWAYS 2A

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

at present nothing from the library

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the class and class methodology
 Week 2: Begin chapter 1 in textbook
 Week 3: Continue with Chapter 1
 Week 4: Finish Chapter 1
 Week 5: Prepare first speech
 Week 6: Presentation of students' speeches
 Week 7: Begin Chapter 2 in Textbook
 Week 8: Continue with Chapter 2
 Week 9: Finish Chapter 2
 Week 10: Prepare second Speech
 Week 11: Presentation of students' speeches
 Week 12: Begin Chapter 3 in Textbook
 Week 13: Continue with Chapter 3
 Week 14: Finish Chapter 3
 Week 15: Conclude the class

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based 50% on participation, 30% on speeches and 20% on a final exam.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be given assignments in the textbook and they will be expected to complete the assignments before the next class. Students will be given speech topics in week 4 and week 9.

履修上の注意 /Remarks

Attendance is mandatory because the majority of the work will be done in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will have an opportunity to improve your writing and speaking skills in English as well as to have the potential to have a good time.

キーワード /Keywords

textbook, speech, presentation, attendance, writing, speaking

英語Ⅳ (済営 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor デール・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

PATHWAYS 2B

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

at present nothing from the library

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the class and class methodology
- Week 2: Begin chapter 6 in textbook
- Week 3: Continue with Chapter 6
- Week 4: Finish Chapter 6
- Week 5: Prepare first speech
- Week 6: Presentation of students' speeches
- Week 7: Begin Chapter 7 in Textbook
- Week 8: Continue with Chapter 7
- Week 9: Finish Chapter 7
- Week 10: Prepare second Speech
- Week 11: Presentation of students' speeches
- Week 12: Begin Chapter 8 in Textbook
- Week 13: Continue with Chapter 8
- Week 14: Finish Chapter 8
- Week 15: Conclude the class

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be based 50% on participation, 30% on speeches and 20% on a final exam.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be given assignments in the textbook and they will be expected to complete the assignments before the next class. Students will be given speech topics in week 4 and week 9.

履修上の注意 /Remarks

Attendance is mandatory because the majority of the work will be done in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You will have an opportunity to improve your writing and speaking skills in English as well as to have the potential to have a good time.

キーワード /Keywords

textbook, speech, presentation, attendance, writing, speaking

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare and review for each class about a total of 2 hours or more every week.

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686
Naoyuki Bamba / Katsuaki Oyama、SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L & R TEST INTERMEDIATE、金星堂、2,052円、ISBN: 9784764740907

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るところだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Unit 1 Travel / 金のフレーズ音読
Week 3: Unit 1 Review Quiz, Unit 2 Dining Out / 金のフレーズ語彙テスト pp. 10-31
Week 4: Unit 2 Review Quiz, Unit 3 Media / 金のフレーズ語彙テスト pp. 32-53
Week 5: Unit 3 Review Quiz, Unit 4 Entertainment / 金のフレーズ語彙テスト pp. 54-75
Week 6: Unit 4 Review Quiz, Unit 5 Purchasing / 金のフレーズ語彙テスト pp. 76-97
Week 7: Unit 5 Review Quiz, Unit 6 Clients / 金のフレーズ語彙テスト pp. 98-119
Week 8: Unit 6 Review Quiz, Unit 7 Recruiting / 金のフレーズ語彙テスト pp. 120-141
Week 9: Unit 7 Review Quiz, Unit 8 Personnel / 金のフレーズ語彙テスト pp. 142-163
Week 10: Unit 8 Review Quiz, Unit 9 Advertising / 金のフレーズ語彙テスト pp. 164-185
Week 11: Unit 9 Review Quiz, Unit 10 Meetings / 金のフレーズ語彙テスト pp. 186-207
Week 12: Unit 10 Review Quiz, Unit 11 Finance / 金のフレーズ語彙テスト pp. 208-229
Week 13: Unit 11 Review Quiz, Unit 12 Offices / 金のフレーズ語彙テスト pp. 230-251
Week 14: Unit 12 Review Quiz, Unit 13 Daily Life / 金のフレーズ語彙テスト pp. 252-271
Week 15: Unit 13 Review Quiz, Unit 14 Sales & Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%）及び期末試験（50%）に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (済 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。金のフレーズ語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習などを取り込む場合もあります。

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC(R) L&R TEST: PRE-INTERMEDIATE
レベル別 TOEIC(R) L&Rテスト実力養成コース：準中級編 ISBN978-4-7647-4089-1
金星堂 著者：溝口優美子/柳田真知子 ￥2,052

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要資料を配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 Unit 1: Travel	旅行に関する語句・表現	名詞 (可算名詞 不可算名詞)	オリエンテーション
第 2 回 Unit 2: Dining Out	レストランに関する食事・料理に関する語句・表現		形容詞 (名詞の修飾・補語)
第 3 回 Unit 3: Media	メディアに関する語句・表現		副詞 (動詞・形容詞の修飾)
第 4 回 Unit 4 Entertainment:	エンターテインメントに関する語句・表現		時制 (現在・過去・未来・現在進行形)
第 5 回 Unit 5: Purchasing	買い物に関する語句・表現		主語と動詞の一致 (3 単現のS)
第 6 回 Unit 6 Clients:	顧客との取引に関する語句・表現		能動態・受動態 (感情を表す表現)
第 7 回 Unit 7: Recruiting	求人・採用に関する語句・表現	動名詞・不定詞 (動詞・前置詞の後ろに続く)	
第 8 回 Unit 8: Personnel	人事に関する語句・表現	代名詞 (主格・所有格・目的格・所有代名詞)	
第 9 回 Unit 9: Advertising	広告・宣伝に関する語句・表現		比較 (比較級・最上級・as...as)
第 10 回 Unit 10: Meetings	会議に関する語句・表現		前置詞 (理由・譲歩・時・定型表現)
第 11 回 Unit 11: Finance	予算・費用に関する語句・表現		接続詞 (理由・譲歩・時)
第 12 回 Unit 12: Offices	オフィスに関する語句・表現		前置詞と接続詞の違いを学ぶ
第 13 回 Unit 13: Daily Life	日常生活に関する語句・表現		関係代名詞 (主格・目的格・所有格)
第 14 回 Unit 14: Sales & Marketing	営業・販売に関する語句・表現		語彙の結びつき (名詞・形容詞)
第 15 回 Unit 15: Events	イベント (セミナー・講習会) に関する語句・表現		語彙の結びつき (動詞・副詞)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の成績評価 (平常点 50% 学期末考査 50%)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第一回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学科目は予習科目です。辞書はいつでも、どこでも質問できる先生のような役目を果たしてくれるので、自宅での予習時には辞書を活用して語彙や文法等も調べましょう。

復習をして授業内容を整理しておこう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。
新Unitに入る時には予習テストを行います。従って授業には必ず予習をして臨まなくてはなりません。
予習テストの方法は第一回の授業で説明します。

授業時には辞書は必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学問に王道なし」

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力、（リスニング力）の向上を目指します。また授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

1 5 Topics for Tomorrow's World 宮本文 松柏社 (1900円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. 本文の読みを流暢になるまで練習する。
3. エッセイを深く味わう
4. リスニング
5. 作文

1回 オリエンテーション

- 2回 単語のテスト Unit 1 人工知能と高齢者介護
- 3回 単語のテスト Unit 2 中国経済
- 4回 単語のテスト Unit 3 プラスティック対策
- 5回 単語のテスト 復習 1~3
- 6回 単語のテスト Unit 4 人工知能と犯罪予測
- 7回 単語のテスト Unit 5 アメリカの肥満
- 8回 単語のテスト Unit 6 ウェールズのLGBT
- 9回 単語のテスト 復習 4~6
- 10回 単語のテスト Unit 7 自動運転車
- 11回 単語のテスト Unit 8 ミニマルな消費
- 12回 Special Unit 時代と安室奈美恵
- 13回 Unit 9 Fifa e ワールドカップ
- 14回 Unit 10 加工自撮り加工
- 15回 Unit 15 パーキンソン病のiPS細胞治療開始

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 25点 予習 10点 試験 ... 65点

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V (済 2 - D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週、予習を調べます。翌週の最初に、前の週の復習内容を口頭で質問します。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は基礎的な英語能力の定着を目的としながら、文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。
授業では新形式TOEIC® L&Rテスト問題対策の教科書を使用して「語彙」「文法」「英文」を3つの柱に基礎力をつけていきます。同時に各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST: PRE-INTERMEDIATE
早川幸治 / 番場直之 シリーズ監修
溝口優美子 / 柳田真知子 著
2000円 + 税、金星堂、2019年
ISBN978-4-7647-4089-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

英語V (済 2 - E) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明) Travel 名詞 (可算名詞・不可算名詞)
第2回	Dining Out 形容詞
第3回	Media 副詞
第4回	Entertainment 時制
第5回	Purchasing 主語と動詞の一致 (3単現のs)
第6回	Clients 能動態・受動態
第7回	Recruiting 動名詞・不定詞
第8回	Personnel 代名詞
第9回	Advertising 比較
第10回	Meetings 前置詞
第11回	Finance 接続詞
第12回	Offices 前置詞と接続詞の違い
第13回	Daily Life 関係代名詞
第14回	Sales & Marketing 語彙の結びつき① (名詞・形容詞)
第15回	Events 語彙の結びつき② (動詞・副詞) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。

平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

①音声ファイルを活用し、予習をして授業に臨みましょう。

②各Unitで間違えた箇所がある場合は、必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外にも英字新聞や英語ニュースを通してできるだけ多くの英語にふれるようにしましょう。

予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Listening & Reading Test（以下TOEICと略します）対策をします。使用するテキストは公式問題集で、実際のTOEICのテストに近いものです。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

授業では、単語のクイックレスポンス、英語の音の変化の聞き分け、シャドーイング、文法事項の学習と自動化トレーニング、パターンプラクティスなど英語力を高めるための各種トレーニングを行います。授業は「答え合わせ」の場所ではなく皆さんが英語力を鍛える場所です。したがって、個人、ペア、グループ、クラス全体とさまざまなレベルでトレーニング活動をしていきます。

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC（R）L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4』国際ビジネスコミュニケーション協会、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 3』国際ビジネスコミュニケーション協会、2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30 %
課題提出 20 %
期末試験 50 %

受講生の最終成績はTOEICのスコアを入れて計算されます。詳しくは初回のガイダンスの授業で説明しますので、かならず受講をするように。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に単語テストの準備と復習をすること。単語テストは「分かっている」レベルではなく、一秒以内に日英、英日ですばやく転換できるレベルを要求するものです。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済 2 - B /済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習等を取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

TOEIC(R) LISTENING AND READING TEST への総合アプローチ 一改訂新版一
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC (R) LISTENING AND READING TEST - Revised Edition
成美堂 著者：吉塚弘/Michael Schauerte ISBN978-4-7919-6030-9 ￥2,376

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要資料を配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	オリエンテーション	授業内容・成績の説明
第 2 回	Unit 1: Restaurant	人称代名詞
第 3 回	Unit 2: Entertainment	不定代名詞と再帰代名詞
第 4 回	Unit 3: Business	現在・過去の時制
第 5 回	Unit 4: Office	現在完了
第 6 回	Unit 5: Telephone	時・期間を表す前置詞
第 7 回	Unit 6: Letter & E-Mail	位置・場所を表す前置詞
第 8 回	Unit 7: Health	数量形容詞
第 9 回	Unit 8: Bank & Post Office	自動詞と他動詞
第 10 回	Unit 9: New Products	形容詞を作る接尾辞
第 11 回	Unit 10: Travel ①	副詞を作る接尾辞
第 12 回	Unit 11: Travel ②	分詞構文
第 13 回	Unit 12: Job Applications	比較
第 14 回	Unit 13: Shopping	受動態
第 15 回	Unit 14: Education	関係代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の評価（平常点 50% 学期末考査 50%）
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第一回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (済 2 - B) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学科目は予習科目です。自宅での予習時には辞書を活用して語彙の意味だけでなく文法も調べましょう。つまり辞書は「いつでも、どこでも」質問出来る先生のような役目を果たしてくれます。

復習をして授業内容を整理しておこう。

履修上の注意 /Remarks

新Unitに入る時には必ず予習テストをします。従って予習をして授業に臨まなくてはなりません。
予習テストの方法は第一回の授業で説明します。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。
授業時には辞書必携です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学問に王道なし」

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力、（リスニング力）の向上を目指します。また授業の一部にTOEIC(R) L & Rテストの演習などを取り込む場合があります

教科書 /Textbooks

Challenges of Global Enterprises Kayoto Shimono 金星堂（2100円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. 本文の読みを流暢になるまで練習する。

3. エッセイを深く味わう 4. リスニング

1回 オリエンテーション

2回 単語のテスト Unit 1 Zara's Recipe

3回 単語のテスト Unit 2 Airbnb's Challenge

4回 単語のテスト Unit 3 Ecosystem in Facebook

5回 単語のテスト Unit 4 Adidas

6回 単語のテスト Unit 5 Toyota Human-Powered

7回 単語のテスト Unit 6 Starbucks

8回 単語のテスト Unit 7 MacDonald's Methods

9回 単語のテスト Unit 8 Ted Evoles

10回 単語のテスト Unit 9 Amazon

11回 単語のテスト Unit 10 Sony

12回 Unit 11 IKEA

13回 Unit 12 Google

14回 Unit 13 Walmart

15回 Unit 14 Disney

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト...25点 予習10点 試験...65点

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週、予習を調べます。翌週の最初に、前の週の復習内容を口頭で質問します。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備 CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文を訳してくる。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初回の授業で、指定席を決めます。授業の説明もするので、必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語VI (済2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済2-D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は引き続き、基礎的な英語能力の定着を目的としながら、文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。
新形式TOEIC® L&Rテスト問題対策の教科書を使用してTOEICに頻出の「語彙」やフレーズを覚え、基礎力をつけます。同時に各Unitで全てのPartの練習問題に取り組むことを通じてTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。適宜、小テストを行います。

教科書 /Textbooks

PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST –Revised Edition–
石井隆之 / 山口修 / 上田妙美 / 梶山宗克 / Joe Ciunci 著
2200円 + 税、成美堂
ISBN9784791934195

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Studying Abroad (留学)
- 第2回 International Conference (国際会議)
- 第3回 Holidays (休日)
- 第4回 Leisure (娯楽)
- 第5回 Restaurant (レストラン)
- 第6回 Online Shopping (買い物)
- 第7回 Global Warming (地球温暖化)
- 第8回 Websites (ホームページ)
- 第9回 Workplace (職場)
- 第10回 Nursing Care (介護)
- 第11回 Global Trading (貿易)
- 第12回 Eco-Friendly Economy (環境に優しい経済)
- 第13回 Business Trips (出張)
- 第14回 Business Trips (出張)
- 第15回 Hybrid Cars (ハイブリッド車)
まとめ

英語VI (済 2 - D) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①音声ファイルを活用し、予習をして授業に臨みましょう。
- ②各Unitで間違えた箇所がある場合は、必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して出来るだけ多くの英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

英語VI (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 済 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service、公式TOEIC Listening & Reading 問題集 4、国際ビジネスコミュニケーション協会、3,024円、ISBN: 9784906033546

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN:9784023316843
小石裕子、TOEIC TEST 英単語出るところだけ！、株式会社アルク、1,944円、ISBN: 9784757428430
TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、961円、ISBN: 9784023315686

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Part 1, Part 2 (1)
Week 3: Part 2 (2)
Week 4: Part 5 (1)
Week 5: Part 5 (2)
Week 6: Part 6
Week 7: Part 7 (1)
Week 8: Part 7 (2)
Week 9: Part 3 (1)
Week 10: Part 3 (2)
Week 11: Part 4 (1)
Week 12: Part 4 (2)
Week 13: Part 4 (3)
Week 14: Listening Section Review
Week 15: Reading Section Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) 及び期末試験 (50%) に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語VI (済 2 - E) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答し、学習してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。予習・復習の際、教科書に出てきた知らない単語・フレーズは、日本語の意味を辞書で調べて、単語・フレーズ・日本語の意味を語彙ノートに書き溜めていくこと。各授業の最初に語彙ノートを見せてもらいます。空き時間に語彙ノートを使って学習ができます。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済 2 - A / 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3A Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56259-1 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course Introduction: Meeting People
- Week 2: Unit 2: Mother Nature – Cycle of Life
- Week 3: Speaking Skills: Cloning an animal from an adult cell
- Week 4: Listening and Video Activities – Turtles Under Threat
- Week 5: Group Discussion
- Week 6: Presentation Preparation
- Week 7: Presentation
- Week 8: Unit 3: On the Move – Human Migration
- Week 9: Speaking Skills: A Lecture About Migration
- Week 10: Listening and Video Activities – What Ellis Island Means Today
- Week 11: Group Discussion
- Week 12: Presentation Preparation
- Week 13: Presentation
- Week 14: Unit 5: Making a Living, Making a Difference
- Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits: 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester: 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format: 講義 / Lecture
 クラス /Class: 済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any part of the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

英語VII (済 2 - B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 済 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 3A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase & Lee, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56259-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Elevator Pitch – My new app
- 5回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 6回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 7回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 8回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 9回 Colonizing Mars Presentation Preparation
- 10回 Colonizing Mars Presentations
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Review and Final Exam Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
授業形態 /Class Format 講義 / Lecture
クラス /Class 済 2 - D / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clear learning outcomes and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. The course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education
- 第3回：Personal Stories
- 第4回：Style & Fashion
- 第5回：Presentation 1
- 第6回：Life Stories
- 第7回：Our World
- 第8回：Getting Organized
- 第9回：Presentation 2
- 第10回：Personalities
- 第11回：Environment
- 第12回：Relationships
- 第13回：Presentation 3
- 第14回：Music
- 第15回：On Vacation

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation, homework assignments and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by the teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

英語VII (済 2 -D) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday communication skills

英語VII (済 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

基本的な英語力を身につけ、相互理解を促進するための能力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

World Class 2A (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方の説明と諸注意
- 第 2 回 Language and Life
- 第 3 回 Language and Life
- 第 4 回 Money Talks
- 第 5 回 Money Talks
- 第 6 回 Bright Lights, Big Cities
- 第 7 回 Bright Lights, Big Cities
- 第 8 回 Being Yourself
- 第 9 回 Being Yourself
- 第 10 回 Being Yourself
- 第 11 回 Mystery Solved
- 第 12 回 Mystery Solved
- 第 13 回 New Horizon
- 第 14 回 New Horizon
- 第 15 回 New Horizon

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は受講の必須条件。予習の段階で自分で使えそうな語彙や表現をピックアップしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし

英語VII (済 2 - E) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

Enjoy and improve yourself.

英語VIII (済 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次 / 2学期 / Semester: 2学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 済 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語Ⅶ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
 The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any part of the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques 1
- Week 8 Control Techniques 2
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting 1
- Week 11 Charting 2
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 済 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 3B: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase & Lee, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56260-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Introductions
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Environmental Problem Presentation Preparation
- 7回 Environmental Problem Presentations
- 8回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 9回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 10回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 11回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 12回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 13回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 14回 Personality and Emotions Research Preparation
- 15回 Personality and Emotions Research Presentations and Test Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 25%, Homework 10%, Presentations 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (済 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 済 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clear learning outcomes and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. The course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 4 by J.C Richards & D. Bohlke ISBN 9781108559898

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Stories in the News
- 第3回：Communicating
- 第4回：Food & Drink
- 第5回：Presentation 1
- 第6回：The Right Thing to Do
- 第7回：Travel & Tourism
- 第8回：The way we are
- 第9回：Presentation 2
- 第10回：Ways of Thinking
- 第11回：Lessons in Life
- 第12回：Can you believe it?
- 第13回：Presentation 3
- 第14回：Perspectives
- 第15回：Solutions

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation, homework assignments and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

Check the Moodle site for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday communication skills

英語VIII (済 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase and Christien Lee / Pathways 3B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN: 978-1-337-56260-7 / 2,970 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction: Meeting People
Week 2: Unit 7: Inspired to Protect
Week 3: Speaking Skills: Considering Other Views
Week 4: Listening and Video Activities
Week 5: Group Discussion
Week 6: Presentation Preparation
Week 7: Presentation
Week 8: Unit 9: Uncovering the Past
Week 9: Speaking Skills: Evaluating and Reflecting
Week 10: Listening and Video Activities
Week 11: Group Discussion
Week 12: Presentation Preparation
Week 13: Presentation
Week 14: Unit 10: Emotions and Personality
Week 15: Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please bring a lined notebook size A4 or B5 for your weekly journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition) 桐原書店 ISBN 9784342552632 1944円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------------|--------------------------|
| 1回 | はじめに 英語を学ぶということ | |
| 2回 | 聴解 (単語と文法の力をつける①) | 読解 (単語と文法の力をつける①) |
| 3回 | 聴解 (単語と文法の力をつける②) | 読解 (単語と文法の力をつける②) |
| 4回 | 聴解 (単語と文法の力をつける③) | 読解 (単語と文法の力をつける③) |
| 5回 | 聴解 (単語と文法の力をつける④) | 読解 (文脈を考える①) |
| 6回 | 聴解 (英語の音に注目する①) | 読解 (文脈を考える②) |
| 7回 | 聴解 (英語の音に注目する②) | 読解 (文脈を考える③) |
| 8回 | 聴解 (英語の音に注目する③) | 読解 (言語外の知識を利用する①) |
| 9回 | 聴解 (英語の音に注目する④) | 読解 (言語外の知識を利用する②) |
| 10回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する①) | 読解 (言語外の知識を利用する③) |
| 11回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する②) | 読解 (言外の意味を捉える①) |
| 12回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する③) | 読解 (言外の意味を捉える②) |
| 13回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する④) | 読解 (言外の意味を捉える③) |
| 14回 | 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) | 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give the student the spoken English which he or she will use in a modern office.

教科書 /Textbooks

Tae Kudo / Successful Office English
National Geographic Learning / ISBN: 978-4-86312-343-4 / 2,268 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introductions: Introducing yourself and others
Week 2: Telephone Calls: Talking on the phone and taking a message
Week 3: Making an Inquiry: Asking about a product
Week 4: Making an Appointment: Making an appointment or changing an appointment
Week 5: Receiving a Visitor: Welcoming a visitor
Week 6: Invitations: Entertaining a business partner
Week 7: Presentations 1: Starting a presentation
Week 8: Presentations 2: Introducing a new product
Week 9: Presentations 3: Answering questions
Week 10: Online Meetings: Participating in a video conference
Week 11: Negotiations: Negotiating prices and payment terms
Week 12: Placing an Order: Ordering a product
Week 13: Making a Complaint 1: Making a complaint about an order
Week 14: Making a Complaint 2: Making a complaint about a bill
Week 15: Completing a Project: Confirming a business agreement / Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking and Quizzes: 60 percent / Final Examination 40 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

This course aims to improve students' ability to use Business English for work and travel. Speaking English is required in each class, and students will also learn how to properly write business emails and letters.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will distribute all materials in every class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Orientation
- 2 Asking for personal information.
- 3 Asking for payment
- 4 Taking messages
- 5 Making recommendations
- 6 Asking about preferences
- 7 Talking about schedules
- 8 Arranging a meeting
- 9 Solving problems
- 10 Describing business trends
- 1 1 Student Presentations - Companies
- 1 2 Travel itineraries
- 1 3 Changing reservations
- 1 4 Changing money
- 1 5 Student Presentations - Travel

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み = 50% プレゼンテーション = 30% 学期末試験 = 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review all content after the class.

履修上の注意 /Remarks

Pair work speaking and group presentations.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck!

キーワード /Keywords

ビジネス英語; トラベル英会話; プレゼンテーション能力

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 肖 婷婷 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 肖 婷婷 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語VIII	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 授業説明、基礎復習
 - 第2回 第1課文法、聴解練習
 - 第3回 第1課読む、会話、作文練習
 - 第4回 第2課文法、聴解練習
 - 第5回 第2課読む、会話、作文練習
 - 第6回 第3課文法、聴解練習
 - 第7回 第3課読む、会話、作文練習
 - 第8回 場面の体験1
 - 第9回 第4課文法、聴解練習
 - 第10回 第4課読む、会話、作文練習
 - 第11回 第5課文法、聴解練習
 - 第12回 第5課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第6課文法、聴解練習
 - 第14回 第6課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課文法、聴解練習
 - 第2回 第7課読む、会話、作文練習
 - 第3回 第8課文法、聴解練習
 - 第4回 第8課読む、会話、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課文法、聴解練習
 - 第7回 第9課読む、会話、作文練習
 - 第8回 第10課文法、聴解練習
 - 第9回 第10課読む、会話、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課文法、聴解練習
 - 第12回 第11課読む、会話、作文練習
 - 第13回 第12課文法、聴解練習
 - 第14回 第12課読む、会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCI初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版) 中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価
平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。

グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話力を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布 (『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
- 二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
- 三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
- 四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
- 五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
- 六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
- 七回目 中間復習
- 八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
- 九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
- 十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
- 十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
- 十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
- 十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
- 十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
- 十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2017年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
 山谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 済営人律政群 2年 / 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語 2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心がける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみただんすけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみただんすけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確認しながら、どのくらい理解できたのが復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

ロシア文化領域のテキストの読解、および会話テキストを読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	ロシアのことわざ「自己抑制について」
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	ロシアの白樺
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	ロシア人メンタリティ特徴
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	新居祝い
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	民族言語教育について
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	異民族間婚姻
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	ベテルブルグへの旅
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	パブロフ「若者への書簡」
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	若いジャーナリストとの出会い
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	「花束」
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	「イワン・ベトロ-ピッチとの対話」
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	チェーホフ短編「別荘で」
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	春の洪水
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	ロシア人の名前
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	シベリアの蒸し風呂

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】 物】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修してください。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞かるとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞かるとき、相手の感想を聞かるとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞かるとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞かるとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞かるとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ヴァジィ 一初級フランス語 会話・文法そして文化― 田辺保子 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方、数字 1～10
- 3回 フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11～20
- 9回 ジャパン・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 ジャパン・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、近接未来と近接過去、指示形容詞
- 12回 フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ヴァジール初級フランス語 会話・文法そして文化― 田辺保子 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(I)
- 6回 フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(II)
- 7回 フランスのスポーツ(1)
〈文法〉単純未来
- 8回 フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞・副詞の比較級と最上級
- 9回 フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(I)
- 10回 フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(II)、中性代名詞 en
- 11回 フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去
- 12回 フランスの美術館(2)
〈文法〉大過去、中性代名詞 y と le
- 13回 フランスの教育制度
〈文法〉関係代名詞、強調構文
- 14回 フランスの大学生活
〈文法〉条件法現在と条件法過去
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむづかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルール
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞
- 5回目 コミュニケーションに関する表現 (2課終了)
- 6回目 代名動詞の使い方
- 7回目 一日の行動に関する表現 (3課終了)
- 8回目 中性代名詞と指示代名詞
- 9回目 程度に関する表現 (4課終了)
- 10回目 単純未来
- 11回目 「~と言う」「~と思う」などの表現 (5課終了)
- 12回目 Lecture 1 (6課終了)
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 過去分詞と受動態
- 15回目 所有代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 活動に関する表現 (7課終了)
- 4回目 時・理由・条件を表す接続詞
- 5回目 大学生生活に関する表現 (8課終了)
- 6回目 条件法
- 7回目 レストランに関する表現 (9課終了)
- 8回目 関係代名詞
- 9回目 観光地に関する表現 (10課終了)
- 10回目 接続法
- 11回目 いろいろな相づち (11課終了)
- 12回目 lecture 2 (12課終了)
- 13回目 話法と時制の一致
- 14回目 単純過去
- 15回目 覚えておきたいフランス語の基本動詞80について

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(3回)・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (復習)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (復習)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (復習)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (復習)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 疑問詞を使った疑問文（1）
- 12回 疑問詞を使った疑問文（2）
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞
- 14回 短文を読む（プリント）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞の活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 前置詞と人称代名詞
- 11回 gustar型の動詞（1）
- 12回 gustar型の動詞（2）
- 13回 再帰動詞と基本表現
- 14回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので3年生以上で使用したものと異なりますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 再帰動詞、無人称文など
- 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 7 同上
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 同上
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 15 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（I・II・III・IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習しておく。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努める。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見いきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「読み」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル - 改訂版 - 』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学に「適応」して、自分らしい大学生生活を送りましょう。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 徐 暁輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行い大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・40% 発表・課題・・・30% 自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の興味関心の方向を知っておくと、スピーチに取り組みやすいと思います。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、学校や社会で必要な論理的思考力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	発想力(1)リストアップ
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	発想力(2)マッピング
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	読解力(1)イラストを見て考える
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	読解力(2)文章を読んで図や表にしてみる
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	読解力(3)表・グラフの内容を読み取る
7回	スタディスキル(6)表・グラフを使って考えよう	読解力(4)表・グラフ以外の内容を読み取る
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	読解力(5)マッピングしながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	読解力(6)登場人物になったつもりで読む
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	読解力(7)理由を考えながら読む
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	読解力(8)意味を考えながら読む
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう	表現力(1)理由を考えて書いてみる
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう	表現力(2)論理的に考えて書いてみる
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン発表	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考力 読解力 発想力 表現力 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉嶺 加奈子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
課題評価...30%
自己評価...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に、大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子他、くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング/複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一律性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改訂 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ【調査結果】
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% 課題...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を全体として進めます。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えておくと、授業での学びがより効果的になる。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング ピア・ラーニング 複眼的思考

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 留学生 2年 /Class 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
○細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメイトンレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする①
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする②
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 50%
日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。配布された読み物を読み、分からない語句については事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。
「日本事情(社会)A」では、日本の社会を形作っている経済、政治、社会をめぐるさまざまな出来事を読み解き、理解する。また、そこから生まれる疑問や批判、さらには自分を取り巻く社会の未来について前向きに意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『大人のための社会科—未来を語るために』(井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作、有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『財政から読み解く日本社会—君たちの未来のために』(井出英策、岩波書店)
『「決め方」の経済学—みんなの意見のまとめ方を科学する』(坂井豊貴、ダイヤモンド社)
『安心社会から信頼社会へ—日本型システムの行方』(山岸俊男、中央公論社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 私たちの生きる社会
- 3回 「GDP (社会の良さとはなんだろうか)」
- 4回 「勤労 (生きづらさを加速させる自己責任の社会)」
- 5回 「時代 (時代を分けることと捉えること)」
- 6回 「多数決 (私たちのことを私たちで決める)」
- 7回 「運動 (異議申し立てと正統性)」
- 8回 「私 (自分の声が社会に届かない)」
- 9回 「公正 (等しく扱われること)」
- 10回 「信頼 (社会を支えるベースライン)」
- 11回 「二重 (税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える)」
- 12回 「歴史認識 (過去をひらき未来につなぐ)」
- 13回 「公 (「生活の場」「生産の場」「保障の場」を作りがえる)」
- 14回 「希望 (「まだ一ない」ものの力)」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 課題や提出物、発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。テキストを読み、わからない内容や語句については事前に調べておくようにしてください。また、日頃からニュースや新聞などに目を通しておいください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

内容言語統合学習 日本社会 対話

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

数学【昼】

担当者名 /Instructor 久保 宏和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の諸問題を数理的に理解するための基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

数学

MTH100M

授業の概要 /Course Description

経済学の本質を学ぶ上で、数学を避けて通ることはできない。

その上で本授業での目的は3つある。

1つ目は、経済学でよく用いられる基本的な数学の知識を「石橋を叩いて渡る」一貫として身につけておくことである。今後、他の専門カリキュラム履修中で、当たり前のように数学の知識が問われたときに困らないように学習しておく。

2つ目は、数学への「苦手意識」をなくすことである。数学的リテラシーが必要とされる文系学生の多くは、数学が苦手なのではなく、単なる「食わず嫌い」であることが多い。講義内で取り扱う単元は、経済学を理解するための初歩的な数学なので少なくとも「数学は苦手」と感じていた人は、その「食わず嫌い」と向き合い「苦手意識」を克服してほしい。

3つ目は、経済学と数学がどうつながっているのかを理解することである。そのために、「経済学的な例」を用いて数学を学んでいく。特に、売り上げや利潤の最大化問題を初め、日常の問題を経済学的に考える。

本講義内容を修得することは、多岐にわたる専門経済学を修める際に本質的な理解を深め、物事をシンプルに、論理的に考える力を養い、問題解決の能力を高めることにつながる。

教科書 /Textbooks

経済数学入門—初歩から一歩ずつ、丹野忠晋、日本評論社、2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

改訂版 経済学で出る数学—高校数学からきちんと攻める、尾山大輔・安田洋祐、日本評論社、2016年

経済学で出る数学—ワークブックでじっくり攻める、白石俊輔、日本評論社、2014年

経済数学入門の入門、田中久稔、岩波書店、2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション【因数分解、平方完成、一次方程式、二次方程式】

第2回関数と経済学(1):関数とは何か【一次関数で市場均衡を解く、二次関数の描き方と形状】

第3回関数と経済学(2):関数の最大化【二次関数で利潤最大化問題が解ける】

第4回いろいろな関数(1):分数関数【基本的な分数関数、分数関数の平行移動、需要の価格弾力性】

第5回いろいろな関数(2):無理関数と逆関数【基本的な無理関数、生産関数、基本的な逆関数、求め方と性質】

第6回数列とその極限(1):【等差数列と単利法、等比数列と複利法、割引現在価値】

第7回数列とその極限(2):【Σ、数列の極限、収束と発散、無限等比数列の極限、無限等比数列の和の極限】

第8回中間テストおよび、微分とは何か(1)【これまでの範囲の中間テスト、微分の定義】

第9回微分とは何か(2)【導関数、べき乗法則の導出】

第10回微分の応用(1)【微分の公式(積・商・逆数・合成関数・逆関数)、接線】

第11回微分の応用(2)【微分と関数の増減、一階条件、一階条件の使い方】

第12回微分の応用(3)【利潤最大化問題と効用最大化問題を微分で解く、限界費用と限界効用】

第13回2階導関数【2階微分の意味、2階微分とグラフの凹凸、限界効用逓減の法則】

第14回2変数関数と偏微分【偏微分とは、偏微分のやり方、2変数効用関数】

第15回2変数関数と偏微分【2変数効用関数を偏微分する意味、まとめ】

数学【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容が多岐にわたるだけでなく、初めて聞く考え方もたくさん出てきます。試験前に慌てて勉強しても間に合いません。必ず予習・復習を行うようにしてください。特に以下の2点に留意し、復習されることをおすすめします。

(1) 「できなかった問題」について解法を再確認し、「なぜ自分は解けなかったのか」についても省察された上で「正解を導ける考え方が身に着くようになる」まで何度も問題を解き直す。

(2) 「自分が取り組んでいる単元」は「経済学を理解するために、どのような状況で必要とされる知識なのか」について考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学II 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学II

ECN230M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房（本格的な演習書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 乗の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

統計学II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をしておくこと。
事後学習：Pythonプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学Ⅱ【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学Ⅱ

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学Ⅰ」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー 『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子 『グラフィック ミクロ経済学』 新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』 東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学Ⅰ」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

ミクロ経済学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル（=45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデル（=新古典派成長モデル）を説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】 【ケインズ政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】 【貨幣と債券】 【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】 【貨幣需要】 【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】 【公開市場操作】
- 7回 流動性選好理論(4) 【信用創造】 【貨幣乗数】
- 8回 流動性選好理論(5) 【地域通貨】 【仮想通貨】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】 【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】
- 11回 新古典派成長理論(1) 【マクロ生産関数】
- 12回 新古典派成長理論(2) 【一人当たりGDPの決定要因】 【全要素生産性】 【資本労働比率】
- 13回 新古典派成長理論(3) 【新古典派成長モデル】
- 14回 新古典派成長理論(4) 【貯蓄率】 【収束】 【黄金律】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます（順不同）1回～15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの確定
4. 研究デザインの設定
5. 研究スケジュールの確定
6. 図書館を利用した文献・資料収集
7. 紀要・雑誌を利用した文献・資料収集
8. インターネットを利用した資料・データ収集
9. 各文献・資料の小括
10. 文献相互の関連付けとまとめ
11. 研究内容の発表と質疑応答-第一グループ
12. 研究内容の発表と質疑応答-第二グループ
13. 研究内容の発表と質疑応答-第三グループ
14. プレゼン大会予選
15. プレゼン大会本選

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、発表のための資料作りをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

グループでの調査・研究は、授業時間のみならず、授業外の時間も使い行ってもらうことになります。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、周到な準備を行う必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	様々な社会的事象に興味を持ち、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

基礎演習

SEM210M

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
第1回：イントロダクション
第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

教科書を事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。
演習では、講義のように教員の話をお聴きだけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違っただけを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年(2,808円)
山本 勲、『実証分析のための計量経済学』、中央経済社、2015年(2,808円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 文献精読について
- 4～5回 伝える技術の習得
- 6～9回 文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10～11回 文献輪読と論文の書き方
- 12～15回 文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。
報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

時代潮流をしっかりと把握しううえで、地域の現場の実情を分析できるようになることを授業の目標とします。よって、時代潮流について論じた文献を各自で精読してもらい意見交換をし、理解を深めていきます。また、一方で地域の現場を実感しつつ、地域の課題を抽出できるようにデータ分析やフィールドワークを実施します。そのうえで、対象地域を選択しゼミとしての共同研究を実施します。

教科書 /Textbooks

リンダ・グラットン『ライフ・シフト』プレジデント社（2016年11月）
○河合雅司『未来の年表』講談社現代新書（2017年6月）
山田昌弘『底辺への競争』朝日新書（2017年10月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社（2012年8月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 フィールドワークのポイント（レクチャー）
- 第3回 フィールドワークI（実践）
- 第4回 フィールドワークIの報告（プレゼン&ディスカッション）
- 第5回 レジユメの作成方法（レクチャー）
- 第6回 フレームワークを活用した地域の分析方法（レクチャー）
- 第7回 時代潮流に係る文献のレジユメ報告I
- 第8回 フィールドワークIIに向けた選択（ディスカッション）
- 第9回 フィールドワークIIのポイント整理
- 第10回 フィールドワークII（実践）
- 第11回 フィールドワークIIの報告（プレゼン&ディスカッション）
- 第12回 時代潮流に係る文献のレジユメ報告II
- 第13回 共同研究の対象地域選択（ディスカッション）
- 第14回 共同研究実施のための調整（ディスカッション）
- 第15回 共同研究のための準備・分析

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユメ作成45%、ディスカッションにおける貢献度25%、チームによる共同研究30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィールドワークの前はネット等を活用して事前に個人で情報収集をしてください。フィールドワークの後にはきちんと個人でその成果をまとめてください。
レジユメ作成のためには、それなりの事前学習が必要となりますので、しっかりスケジュールリングして時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業がありますので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

自分の問題意識をデータを通じて調べる。
データ解析の考え方と方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩『数学ガールの秘密のノート：やさしい統計』SB Creative 2016.
今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門(上)』岩波書店 2018.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジユメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を学びながら、経済現象をとらえる知識を身につける

教科書 /Textbooks

特になし。プリント・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス【研究倫理】
第2回～第14回 輪読・報告
第15回 まとめ 専門演習IIへの準備

ゼミ合宿に行く予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告の準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本専門演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここではさらに、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

未定。演習生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 西村和雄『ミクロ経済学入門（第2版）』岩波書店（○）
- ・ 武隈慎一『ミクロ経済学（増補版）』新世社（○）
- ・ 岩田規久男『ゼミナールミクロ経済学入門』日本経済新聞社（○）
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 現実の経済との関係についての理解を高めるために、適時課題を出す。1学期の専門演習の結果として、2学期の専門演習において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：【研究倫理】【演習目標・方法・計画】
- 2回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（1）
- 3回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（2）
- 4回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（3）
- 5回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（4）
- 6回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（5）
- 7回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（6）
- 8回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（7）
- 9回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（8）
- 10回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（9）
- 11回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（10）
- 12回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式（11）
- 13回 特殊な経済行動研究入門（1）
- 14回 特殊な経済行動研究入門（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 研究報告・演習への参加態度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。
- ・ ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 常に現実のミクロ経済に関心を持つこと

キーワード /Keywords

- ・ 特殊なミクロ経済行動

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

官公庁が出版している様々な白書の中から、各学生が興味のあるテーマの白書を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考力する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80%， 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会・経済事象を自らと関わりのあるものであるという認識を持ってもらう。購読を通して、他人の意見を参考として自身の意見を持ち、それを説得力を持って表明することを目指す。まずは、平易な時事問題に関する文献から始める。具体的にはゼミ3、4回で新書1冊というのが目安となる。

教科書 /Textbooks

未定（新刊の新書など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 顔合わせ
第2回～第14回 学生の報告を中心として購読を進める。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会・経済の出来事に関心を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参加者の知的好奇心が広がればと思います。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。経済データベースとして日経ニーズ、コンピュータソフトウェアとしてSAS（統計処理パッケージ言語）を利用する。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回 データの整理・測定
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析（イントロダクション）
- 第10回 回帰分析（標本相関係数他）
- 第11回 回帰分析（最小自乗法）
- 第12回 回帰分析（決定係数）
- 第13回 回帰分析（ σ 自乗の推定、t変量）
- 第14回 回帰分析（検定）
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を読んでくること。また、卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。
事後学習：教科書の復習をすること。また、演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、教科書を事前に熟読すること。復習としては、SASを使って、データ解析を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

キーワード /Keywords

統計的推定、統計的検定、回帰分析、最尤法

専門演習I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

仮のテーマから出発して、専門演習IIで取り組むテーマを見つけ出すことが目的です。
調べて、まとめて、他人に説明して、他人の意見を聞き、別の視点を心得、次の作業を定める。これの繰り返しです。
その過程で、当たり前を疑うこと、ものごとを説明することに慣れること、他人からの説明を上手に理解してあげること、自分とは違う考え方に出会うこと、自分より詳しい人を探してアポイントメントをとって質問してくることを経験してください。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。
【予習】発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。
【復習】参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

卒業研究のテーマを決めて、参考文献表の作成、参考文献の講読・発表、引用の仕方などを学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 最近の国際金融問題 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
- 2回 卒業研究のテーマの決定(複数の候補について、内容などを説明する)
- 3回 卒業研究のテーマと担当の決定(役割分担などを決める)
- 4回 参考文献表の作成(参考文献リストの表記の仕方などを学ぶ)
- 5回 参考文献表の作成と発表の分担の決定
- 6回～15回 参考文献の内容の発表と引用の仕方の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジュメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ:ソーシャルビジネス

ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会的課題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、ソーシャルビジネスに関わる企業、NPO、行政の調査や、それらとの協働作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎力を養う（コミュニケーション力を身につける）
- 3回 基礎力を養う（分析力を身につける）
- 4回 基礎力を養う（企画力を身につける）
- 5回 ワークショップ(社会課題を探る)
- 6回 ワークショップ(未来の社会を考える)
- 7回 ワークショップ(ソーシャルビジネス事例から学ぶ)
- 8回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの手法を学ぶ)
- 9回 ワークショップ(マネジメントの手法を学ぶ)
- 10回 ワークショップ(マネジメントの手法を活用する)
- 11回 グループによる調査・研究(テーマ設定と事前準備)
- 12回 グループによる調査・研究(実施)
- 13回 グループによる調査・研究(報告およびディスカッション)
- 14回 グループによる調査・研究(ディスカッション)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、社会的課題

専門演習I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルド著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣）
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テキストと報告の担当を決める。
2回-15回 学生による輪読・報告するという形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。授業中その都度理解度を確認するため、小テストを行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでおくこと。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iでは、日本の産業・経済・社会の歴史について学問していただきます。そのうえで、皆さんには身近な地域の歴史について調査・研究していただきます。

「なぜ北九大は北方にあるのか?」「なぜ小倉の中心地に大きな公園（勝山公園）があるのか?」「なぜ北九州にはこんなにたくさんの工場があるのか?」

ごく日常の風景だけに、気にとめることもないかもしれませんが、しかしそこに上記のような問いをはさみ、その答えを探してみると、それまでただ漠然と眺めていただけの日常世界を、私たちは主体的に解釈できるようになります。この「問い・解釈し・認識を新たにする」試みこそが学問なのです。

その中でも歴史学は「過去」を活用します。

私たちが自明と思っている日常世界にも、それがそこに存在することとなった理由や経緯があります。

「今」ある現実とは必然ではなく、また偶然でもありません。「過去」のいかなる条件や選択が「今」を生むこととなったのか知ることができれば、私たちは周囲の現実を客観的に認識できるようになります。

そして「なぜこうなったのか?」がわかれば、「それを変えるには何が必要なのか?」が見えてきます。

この演習では、こうした歴史学的な思考を実践してもらい、皆さんに日本の産業・経済・社会について客観的かつ主体的に考察できる能力を養っていただきます。

そのうえでここでは、グループごとに課題を決め、地域の歴史に関する調査・研究を行ってもらいます。また、北九州の産業・経済史に関する文献の「輪読」を行い、地域の歴史を探索するフィールド・ワークにも出かけます。

このプロセスで、先に述べたような問いを、皆さん自身が抱き探究できるようになることが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済I・II』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 フィールドワーク（北方地区）
- 第3回～5回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第6回 フィールドワーク（北方地区）
- 第7回～8回 地域史関連テキストの輪読、ディスカッション
- 第9回 フィールドワーク（小倉北区）
- 第10回～11回 フィールドワーク型グループワーク
- 第12回 グループワーク報告会
- 第13回 フィールドワーク（工場見学）
- 第14回 アクティブ・ラーニング - 学生による学生評価 -
- 第15回 総括

専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークにおける貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションにおける積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習では、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行ってもらいます。したがって皆さんには、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習I【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の分野を中心に経済の仕組みと分析ツールを身に付け、財政の議論に応用することを目標とします。主に教科書の内容を報告してもらい、それについて議論に参加してもらい理解を深めます。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

『マクロ経済学』二神孝一・堀敬一 著 有斐閣
明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容50% 議論の参加度・発言内容および質問に対する受け答え50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。（予習箇所は講義中にお知らせします。）目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。 目安時間60分

履修上の注意 /Remarks

テキスト、および配布資料、板書事項の復習をして講義に臨むこと。 毎回、前回の内容を質問しますので、自分の言葉で答えられるように十分に復習しておくこと。

専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政/マクロ経済学

専門演習I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く思考する力を身に付け、都市問題や地域問題への関心を持つことが出来るようになる。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力、論文作成などの基本スキルについても学習する。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習をしておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭での確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察し、経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎スキルの向上も目標とする。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各自の関心によるが、労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。
- 『人事と組織の経済学』、エドワード・ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳）、日本経済新聞社。
 - 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』、大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 学生による輪読・発表
* 初回の演習前に本演習のガイダンスを行うので必ず出席すること。
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

1回目の演習までに自分が何に関心があるのかを説明できるようにしておくこと。
労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学I(担当：畔津)を同時に受講すること。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2～3回	テーマ設定と文献・資料収集
4～5回	文献・資料の整理
6～8回	研究テーマ設定作業
9～12回	研究テーマの中間報告
13～15回	研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、事前に教科書を読んで予習して、演習に参加すること。また毎回、演習で学んだ内容を復習すること。確認テストを毎回します。報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いながら、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、対象地域を設定した「共同研究」を実施します。そして、その成果を外部の人々にも伝えるために様々なプレゼンテーションを実施します。また同時に、企業に焦点をあてた分析を習得するために、マーケティングやブランディングに係る実践的な文献のサーベイを実施します。そのうえで、次年度の卒業研究に向けた意識を高めるために、先輩の卒業研究をテーマにしたディスカッション、新聞をはじめとした情報収集の手法や考察についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks

○森岡毅『USJを劇的に変えた、たった1つの考え方』角川書店（2016年4月）
中川淳『奈良の小さな会社が表参道ヒルズに店を出すまでの道のり。』日経BP社（2008年10月）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田中洋編『ブランド戦略全書』有斐閣（2014年11月）
石井淳蔵・廣田章光編『1からのマーケティング（第3版）』碩学館（2015年2月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～4回 共同研究に係る報告書の作成・修正
- 第5～6回 共同研究に係るパワーポイントの作成・修正
- 第7回 新しい地域づくりのアイデアに係るプレゼンテーション（外部向け）
- 第8回 マーケティングに係る文献のレジュメ報告
- 第9回 フィールドワークに係る情報収集
- 第10回 フィールドワークに係る情報の編集
- 第11回 フィールドワークの実施
- 第12回 ブランディングに係る文献のレジュメ報告
- 第13回 卒業研究をテーマにしたディスカッションⅠ
- 第14回 卒業研究をテーマにしたディスカッションⅡ
- 第15回 各自の卒業研究をテーマ案の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告書の作成30% パワーポイントの作成・プレゼンテーション15% レジュメ作成30% 卒業研究のテーマの新規性・現実性15% ディスカッションにおける貢献10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の実施にあたっては、各種の資料収集やレジュメの作成、報告書の作成など事前の学習を指示します。きちんと対応してください。

履修上の注意 /Remarks

フィールドワークを行なう授業があるので、各種のスケジュール調整を適切に行なってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成の準備として、統計解析の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Wooldridge, J. 2016. Introductory Econometrics, 6th ed. South-Western College Pub.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：講義と演習と発表

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を事前に読み、指定された教科書で復習する。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。
前回の復習をして演習に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習で得た知識を利用し、データを用いて日本の金融について分析する。

教科書 /Textbooks

特になし。プリント・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第14回 輪読・報告
第15回 まとめ 卒業論文の準備

ゼミ合宿に行く予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本専門演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社。
- ・ 林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版。
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店。
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高めて、「卒業研究A・B」において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：【研究倫理】【演習の目的・計画】など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習Ⅲ、Ⅳ案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと
- ・ 常に現実のミクロ経済に興味をもつこと
- ・ ゼミ合宿や旅行などを実施する場合もある

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

- ・ 特殊なミクロ経済行動

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに引き続き、官公庁が出版している様々な白書やその他の文献などの中から、各学生が興味のあるテーマの文献を選択して丁寧に読み、その内容を整理したレジュメやレポートを作成する。論理的に思考する能力、文献を簡潔に要約する能力、プレゼンテーション能力、文章を執筆する能力などを総合的に鍛えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の推敲に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「演習I」に比べやや「堅い」文章を購読する。知識にも広狭深淺があることを学び、そのうえで社会についてのより深い理解を目指す。
また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談して適宜定める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 購読文献の選定
第2回~第14回 学生の報告を中心として購読を進める
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容及びゼミ参加の姿勢 ... 85% 卒論構想の内容 ... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究のテーマを決めるためのリーディングを行い、A4一枚にまとめて報告すること。

事後学習：演習での議論を踏まえて、卒業研究のテーマが妥当か否か判断すること。

履修上の注意 /Remarks

予習として、論文の要約を作成する。また、他のゼミ生の要約にも目を通しておく。復習としては、自分の作成した要約のどこをどのように修正されたか、よく吟味すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iの成果から出発して、自分で不思議に思ったことを自分で調べ、その結果と過程を他人にもわかる形式で伝えることをします。4年次で取り組むテーマ(卒論の仮テーマ)を見つけ出すことが目的です。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
研究計画書と卒業論文研究題目の提出。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法、提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。
【予習】発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。
【復習】参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の参考文献の講読・発表と卒業研究の草稿の作成を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～7回 卒業研究の参考文献の発表
8回～15回 卒業研究の各担当部分の発表(引用の仕方、図表の作り方も学ぶ)
(※9～11回目に、他の大学との合同ゼミを行う。下関市立大学を予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジюмеを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：ソーシャルビジネス
ソーシャルビジネスについて学習します。社会問題を解決するためのしくみや、社会問題をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、社会活動や地域活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 実習(NPOとの協働事業)
- 3回 実習(NPOとの協働事業)
- 4回 実習の振り返り
- 5回 実習を踏まえた研究テーマの設定
- 6回 企業 / NPO 事例研究
- 7回 企業 / NPO 事例研究
- 8回 企業 / NPO 事例研究
- 9回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たなソーシャルビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅰに続き、国際経済学の基礎理論を習得し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を経済学の観点から理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：クルーグマン・オブストフェルド著『国際経済学 理論と政策』（原著第10版）（丸善）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣）
清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定・配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回-14回 前期に続き、学生による輪読・報告する形式で進める。報告担当者はレジュメを作成し、設問を用意する。全員で質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。授業中学習の理解度を確認するため、その都度小テストを行うことがある。輪読と同時に、ニュース解説、自由研究の発表も予定している。
- 15回 卒業研究テーマの検討・発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 報告・課題提出 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題報告を事前に十分に準備すること。
グループで研究調査を行い、学部でのポスターセッションに参加することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習・復習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習IIの内容は、専門演習Iに引き続き、身近な地域の歴史を対象にした調査・研究がメインとなります。ただし、ここでは学術的裏づけを行った、より本格的な調査・研究をしていただきます。

歴史学での調査・研究は、難事件の捜査に似ています。

何十年も前（もしくは100年以上前！）の出来事ですから関係者はすでにいません。ですから彼らから聞き取りを行うことはできませんし、現場を再調査しても確たる証拠は出てきません。

利用できるのは、断片的に残された当時の記録（史料）のみ。これらを探し集め、ひとつひとつの事実を確認し、相互の関係を推理し客観的に裏付けることで、出来事の全体像を明らかにする、それが歴史学です。

この作業を皆さんには、身近な地域で起こった過去の出来事を対象に行っていただきます。

ただ、やみくもに捜査をしても事件の真相はつかめません。ベテラン刑事の「嗅覚」は、経験とそれに基づく知識に裏付けられています。

歴史学も同じで、「どんな史料があるのか」「それはどこにあるのか」「それをどう使えばいいのか」、知っておくことが真相解明の近道となります。

また、時には「現場」に足を運ぶことで見えてくる事実もあります。

このことをふまえ、専門演習IIでは、皆さんに史料の探索方法を、適宜、レクチャーします。

そのうえで皆さんには、グループで協力し、実際に残された記録をもとに難事件の捜査を行っていただきます。

そしてその過程で「現場」でのフィールドワークを行い、また成果を演習内で、あるいは経済学部が主催する「ポスターセッション」でプレゼンしてもらいます。

教科書 /Textbooks

北九州市史編さん委員会編『北九州市史 近代・現代 産業経済I・II』（1991年・1992年、北九州市）他、北九州の産業・経済史に関する論文・著書。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献調査に関するレクチャー
- 第3回～5回 指定されたテーマ（地域経済史）に基づくグループワーク
- 第6回 フィールドワーク（戸畑・若松区）
- 第7回 指定されたテーマ（地域経済史）に基づくグループワーク
- 第8回 フィールドワーク（工場見学）
- 第9回 ポスターセッションに関するレクチャー
- 第10回～11回 ポスターセッションに向けたグループワーク
- 第12回 成果報告会（ポスターセッション予行練習）
- 第13回 ポスターセッション
- 第14回 ポスターセッション総括
- 第15回 卒論のテーマ設定に関するレクチャー

専門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。
フィールドワークを行う際も、その前後に、行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習ではグループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行っていただきます。したがって学生には、積極的に学ぼうという姿勢でゼミに臨んでいただく必要があります。ぜひ主体性を持って参加してください。

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Ⅱに引き続き、マクロ経済学の分野を中心に財政や経済政策について分析するツールを身に付け、そこで学んだ議論や分析手法を自分の卒業研究に繋げることを目標とします。

また、10月ごろから他大学からの合同ゼミの準備と卒業研究の準備を行い、合同ゼミの開催会場にて研究発表を行います。

教科書 /Textbooks

『マクロ経済学』二神孝一・堀敬一 著 有斐閣
明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス【研究倫理】
- 2 報告内容に関してディスカッション
- 3 報告内容に関してディスカッション
- 4 報告内容に関してディスカッション
- 5 報告内容に関してディスカッション
- 6 報告内容に関してディスカッション
- 7 報告内容に関してディスカッション
- 8 報告内容に関してディスカッション
- 9 報告内容に関してディスカッション
- 10 報告内容に関してディスカッション
- 11 報告内容に関してディスカッション
- 12 報告内容に関してディスカッション
- 13 報告内容に関してディスカッション
- 14 報告内容に関してディスカッション
- 15 まとめ

経済主体の最適化など理論分析に必要な技術、論文を書く準備の仕方を並行して行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキストを一読しておいてください。(予習箇所は講義中にお知らせします。) 目安時間60分
事後学習としてゼミで学習した内容をレポートにまとめ報告してもらいます。目安時間60分

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

復習をして講義に臨むこと。 前回の内容を質問しますので自分の言葉で人に分かるように説明できるぐらい十分に復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的なことは繰り返しテーマをまたいで登場します。
既に学習したことについて理解が出来ているか質問することになりますので
緊張感を持って理解する努力をしてください。

キーワード /Keywords

財政、マクロ経済学

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

演習Ⅰを受けて、引き続き日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに深く考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力などのスキルを身に付けていく。論文については、卒業論文のための予備論文を提出していただく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 現代的立地理論の習得
- 3回 現代的立地理論の習得
- 4回 現代的立地理論の習得
- 5回 現代的立地理論の習得
- 6回 現代的立地理論の習得
- 7回 現代的立地理論の習得
- 8回 現代的立地理論の習得
- 9回 現代的立地理論の習得
- 10回 工場見学の事前準備
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 現代的立地理論の応用
- 14回 現代的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50%

課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

専門演習II【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題の解決策を考察するための諸資料を読解することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を文書および口頭で的確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

専門演習Iと同様に、労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し、卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

教科書 /Textbooks

初回の演習までにアナウンスします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため、特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究倫理】
- 第2回～第15回 学生による輪読・発表
 - * 経済学部主催ポスターセッション大会に出場する。
 - * 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。
労働経済学の基本を学ぶため、労働経済学IIを同時に受講すること。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Aでは、専門演習IIで各自が選択した研究テーマをもとに卒業論文を作成します。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。また、卒業後の進路についても、ゼミを通じてしっかり考えてもらうために、自己分析、希望する進路について検討します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～12回 研究テーマの設定作業と経過報告
- 13～15回 研究中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告するためにしっかり時間をかけて準備をして下さい。そのためには、文献、資料を集め、しっかりと読み、論点を整理して下さい。演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をするようにして、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究の準備を行なうことにより、ゼロから自分の考えをまとめ、人に伝えていく技術・技能を身につけることを目標とします。また、適宜、ケーススタディを通じて論理的思考法や議論の組立を学習します。

教科書 /Textbooks

伊丹敬之『経営戦略の論理 - 第4版 - 』日本経済新聞出版社（2012年9月）
伊丹敬之『ケースブック 経営戦略の論理』日本経済新聞出版社（2012年9月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識に合わせて適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～3回 卒業研究のテーマの検討
- 4回 卒業研究の企画について（プレゼンテーション）
- 5回～10回 ケース・スタディ
- 11回～14回 卒業研究に係る参考文献についての報告
- 15回 卒業研究の構想案と今後の計画について（プレゼンテーション）

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 40% プレゼンテーション20% 卒業研究の構想案 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自らの問題意識に従って参考文献の探索や新聞・雑誌・インターネットからの情報収集を日常的に実施すること。
事後学習については、卒業研究Aの各回で得られた知見を確実に卒業研究に生かせるように整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時には、予習の成果としてポイントを整理したレジュメを持参すること。
なお、ケース・スタディの場合は、事前にケースを配布するので、予習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協働し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスに関連するテーマの中で、各自が興味のあるテーマについて調査・分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 テキストを輪番で発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・統計学・産業組織論を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）作成のために、論文・専門書の購読、および必要なデータの収集を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～14回 研究報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%
報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。
※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		卒業研究A	SEM411M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究論文提出に向けての準備を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】
- 第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 第3回～第8回 特殊なミクロ経済行動もしくは現象などについて調査・報告
- 第9回～第14回 関心のある特殊なミクロ経済行動もしくは現象に関する研究について調査・報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% レポートもしくは論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来：80% 平常点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによつて自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらおう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
提出課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回、報告用レジュメを作成し、報告すること。

事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、論文の構想について熟慮すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次で決めたテーマ(卒論の仮テーマ)について調査・研究します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 下記の提出先と提出方法，提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。
- 【予習】発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。
- 【復習】参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、執筆。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジュメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、ソーシャルビジネスについて学びます。とりわけ、新たなソーシャルビジネスの創出や、地域における社会活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外での実習やフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 5回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 6回 ワークショップ(ソーシャルビジネスの経営分析)
- 7回 ケーススタディから学ぶ(調査)
- 8回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 9回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 10回 ケーススタディから学ぶ(ビジネスモデルの抽出)
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、NPO、地域課題

卒業研究A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて段取りで課題を出し、研究・調査報告を行う。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回－3回 卒業論文の書き方
- 4回－15回 文献調査・報告、課題提出・報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献・研究テーマの調査などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究A 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は、「専門演習I・II」で身につけた知識や能力をもとに、自ら研究テーマを定め、独自に調査・研究を行い、その成果を論文にまとめることを目的としています。

論文は他人の研究成果や主張を要約的にまとめるレポートとは違います。

論文は自らの問い（課題）をもとに、関連する資料を集め、またその資料をもとに分析することで、自ら定めた問いに対して自分なりの回答を与えるものとしてあります。つまり自分の関心に基づき、自分の力で調べ、自分自身で答えを導く作業こそが卒業研究です。

この作業を行うためには、まず自分が「知りたい」「（知ることが）面白そう」と思える課題を見つけられなければいけません。このゼミは経済史の演習ですから、経済・産業・社会の「今」をふまえ、「なぜこうなったのか?」と「過去」にさかのぼって探究したいと思う対象を見つける必要があります。

もし経済・産業・社会について無知で、特に知りたいと思う気持ちも無ければ、課題を設定することなどできません。

研究を行うためには、それに先立って、自身の知的好奇心を喚起し、幅広い知識を身につけ、その中から特に関心を抱ける対象を探し出す作業が必要なのです。

そこで、「卒業研究A」では、まず課題（テーマ）設定の方法や、ここでの留意点などについてレクチャーします。

また指定されたテーマに基づき、関連する資料を自ら探し、その中から自分の知らなかった事実を「発掘」し、ゼミで発表してもらいます。

また、地域の経済・産業史に関する、専門的なフィールドワーク（グループワーク）を実践する中、自分が特にどんなことを「面白い」「面白そう」と感じるのか、自身の興味関心を「発見」してもらいます。

そしてテーマが定まり次第、そのテーマに関連する文献や史料を集め、夏明けから本格的に始まる卒業論文の執筆に向けた下準備を進めていただきます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～5回 卒業研究テーマ報告
- 第6回～7回 卒業研究に関するレクチャー
- 第8回 フィールドワーク(工場見学)
- 第9回～10回 資料調査型グループワーク
- 第11回 グループワーク報告会
- 第12回～13回 卒業研究に関するレクチャー
- 第14回 フィールドワーク(工場見学)
- 第15回 総括

卒業研究A【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調査・研究は授業時間のみならず授業外の時間も使い行ってもらいます。したがって教員の指示がなくとも、各自が主体的に情報収集を図り、報告に向けた周到な準備を行っていただく必要があります。

また輪読の際には、指定された箇所を演習前に必ず読み込んでおき、当日、内容に即してディスカッションが出来るレベルまで理解を深めておいていただきます。また演習後、あらためてテキストを読み返すことで、ゼミを通じて学んだことをしっかり知識として身につけていただきます。

フィールドワークを行う際も、その前後に行き先に関連した文献に目を通し、その場所について別途学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究A 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

『マクロ経済学』二神孝一・堀敬一 著 有斐閣
明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究への積極性 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済・ 財政

卒業研究A【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび講義中に出されるスピーチや論文の課題について、下調べを行うなど予習しておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対する解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究A

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、専門演習I・IIで学んだ事をもとにして、卒業研究に着手する。自らの関心に基づき、自らのやるべき研究を設定し、研究のための下調べ、綿密な研究計画が完了することを目標とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究テーマについて十分考えておくこと。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究Bでは、卒業研究Aにつづき、各自が定めたテーマを卒業論文としてまとめます。

教科書 /Textbooks

酒井 聡樹、『これから研究を始める高校生と指導教員のために-研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方-』、共立出版、2013年（2,808円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。
1回 オリエンテーション
2～13回 卒論の中間報告
14～15回 卒論の発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、卒業論文に対する取り組み状況および発表内容...50% 課題...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文完成に向け、多くの文献、資料を集め、しっかり読んで、問題点、論点を明確にしてください。
演習終了後は、演習時のコメントに対する対応をできるようにして、報告内容、卒業論文の内容をより良いものにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成のひとつである卒業研究を完成させます。

教科書 /Textbooks

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の問題意識が異なりますので、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業研究の中間報告（プレゼンテーション）
- 4回～12回 卒業研究に係る参考文献やヒアリング調査等についての報告
- 13回～15回 卒業研究の修正・完成

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 20% 各種報告 20% 卒業研究 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、卒業論文の中間報告の資料や卒業研究に係る文献のレジュメ作成を求めます。事後学習については、卒業研究Bの各回で得られた知見を確実に卒業論文に生かせるように執筆を進めてください。

履修上の注意 /Remarks

本ゼミでは、卒業研究として2万時程度の卒業論文の完成を目指します。よって、日頃から文章力の向上や図表を使った表現力の向上に努めることを期待します。
なお、通常に授業では、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究提出後に、ゼミOB等を招いて報告会を実施します。卒業まで気を抜かないようにしてください。

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスに関連するテーマの中で、各自が興味のあるテーマについて調査・分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告者のレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の執筆を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各メンバーの卒論に対して検討し、精緻化と完成を目指す。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指摘された内容を理解し考えること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究（卒業論文）を完成させる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（卒業論文完成までの予定・計画について）【研究倫理】
- 第2回～第14回 研究報告
- 第15回 完成させた卒業論文の報告・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・50%
- 卒業論文の内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の報告内容の改善と報告の準備を十分にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容の改善と報告準備を十分にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある卒業研究テーマについて論文を作成・報告し、卒業研究の論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：【研究倫理】【研究計画】
- 第2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 第3回～第7回 卒業研究テーマについて調査・研究報告
- 第8回～第14回 卒業研究論文内容研究報告、および提出
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 50% 論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の出来：90% 平常点：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の作成に関わる内容を行う。「自らの考えを文章にして表現することが、自分自身を知ることを含め最も効果的な学修方法である」ということを確認してもらいたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2回～14回 学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を事前に十分読み込んでおくこと。
各自卒論の完成に向け必要な作業を着実に進めること。

履修上の注意 /Remarks

ある意味、大学生活の総括であることを自覚してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。	
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】
2回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：卒業研究を書けるところから執筆し、報告すること。
事後学習：ゼミ内の議論を踏まえて、卒業研究を修正していくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒論を作成します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス【研究倫理】
- 2 回～14回学生による途中経過の報告
- 1 5 回卒論内容の最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

割り当てられた報告を行い指定された方法で文書を残すこと、他の参加者の議論への参加。
卒業論文の提出。
担当教員と他の参加者への配慮が必要です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

下記の提出先と提出方法，提出期限はクラスで説明します(ウェブサイトを予定しています)。
【予習】発表者は発表資料を事前に指定の方法で準備してください。
【復習】参加者は指定の方法で議論への貢献を確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。
※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		卒業研究B	SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究の内容を順次、発表し、内容を発展させる。論理的な議論の展開とともに、図表の作成の仕方、引用の仕方、参考文献リストの作り方などを学習し徹底する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業研究の発表、修正、発展。パワーポイントによる発表会を行う。
(うち、9回目～11回目に、他の大学のゼミとの合同発表会を行う。会場は、下関市立大学の予定。)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の自主学習として、発表内容についての参考資料を読み、自分の考えをまとめて、レジユメを必ず作成すること。事後の自主学習として、発表内容について出された質問や改善点について詳しく調べ、卒業研究の内容にその都度、盛り込んでいくこと。また、参考文献に対して盗作とならぬように、日頃の発表と卒論の作成では細心の注意を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の問題関心に沿って、卒業研究を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 卒業論文中間報告
- 3回 卒業論文中間報告
- 4回 卒業論文中間報告
- 5回 卒業論文中間報告
- 6回 ケーススタディの研究と報告
- 7回 ケーススタディの研究と報告
- 8回 ケーススタディの研究と報告
- 9回 ケーススタディの研究と報告
- 10回 卒業論文中間報告
- 11回 卒業論文中間報告
- 12回 卒業論文中間報告
- 13回 卒業論文中間報告
- 14回 報告会準備および予備作業
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

原則として毎回課題を出すので、次回の授業までに準備(学習)しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自の卒業研究テーマについて、研究報告を行い、論文執筆を完成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究進捗報告と論文指導
- 15回 卒業研究発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 報告・課題提出 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

十分な時間をかけて取り組んでください。参考文献、調査方法などの下地準備を早めに着手してください。
予習・復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究B 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「卒業研究B」では、「卒業研究A」で定めたテーマ（課題）に基づく調査・研究を進め、成果を論文にまとめていただきます。したがって演習の主な内容は、学生による研究報告となります。

研究報告は「やらされるもの」と考えている方が多いかと思います。

しかし研究報告は担当教官に対して進捗状況を報告するためだけにするものではありません。また、他の学生に自分の研究を紹介するためにやるわけでもありません。

研究報告は、報告できる水準に自身の研究を高め、研究内容を整理し直し、そのうえで担当教官および学生から客観的な意見を聞くことで、自分では気付いていなかった問題点や改善点を発見するためにするものです。

研究を進めた結果を報告するというよりも、むしろ研究を進めるために報告を行うのです。ですから自分が論文をまとめるために、この演習を利用するつもりでゼミに臨んでください。

この研究報告と並行して、論文を書くにあたっての具体的な指導も行います。

自ら問いを立て、資料に基づき検証し、自分なりの結論を導く論文は、他人の研究成果を要約的にまとめればよいレポートとは違います。

皆さんはレポートは書いたことはあっても、論文を書くのはこれがはじめての経験となるものと思います。ですから、いざ論文を書こうにも、どうやって書けばいいのかわからないでしょうし、論文には論文特有の書き方や決まり事などがあります。

このことをふまえ、中盤以降は演習内で論文の書き方について指導します。

そして実際に執筆作業を進めてもらい、その過程で生じた疑問や問題に対して解決法をアドバイスします。また演習時間外にも個別に論文指導を行いたいと思います。

2年間で身につけた「問い・解釈し・新たな認識を得る」スキルを学術的成果として形にする（そして晴れて卒業を迎える）、それが「卒業研究B」の最終的な目標です。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 データベース講習（於図書館）
- 第3回～6回 卒業研究中間発表
- 第7回 フィールドワーク（工場見学）
- 第8回～9回 論文執筆に関するレクチャー
- 第10回～14回 執筆指導
- 第15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの貢献度、調査研究およびプレゼンテーションの内容、ディスカッションに対する積極性などをもとに評価します。

卒業研究B 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究Bは卒業研究をまとめることを主目的としていますが、実際の研究は授業時間外に学生自らが行う必要があります。卒業研究に関する指導を受けるに当たっては、事前に十分研究活動を行い、その成果をもって指導を受けるようにしてください。また、授業後は、教員による指導内容に基づき修正作業を行い、その成果をもって次回の授業に臨めるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史、社会経済史、産業史、労働史、北九州市史

卒業研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によつて的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらおう。
また、他大学からの合同ゼミの依頼を受けることもあり、その際は積極的に他大学に訪問し合同演習を行います。

教科書 /Textbooks

『マクロ経済学』二神孝一・堀敬一 著 有斐閣
明解 日本の財政入門（金融財政事情研究会 刊）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来具合 50% 研究の完成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表前に 1) 文献資料、論文の取り寄せ 2) 発表資料の十分な準備、および予習を必ずしてください。目安時間60分以上。発表後に教員が指摘したポイントやゼミ生からの質問・意見等を整理し次の準備に備えてください。目安時間60分以上

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究はなかなか大変ですが
頑張った分だけ仕上げた時の達成感と喜びは大きいので頑張りましょう。

キーワード /Keywords

マクロ経済学・財政

卒業研究B 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、課題発見力、プレゼンテーション力、実践力、コミュニケーション力も深めていく。なお2学期後半に工場見学を行い、そのための事前学習、事後学習の時間をとる。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 工場見学の事前学習
- 11回 工場見学
- 12回 工場見学の事後学習
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。事前学習については、テキストおよび論文の課題について、下調べを行うなど予習をしておくこと。事後学習については、講義中に指摘された点について不足力所や修正点の追加学習、関連事項の学習を行い、復習をして次の講義に臨むこと。
工場見学と事前調査・事後整理の課題提出は必須の要件として参加、実施すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の応用力を身につけること。

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

卒業研究B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済学に関わる諸問題に対して独自の解決策を提起することができる。
	プレゼンテーション力	●	自らの研究内容を論文等によって的確に他者に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身につけた思考力や表現力を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協力し、継続的に学習することができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究B

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、卒業研究を完成させることである。卒業研究Aにおける下調べ、研究計画に基づき、調査、分析、論文執筆作業を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマに合わせて、適宜、紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～第15回 各自の研究発表、及びディスカッション
* 卒業研究発表会を開催する。
* 宿泊型・非宿泊型研修を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組みおよび発表 100%
原則として無断欠席をした学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の演習で指定する。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究Aに引き続き、卒業研究を進めておくこと。
毎回のゼミでは、指定されたテキストをよく読んだ上で臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するための手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 情報科学的手法を用いて問題の課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報科学入門

INF100M

授業の概要 /Course Description

この科目では1年2学期以降の情報科目を学ぶ上での基礎的な情報科学についての知識を身に付けることを目標としている。内容はコンピュータ基礎知識、プログラミング法、アルゴリズム（問題を解く手順、解法）などである。また、学んだ知識の理解を深めるため演習を行う。

教科書 /Textbooks

毎回資料（ファイル）を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※担当教員により多少進め方、内容は異なりますが、おおよそ以下の内容を扱います。（受講者の理解度等により多少内容を変更する場合があります。）

- 第1回 授業概要、情報科学とは
- 第2回 コンピュータ基礎知識① 【コンピュータのしくみ】【OS】【ファイル】【ファイル形式】
- 第3回 コンピュータ基礎知識② 【アプリケーション】【内部データ表現】【情報量の単位】
- 第4回 デジタル vs. アナログ、プログラミングを学ぶ意義
- 第5回 プログラム手順の考え方【フローチャート】
- 第6回 プログラミング基礎①【座標空間】【乱数】
- 第7回 プログラミング基礎②【キー入力】【マルチスレッド】
- 第8回 プログラミング基礎③【変数】【四則演算】
- 第9回 構造化プログラミング①【判断】
- 第10回 構造化プログラミング②【当たり判定】【繰り返し】
- 第11回 構造化プログラミング③【条件を満たすまでの繰り返し】【ずっと繰り返し】
- 第12回 プログラミング④【リスト】【入力】
- 第13回 プログラミング⑤【多重ループ】【プログラム読み取り練習】
- 第14回 フローチャートの読み取り、繰り返し、条件判断の応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 50%、 日頃の取り組み 30%、 レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに次回内容分の資料を確認し、講義後には内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。特に、プログラミングは、繰り返し実行することが重要です。学習したプログラム命令を確実に理解できるまで繰り返し復習に努めてください。

情報科学入門【昼】

履修上の注意 /Remarks

プログラムなどの保存のため、USBフラッシュメモリを準備してください。(この授業向けには1Gb(ギガバイト)の容量があれば十分です。使用状況にもよりますが、他の講義での利用を合わせても2Gb(ギガバイト)程度あれば十分だと思います。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 江本 伸哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本経済を時系列的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	現代日本経済の諸問題を時系列的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門A

ECN150M

授業の概要 /Course Description

学生の皆さんはつねづね「日本経済」の中で生活しています。朝起きて顔を洗う時には自治体の水道水を購入し、歯を磨く時にはドラッグストアで買った歯ブラシと歯磨き粉を消費しています。学校に行く時にバスや電車に乗れば、輸送サービスを受けた対価として運賃を支払います。これらはすべて消費者としての行動です。一方、コンビニでアルバイトすれば、労働者としてお店の売り上げに貢献し、あなたが日本人であっても、外国人であっても、日本のGDP（国内総生産）拡大に役立ちます。しかし、その対価として受け取るバイト代からは国が所得税を天引きします。

こうした日本経済の基本的なしくみと課題について、皆さんに理解してもらい、ほかの人にひととおり説明できるようにするのがねらいです。2年生以降の経済学の専門科目を学ぶ基礎になる科目でもあります。

1 教科書『池上彰のやさしい経済学1 しゅくみがわかる』（全7章）の各章を、それぞれ2回に分けてじっくり解説。その上で現代の日本経済に即して現状と課題を説明します。

2 学生の皆さんの質問、意見、感想、要望を毎回配布・回収するミニッツペーパー（MP）に書いてもらい、その主なものについては、私なりの回答や意見を付けて「MP通信」として次回の授業で配布します。皆さんの反応を確かめながら、双方向で授業を進めます。

教科書 /Textbooks

池上 彰『池上彰のやさしい経済学1 しゅくみがわかる』 日本経済新聞出版社 2013年 本体600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』 河出書房新社 2017年 本体820円

藤井彰夫『日本経済入門』 日本経済新聞出版社 2018年 本体860円

日経ビジネス編『日本経済入門』 日経BP社 2014年 本体2500円

三橋規宏ほか『ゼミナール日本経済入門』 日本経済新聞出版社 2010年 本体3000円

現代日本経済入門 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス (教員自己紹介、この授業は何のために、何を学ぶか)、教科書 はじめに (P4~6)
- 2 教科書 第1章 金は天下の回りもの——経済とは何だろう? (P7~54) +日本のGDP、経済成長率
- 3 教科書 第1章 金は天下の回りもの——経済とは何だろう? (P7~54) +日本のGDP、経済成長率
- 4 教科書 第2章 お金はなぜお金のなか——貨幣の誕生 (P55~94) +日本の金融のしくみ アベノミクス
- 5 教科書 第2章 お金はなぜお金のなか——貨幣の誕生 (P55~94) +日本の金融のしくみ アベノミクス
- 6 教科書 第3章 「見えざる手」が経済を動かす——アダム・スミス(P95~136) +日本の市場経済と政府
- 7 教科書 第3章 「見えざる手」が経済を動かす——アダム・スミス(P95~136) +日本の市場経済と政府
- 8 教科書 第4章 資本主義は失業者を生み出す——マルクス (P137~182) +日本の社会政策と経済
- 9 教科書 第4章 資本主義は失業者を生み出す——マルクス (P137~182) +日本の社会政策と経済
- 10 教科書 第5章 公共事業で景気回復——ケインズ (P183~222) +日本の公共事業、雇用、財政
- = 期末レポート出題
- 11 教科書 第5章 公共事業で景気回復——ケインズ (P183~222) +日本の公共事業、雇用、財政
- 12 教科書 第6章 「お金の量が問題だ」——フリードマン (P223~258) +日本の新自由主義の功罪
- 13 教科書 第6章 「お金の量が問題だ」——フリードマン (P223~258) +日本の新自由主義の功罪
- = 期末レポート締切日
- 14 教科書 第7章 貿易が富を増やす——比較優位 (P259~302) +日本の貿易 (FTA、EPA、TPP)
- 15 教科書 第7章 貿易が富を増やす——比較優位 (P259~302) +日本の貿易 (FTA、EPA、TPP)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 1 毎回提出のMPが各4点。MP 15枚で合計60点。公欠2点 (公欠の学生は1か月以内に申し出て下さい)。
- 2 期末レポート40点 (期末試験なし)。
- 3 MPで鋭い質問、意見、感想、要望を書いた学生には、そのつど特別加算10~20点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 必ず教科書を手に入れ、一度最後まで読み通しましょう。多少分からないことがあっても、とにかく最後まで読み切ってください。教科書を持っていないと解けない問題を期末レポートで出題します。
- 2 授業は、その日説明する教科書の章を事前に読んでいることを前提に進めます。ですから、授業の前に必ず読んできて下さい。教科書はとても読みやすく書かれています。(予習時間60分)。
- 3 読んだ時に感じた疑問点や意見、感想をメモにまとめておいて下さい。授業中あるいは授業後に質問するか、ミニツツペーパー (MP) に書いてください。(予習時間30分)
- 4 鋭い質問、いい意見、なるほどという感想をMPに書いた学生には、そのつど通常の評価 (MP点と期末レポート点) とは別に特別加算 (10~20点) をします。
- 5 授業後、授業で配られる「MP通信」を自宅などでよく読んで、自分や他の学生の質問や意見、感想、あるいはそれらに対する教員の回答、コメントから、日本経済のしくみに関連するいろいろな知識を吸収するようにして下さい。(復習時間60分)
- 6 授業で配ったレジュメ (授業資料) を自宅などでもう一度読み返して、授業の要点を復習しましょう。(復習時間30分)

履修上の注意 /Remarks

- 1 授業中の私語、スマホ操作、飲食、帽子着用はご遠慮下さい。注意しても守れない学生には退出してもらいます。
- 2 現代の日本経済に関心をもつため、「日本経済新聞」(特に朝刊1面と企業面、九州経済面) を読みましょう。
- 3 テレビではTVQの「ワールドビジネスサテライト」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」、NHKの「日曜討論」「NHKスペシャル」などの経済番組を観る習慣をつけましょう。就活に役に立つ経済感覚が自然に身につきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1 経済を初めて学ぶ学生にふさわしい簡明な教科書を、じっくり読み通す根気を養いましょう。
- 2 日本経済のしくみについてしっかり理解し、ほかの人に説明できるようになりましょう。
- 3 現代の日本経済の課題をひとつとおり理解し、2年生以降の専門教育に耐えうる知識や思考力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

経世済民、金融、財政、市場、自由主義、失業、マルクス、ケインズ、フリードマン、新自由主義、自由貿易

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代日本経済を横断的に理解するために必要な初歩的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 現代日本経済の諸問題を横断的に把握する手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 身の回りの現代日本経済に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本経済入門B

ECN151M

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。関連するニュース報道や解説書を理解できるようになることが、目標である。また、日本経済と日本産業が、これまでどのような展開と変遷を辿ったかを説明し、今後の日本経済を見通すうえで必要な専門知識を教える。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

1回	日本経済の概要	【高度成長期からの変遷】
2回	日本経済の概要	【少子高齢化・人口減少と財政赤字】
3回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【メインバンク・システム】【系列】
4回	日本的システムの形成と崩壊・変容	【安定株主】
5回	少子高齢化に立ち向かう日本	【平均寿命】
6回	少子高齢化に立ち向かう日本	【年金・医療制度】
7回	財政赤字と政府債務	【基礎的財政収支】
8回	財政赤字と政府債務	【デフォルト】【マネタイゼーション】
9回	新たなグローバル化の波	【WTO】【FTA】
10回	新たなグローバル化の波	【直接投資】【TPP】
11回	エネルギーの経済学	【固定価格買い取り制度】
12回	エネルギーの経済学	【発送電分離】
13回	量的・質的緩和とデフレ克服	【インフレーション・ターゲティング】
14回	量的・質的緩和とデフレ克服	【出口戦略】
15回	現代におけるデータの取扱い方の解説、および、総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業内容にかかわる事前学習を毎回指示する。とくに、「授業計画・内容」のキーワードを調べてくるよう、指示する。授業の後では、自分が事前に調べてきた内容と授業で学んだ内容を比較してノートを加筆修正すること。

履修上の注意 /Remarks

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実証経済分析 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済の実証分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な実証分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 実証分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの実証分析に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

実証経済分析

ECN231M

授業の概要 /Course Description

「社会現象に法則はあるか」

この問いかけに対して経済学が行ってきたことの一部を、例を挙げてお話しします。「経済学がまだうまくできていないこと」も皆さんと一緒に考えたいです。

また、これらを真似して、表計算ソフトを使った分析や結果の視覚化をなるべく多く経験していただきます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記は一例です。受講者数および受講者の関心に合わせて変更する場合があります。

- 1回 講義概要
- 2回 実証経済分析の目的、背景、手法、結論
- 3回 因果関係で考える
- 4回 回帰式の作られかた
- 5回 実証したい仮説を、実証できる仮説に翻訳する
- 6回 統計学を応用した因果関係のチェック
- 7回 実証経済分析の結果を役立てる
- 8回 回帰分析のまとめ
- 9回 演習：分析の背景を読み解く
- 10回 演習：分析の結果を読み解く
- 11回 データを集める
- 12回 データの特徴を把握する 1：移動平均
- 13回 データの特徴を把握する 2：分布
- 14回 演習：分布の視覚化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 計量経済学の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な計量経済学的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 計量経済学的分析に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの計量経済学に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

計量経済学

ECN232M

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回 講義概要
- 2回 簡単な回帰分析の復習
- 3回 質的変数を分析に取り込む(ダミー変数)
- 4回 正しい回帰分析を行う工夫
- 5回 社会現象と実験
- 6回 情報の構造を利用する(パネルデータ)
- 7回 複雑な因果関係(操作変数)
- 8回 確率分布の特徴(最尤原理)
- 9回 質的応答モデル
- 10回 多肢選択
- 11回 無作為でない標本の例(標本選別)
- 12回 時系列分析
- 13回 効率性分析
- 14回 データの縮約
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】 クラスで指定する文献・資料を事前に読んできてください。

【事後】 宿題やクイズを使って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 中山 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

プログラミング

INF211M

授業の概要 /Course Description

コンピュータをより高度に利用するためには、コンピュータが処理すべき問題を分析して適切に手順化しコンピュータに与える、プログラミングという作業が必要となる。授業ではJavaScriptというプログラミング言語の基礎を学び、実際に動作するプログラムを作りながら、プログラミングの基本的な考え方と技術を学んでいく。さらに、より具体的な課題を設定し、それらを解決するために必要なプログラミングの知識について、演習を通じて習得する。

教科書 /Textbooks

古金谷 博、藤尾 聡子：HTML+JavaScriptによるプログラミング入門 第2版、日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて随時指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータとプログラミングの基礎
2. HTMLとJavaScriptの基礎
3. 定数と変数、配列
4. 基本的な処理、演算
5. 関数の定義と利用
6. 条件判断と分岐処理(1)【二分岐】
7. 分岐処理(2)【多分岐】
8. 繰り返し処理(1)【回数指定の繰り返し】
9. 繰り返し処理(2)【一般的な繰り返し】
10. プログラムの設計
11. 処理手順の具体化
12. プログラムのテストとデバッグ
13. オブジェクトの定義と利用
14. プログラミング応用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績を70%、演習、提出課題など平常の学習状況を30%として評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を中心に、教科書の例題プログラムを入力し、その動作を確認すること。また、例題プログラムにわざと誤りなどの改変を加え、プログラムの動作がどのように変化するか観察しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

大学のパソコン (Windows) の基本操作に習熟しておくこと。
プログラムファイルの保存用として、USBメモリを準備すること。すでに所有するものがあれば、その容量の一部を使用してもよい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史I【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史 I

ECN220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、主に18世紀末から19世紀（江戸時代中頃から明治時代）の日本経済について論じていきます。
特にここでは、「産業革命」以降の世界経済が日本に及ぼした影響について、「革命」前後の変化をふまえて考察していくつもりです。

「産業革命」以前の社会では、その生産力の低さゆえに、度々、貧困や飢餓が招かれてきました。
こうした時代、足りない「富」はしばしば他国から調達されることとなり、「富」の掠奪（りやくだつ）を目的とした戦争や侵略が、歴史上、繰り返されてきました。

しかし「産業革命」を機に、状況は一変します。「革命」を達成したヨーロッパでは、全ヨーロッパの総需要を遥かに上回る「富」の供給が可能となり、それとともに他国からの「富」の掠奪ではなく、新たな市場の開拓という、まったく新たな経済的動機が発生することとなります。

この結果、経済活動は一気にグローバル化し、アジアやアフリカ、南米は、ヨーロッパの市場として再編され、あるいは植民地となっていくこととなりました。

本講義では、まずこのような「産業革命」を契機とした「革命的」な変化について論じ、日本が19世紀、いかなる時代的状況に置かれることとなったのか考察します。

そのうえで、同時代における日本の選択を検証することで、日本が植民地化の危機を逃れ、アジアで最初の工業国へと台頭していくこととなったプロセスを、世界史的な観点から明らかにしていきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 前近代社会の経済状態 -
- 第4回 戦(いくさ)と掠奪(りやくだつ)の経済史
- 第5回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第6回 もうひとつの「革命」 - 近世日本の「勤勉革命」 -
- 第7回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第8回 「豊かな国」と「貧しい国」の構造化
- 第9回 「帝国主義」と「中国分割」
- 第10回 「ペリー来航」の経済史的意義
- 第11回 「革命」の移植 - 工業化の基礎条件と技術移転 -
- 第12回 「開国」の危機と生糸貿易
- 第13回 「明治維新」の経済史的意義 - 独力での工業化の試み -
- 第14回 植民地化の回避と「殖産興業」
- 第15回 日本版「産業革命」の始動

日本経済史I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジюмеを配布します。このレジюмеを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジюмеをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 歴史学 産業革命 明治維新

日本経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本経済史についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	日本経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	日本経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本経済史II

ECN221M

授業の概要 /Course Description

本講義では、近代から戦後に至る日本経済の歴史を、北九州を事例としながら論じていきます。

周知のように日本の「産業革命」は、「明治維新」を機にスタートします。そしてこの際、北九州は、工業化に不可欠なエネルギーとなった石炭の一大供給地として発展の端緒を開くこととなりました。

また20世紀に入ると、鉄の国産化が図られ、北九州がこの生産拠点に選ばれたことで、北九州は日本経済を支える「屋台骨」としての役割を果たすようになります。

しかしそうであったために北九州は、戦後の軍需の消失や、国のエネルギー政策の転換といった、日本経済全体の大きな変化の波をダイレクトに受けることとなります。

いわば北九州は、近代以降、工業化にまい進して来た日本経済の「縮図」であり、それゆえに北九州の経済・産業史を通じて、戦前から戦後にかけての日本経済史を、具体的な事例に則しつつ学ぶことができます。

以上の事実をふまえ、本講義では北九州というエリアに焦点を絞りつつ、日本経済史を論じていくこととします。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 北九州市の社会経済史的特徴
- 第3回 「明治維新」と日本の工業化
- 第4回 エネルギー需要と「筑豊」の発展
- 第5回 炭鉱と労働 - 「荒くれ者」の社会形成 -
- 第6回 港湾都市(門司・若松)の発展
- 第7回 日清・日露戦争と重工業の発展
- 第8回 「軍都」小倉 - 軍需と地域経済 -
- 第9回 「鉄は国家なり」 - 八幡製鉄所の誕生 -
- 第10回 洞海湾の近代化と「地方財閥」
- 第11回 「企業城下町」の発展
- 第12回 戦後復興と北九州
- 第13回 「エネルギー革命」 - 北九州の地殻変動 -
- 第14回 「高度経済成長」と「北九州工業地帯」
- 第15回 北九州市の現在 - 「公害都市」から「エコタウン」へ -

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

日本経済史II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。このレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに“考える”意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史、北九州工業地帯、石炭産業、八幡製鉄所

西洋経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	西洋経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋経済史

ECN223M

授業の概要 /Course Description

難民排除を主張するアメリカのトランプ大統領、イギリスのメイ首相、フランスのルペン氏をはじめ右翼政党の伸長、難民保護のドイツのメルケル首相の窮地。こうしたグローバル経済を排除する傾向はなぜ起こったのか。この問題を明らかにしたい。

そのためには、第1次世界大戦と第2次世界大戦の間＝両大戦間期の世界経済を検討しなければならない。

そこで第1になぜアメリカは永遠の繁栄を謳歌できたのか。アメリカの対極としてドイツはなぜ国家倒産に追い込まれていったのかを、巨額な賠償金支払から検討していく。

1929年のニューヨークの株式の暴落と世界恐慌の関連を明らかにする。

その後、各国の世界恐慌対策の結果、なぜ第2次世界大戦が起こったのかを検討する。

第2次世界大戦後のアメリカの世界支配構造をGATTから学ぶ。また、あれだけ絶大であったアメリカ経済がなぜ1971年のニクソンショックとなって終焉したのかを学ぶ。

アメリカの世界的地位の衰退過程を、グローバル化のレーガノミクスからオアバマを経てトランプまでを通じて見る。

欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）からEU形成過程を学びながら、なぜ難民問題を排除するようになったのかを、イギリスとフランス、それにドイツから明らかにする。

最後に、自己中心主義に走る各国をみて、今後いったいどのような世界は全体としてどのような方向目指すのかを一緒に考えたい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グローバル化から自国第一主義へと転換しつつある世界経済を歴史的な視点から明らかにする。
- 2回 アメリカとドイツ経済とを中心に両大戦間期の世界経済の特徴をみる
- 3回 永遠の繁栄のアメリカ（経自動車産業と住宅産業を中心に）
- 4回 国家存亡の危機のドイツ経済の特徴{巨額な賠償金支払いとフランスのルール地方占領、天文学的なインフレ}
- 5回 ドーズ案と相対的安定期の世界経済
- 6回 世界恐慌と各国の対策（ニューディール、ナチス経済、オタワ会議、大東亜共栄圏）
- 7回 ブロック経済と為替ダンピングによる第2次世界大戦
- 8回 第2次大戦後のアメリカの世界支配（IMFとGATT）体制のアメリカとドル散布による西欧諸国の復活
- 9回 ドル危機と1971年のニクソン宣言の意味
- 10回 衰退していくアメリカ経済レーガノミクス
- 11回 1971年ドル危機とニクソン宣言ークリントンー小浜ケアートランプノミクスまで
- 12回 西欧6ヶ国によるEC形成過程（ECSC - S ¥ EEC - EC - マーストリヒト条約ーEU）
- 13回 イギリスのEU加盟騒動から離脱まで
- 14回 なぜ移民を排斥するのか（トランプ、メイ首相、弱体化したメルケル首相、など）
- 15回 グローバル化から自国第一主義までから見えてくるものー縮小する世界経済連携と今後の世界経済ー

西洋経済史 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義でその都度あげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア経済史についての基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジア経済史を踏まえて、経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	アジア経済史を踏まえて、身の回りの経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア経済史

ECN224M

授業の概要 /Course Description

インドや中国がイギリスの植民地となったのに、なぜ日本だけは植民地にならなかったのだろうか。この問題を明らかにするために17世紀からの紅茶帝国主義を見ていきたい。

16世紀に北国で寒いイギリスは中国の茶とインドのキャラコ（更紗）に魅了された。それを前提に、第1に、なぜ中国がイギリスの植民地となっていったのか。

当時、水しか飲んでいなかったイギリスにおいて中国の緑茶がイギリス東インド会社を通じて輸入された。皇室⇒貴族⇒庶民と茶が普及するにつれて、イギリスの貿易赤字問題が発生し、ついにはインドのアヘンをインドから中国に輸出して、貿易のバランス取ろうとした。その結果としてイギリスと中国の間で何が起こったのかを見たい。

第2に、緑茶に砂糖を入れて飲む習慣を覚えたイギリスは、西インド三角貿易を確立した。それはいったいどんなもので、どのような結末となったのかを明らかにしたい。

全体として紅茶帝国主義としてイギリスが中国、インド、アフリカ、西インド諸島を支配したプロセスを明らかにしたい。

第2に、イギリス産業革命はなぜ起こったのか、インド綿であるキャラコ生産をめくって西インド三角貿易からインドの植民地イギリス産業革命は、キャラコ論争⇒キャラコ輸入禁止⇒ハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる模倣⇒機械による綿糸生産といった流れからインドのイギリス植民地化を見ていきたい。

第3に日本がなぜアジアで唯一植民地にならず、工業国となったのかをイギリス、なかんずくスコットランド出身のトーマスグラバーの活動を通じて明らかにしたい。

第4に倒幕に成功した明治維新政府がイギリスの支援を受けていかにして産業国家を育成したのかを、使節団派遣⇒殖産興業⇒地租改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成から見ていく。

第5になぜ日清戦争が起こったのか。この問題を日本産業革命と財閥の市場としての朝鮮半島の観点から明らかにする。

第6に、世界恐慌と満州事変⇒日中戦争⇒太平洋戦争⇒敗戦の過程を見ていく。

脱亜入欧からはじまって、ついには今日のアジアの一員になっていく日本資本主義の姿を見た後は、アジア地域に位置する日本はいったいどのようにアジア諸国と付き合うのかを、受講生と一緒に考える。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

アジア経済史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】アジア経済史の目的
- 【第2回】なぜ中国はイギリスの植民地となったのかー豊かさゆえにイギリスに狙われたー
- 【第3回】緑茶輸入とイギリスの貿易赤字対策としてのインドでのケシの花栽培とアヘン戦争
- 【第4回】豊かなインドの特徴ーキャラコと毛織物の比較
- 【第5回】キャラコ論争と毛織物保護とハーグリーブズ、アークライト、クロンプトンによる機械制キャラコ生産
- 【第6回】インドに職人を手首切断とイギリスのインド支配
- 【第7回】薩長連合の後ろのトーマス・グラバー
- 【第8回】イギリス製の大型砲で徳川幕府を倒した明治維新
- 【第9回】欧米使節団が学んだものー殖産興業⇒地改改正⇒官営工場⇒払下げ⇒財閥の形成（脱亜入欧）
- 【第10回】財閥による産業革命の成功と日清戦争の必然性
- 【第11回】日露戦争でイギリスのカーティフ炭が果たした役割
- 【第12回】第1次世界大戦によって工業国化（軽工業と重工業の確立）となった日本資本主義主義
- 【第13回】世界恐慌とその打開策として日本の満州進出
- 【第14回】父親の軍隊手帳と日中戦争
- 【第15回】世界第2位となった中国とや韓国などアジア諸国とどのように付き合うべきかー結びに代えてー

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業以外の学習方法：受講生へのメッセージ

- ・新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学史【昼】

担当者名 /Instructor 村田 和博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経済学思想や理論が展開された歴史及びその背景を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの経済の諸問題に対する解決策を歴史的な議論の経緯を踏まえて検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学史

ECN222M

授業の概要 /Course Description

人間の歴史は思考の歴史でもある。我々が生きる経済社会も同様で、現代の経済社会を知るためには、市場社会の形成・確立・展開の歴史のプロセスをとらえ、ときどきの経済社会で展開された理論と思想を理解することが不可欠になる。そこで、本講義では現代に至るまでに登場した経済学の理論と思想について講義する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年。
早坂忠編『経済学史』ミネルヴァ書房、1989年。
高哲男編『自由と秩序の経済思想史』名古屋大学出版会、2002年。
中村廣治、高哲男『市場と反市場の経済思想—経済学の史的再構成』ミネルヴァ書房、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、経済学史とは、重農主義【ケネーの経済表】
- 第2回 重農主義【富と貨幣、貿易差額説、貿易政策、高利反対論】
- 第3回 スミス1【古典派経済学とは、富とは何か、分業論、価値と価格、自然価格と市場価格】
- 第4回 スミス2【賃金と利潤、生産的労働と不生産的労働、重農主義批判、小さな政府論】
- 第5回 イギリス産業革命期の社会【工場制度の進展、企業規模の拡大、雇用形態と企業管理者、労務管理】
- 第6回 リカード【労働価値説、地代論、利潤論、機械論、貿易】
- 第7回 マルサスとオウエン【マルサス：人口論争、貿易、有効需要の理論、オウエン：労務管理、コミュニティ】
- 第8回 バベッジ【管理の科学化、賃金、大規模生産の優位性】
- 第9回 ミル【生産論、分配論、動態論、社会主義論】
- 第10回 マルクス【商品と価値、貨幣、剰余価値、工場制度の光と影】
- 第11回 ウェーバー【支配の諸類型、官僚制組織】
- 第12回 マーシャル【4つの時間区分、短期供給曲線と長期供給曲線、内部経済と外部経済、企業家機能、経済騎士道、生活基準の経済学】
- 第13回 ケインズ1【新古典派の限界、非自発的失業、有効需要の原理、消費関数】
- 第14回 ケインズ2【乗数効果、資本の限界効率、流動性選好、ケインズ政策】
- 第15回 シュンペーター【経済発展と新結合、企業者利潤、企業者の機能】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：参考書の該当範囲をよく読み、内容を整理する。
事後学習：授業内容について改めて整理する。

履修上の注意 /Remarks

受講生が少ない場合には、受講生との対話形式で講義を進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済思想史、経済理論史

業界研究I【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	個人のキャリア形成に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	キャリア形成に関する知識を用いて意欲をもって行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究 I

CAR310M

授業の概要 /Course Description

2021年3月卒業予定で、就職活動を控える3年生対象の授業です。
(この授業は、第2回から第14回までの13回分を、外部からお迎えした講師の方によって行います。)
(※一般就職を希望する方(公務員希望も含む)は必修に近い意識を持って受講してください。)

大学生活も折り返しに入り、3年生は就職活動も意識しなければなりません。就職活動自体は3年次の2学期から本格的に動き出すと思いますが、まずは1学期の段階で、今の大学生活から自分の将来を真剣に考え、具体的な将来の職業を考えることが必要です。そのためのキャリアプランニングを行い、そしてそのプランニングしたことにに関して、最終的に自ら実行してもらうことを目的とした授業を行います。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 北九大で何をするのか。
- 北九大生として何を意識するのか。
- 北九大生として何を考え、どう動くのか 等々、

上記のことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動(考えて動くこと)」を喚起することを目標とします。その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報、プラス、就職活動に関する情報を学びます。この授業を受講する学生像としては、

- ①3年生になって自分の「将来」に漠然と不安を持っており、それを真剣に考え始めようと思っている学生
- ②受講後の夏季休暇に、企業インターンシップに参加し、業界や企業について勉強する意思のある学生
- ※特に②の考えを持ち、興味のある学生に参加を期待します。

このような学生は是非積極的に受講ください。この科目は、更なるステップアップ『実践の場』として用意されている選択科目「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座としての役割も果たしています。

教科書 /Textbooks

とくに使用しません。必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

学修上、有用なサイトを下記に示します。事前に関連しておいてください。

(1) 就職情報サイト「マイナビ2021」
<https://job.mynavi.jp/2021/>

(2) 就職情報サイト「あさがくナビ」
<https://www.gakujo.ne.jp/>

(3) 就職情報サイト「リクナビ」
<https://www.rikunabi.com/>

業界研究I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション（本講義の目的、および受講上の注意点について）【イントロダクション】
- 2回：就職活動全般とスケジュールの確認【就職活動】
- 3回：自己を知る 基礎編（自己理解の必要性と適性診断の受検）【適性診断】
- 4回：自己を知る 実践編（自己特性やエピソードの見える化）【自己特性】
- 5回：業界と企業を知る【業界】【企業】
- 6回：インターシップの重要性と参加方法を知る【インターンシップ】
- 7回：業界研究（概要と研究方法について）【業界研究】
- 8回：業界研究（業種と職種の違いについて）【業界研究】
- 9回：業界研究（課題研究と今後のキャリアにつなげるために）【キャリア】
- 10回：企業研究基本編【企業研究】
- 11回：企業研究発展編I（2社比較：競合比較から優位性を紐解く）【企業の比較】
- 12回：企業研究発展編II（個社理解の深化：3C分析から優位性を紐解く）【3C分析】
- 13回：インターンシップの活用法・参加にあたって【インターンシップ参加に向けて】
- 14回：自己理解と企業理解の接続【自己分析】【企業研究】
- 15回：ラップアップ（総括として、自己と仕事のマッチングを考える）【総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポートなどによる平常点（課題の回数および内容については適宜指示がありますので注意してください）・・・100点

ただし、出席はカードリーダー使用により毎回とります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に示された内容については必ず予習し、課された課題については熱心に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

本講義の主旨および評価方法については初回に説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、上記のとおり、初回および最終回を除き、講師は外部からお見えになる「社会人」です。皆さんは大学卒業後、「社会人」として生きていくはずですので、その「社会人」のルールで成績評価をしていきます（要は「遅刻」「欠席」などは厳禁です）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持ち、授業に出席してください。夏季休暇時に企業が主催するインターンシップに積極的に参加し、貪欲に色々な情報を取得できる学生、また自らの意思でしっかり成長をしていける、もしくはしていきたい学生による受講を期待します。

また、この講義は「就職テクニク」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

キーワード /Keywords

業界研究、自己分析、適性診断、キャリア開発、インターンシップ

業界研究II【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	みずからのインターンシップ体験を口頭や文書によつて的確に伝えることができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	インターンシップに対し意欲的かつ挑戦的に取り組むことができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

業界研究II

CAR380M

授業の概要 /Course Description

本講義は本学経済学部が参加するインターンシップに対して単位を認めようとするものです。本講義は夏期集中で実施され、履修登録方法が一般の科目と少し異なる点に注意してください（登録方法に関しては「業界研究I」で説明されます。なお、履修上の注意にも記してあるとおり、本講義は「業界研究I」が履修済みであることが受講条件です）。この講義のねらいは、（1）就業体験（インターンシップ）を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、（2）大学での学習体験を現場で活かし、学問上の学習意欲を高めるとともに、実践的な知識をも習得すること、（3）職業意識を涵養し、進路選択に資すること、（4）就業体験（インターンシップ）を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、以上4点です。

昨今、就職活動におけるインターンシップの重要性が高まっており、各企業ともこの導入を積極的に図っています。

インターンシップに参加することは、企業側が求める人材像を実体験を通じて知ることができ、そのことは当然、その後の就職活動において大きくプラスとなることと思います。また、インターンシップへの参加は、実際の就業体験を通じて、自分の「向き不向き」を確め、また「向き不向き」について新たな発見をする機会となり、今後の進路を改めて考える機会ともなります。本講義はそうした貴重な体験を後押しすることを目的とするものです。

インターンシップにおいてはアルバイトとは違い、一定期間とは言え、「社会人」という立場で企業に身を置くこととなります。そこには事前に知っておくべき知識や所作などがあり、これを欠いては実りあるインターンシップを望むことはできません。本講義では、インターンシップの現状に詳しい専門家が講師を務め、そこで必要となる情報を提供します。また、インターンシップで得た実感を今後役に立つスキルにまで昇華してもらうべく、インターンシップ後には、プレゼンテーションやディスカッションの機会を用意しています。

このようにインターンシップの重要性を説くのは、本学に限らず就職活動を取り巻く状況は厳しくなっているからです。就職活動を成功させるため、あるいはそれだけでなく、やりがいをもっと見い出せる仕事に就くためには、大学生時代から実際の仕事に触れることが必須です。ゆえに、インターンシップの機会を活かして、各自の将来のキャリア展望をクリアにすることが期待されます。

なお、すべてのインターンシップが単位認定対象となるわけではなく、いくつかの条件があることに注意してください。詳細については、「業界研究IIに関するインターンシップ実施要領」を参照してください（「業界研究I」において「業界研究II」の履修に関して説明が行われる予定ですので、注意して説明を聞いてください）。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターンシップへ行く前に、自身のキャリアについて考えておくことが望ましいので、さしあたりキャリア関連の入門書として下記を挙げておきます。

金井壽宏(2002)『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書(○)

森岡孝二(2011)『就職とは何か』岩波新書(○)

業界研究II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習(7月下旬から8月上旬に複数回実施、全回の受講が必須)
 第5回～12回 インターンシップによる実践的活動(8月～9月)
 第13回～15回 活動報告と事後評価(9月下旬に一日集中で実施予定、受講が必須)

※上述しましたが、通常の学期科目とは異なり変則的な日程が組まれます。日程の詳細については業界研究Iで説明がなされますので、よく確認してください。

※9月下旬に開催予定の「事後報告会」(第13～15回に相当)では、インターンシップの成果について10分間程度、パワーポイントにて報告してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

学生が提出するインターンシップ報告書(就業受け入れ企業・団体・組織の評価を含む)および報告会の発表内容により総合的に評価します。なお、インターンシップ報告書は事後報告会のときに提出しなければなりません。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ委員会にて評価します。

※事前研修、インターンシップ、事後報告会の全日程への出席が単位修得要件である。いずれかを無断で欠席した場合には成績が即不可となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: インターンシップに行くにあたって失礼のないように、希望する産業および企業に関する理解を諸文献を通じて深めてください。また、インターンシップに行く際の心構えについては事前研修で講義されます。

事後学習: インターンシップの報告書を作成すること、および事後報告会で報告・ディスカッションすることが、事後学習として位置づけられます。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となります。なお、インターンシップ実施要領を参照してください。
- (2) 本科目は1学期の時点から受講に関わるいくつかの申込手続きが開始されますので、それぞれの手続きの締切日には注意を払ってください。また、本科目の履修のためには諸書類を提出してもらう必要があります。例年、この書類不備のために残念ながら履修不可になってしまう学生が後を絶ちませんので、細心の注意を払ってください。申込プロセスやスケジュールについては「業界研究I」のなかで説明する予定です。
- (3) 単位認定にあたってはインターンシップへの出席のみならず、事前研修と事後報告会(経済学部主催とキャリアセンター主催の双方)のすべてに出席しなければなりません。特段の事情なしにいずれかを欠席した場合には単位を認めないものとします。
- (4) インターンシップに行くにあたり、事前の業界・企業研究と、事後的な振り返りを怠らないよう努めてください。
- (5) 本科目の関連科目として人材のマネジメントを扱う専門科目の「人的資源管理論」や、キャリアを扱う基盤教養科目の「キャリアデザイン」などが参考になるかと思えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

例年、履修申請をしていながら、事前研修や事後報告会を無断で欠席する学生が散見されます。申請したからには最後まで責任をもって学修に取り組むよう心掛けてください。

今後の就職活動およびその後の人生において必ず役立ちますので、インターンシップに行くことをよい機会として、社会人としての自覚と基本的素養を今から持つようしてください。

なお本科目の受講において必要な予備知識はとくにありません。はじめは知識が不十分であったとしても、本科目を通じて「業界や企業に関する知識」「自己の理解」が豊かになることを願っています。

キーワード /Keywords

経済・社会、キャリア、インターンシップ、人材マネジメント、実践

外書講読【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国語で書かれた経済に関する文献を講読するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討することができる。
	生涯学習力	●	外国語で書かれた経済に関する文献講読を通じて、身の回りの経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外書講読

ECN390M

授業の概要 /Course Description

発音の周波数域一つ取ってみても、英語と日本語は全く異なった言語と言えます。ですから、日本でだけ暮らしている人には、英語はたいへん聞き取りにくく感じられます。逆の経験として、私は、アメリカに住んでいたときに不意に日本語で話しかけられ、全然聞き取れなかったことがありました。

そんな英語の文章を、日本人が読めるようにするにはどうすればいいんでしょう？私は、カタカナ発音と学校文法からどれだけ脱却できるかだと思います。その過程で、辞書をできるだけ引かず、書いてある内容を漠然とでも理解しながら適度なスピードで読み進む練習がとても重要になります。

授業では、順番に経済に関する英文を音読してもらいながら、日本語で内容を解説します。また、各国経済や国際経済に関する必要な知識を説明して、身に付けてもらいます。

教科書 /Textbooks

The Economist の記事 (こちらで用意します。)

The Economist は1843年9月にロンドンで発行が開始された世界的な経済雑誌です。世界中に事務所を構え、多くのビジネスマンや学者をファンに持ちます。記事の内容も世界のあらゆる経済事情に渡りますが、タイムリーで興味深い内容を中心に毎回最新号の記事を読み解いていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な書籍があれば授業で紹介します。

外書講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Economist を読む (1)
2. The Economist を読む (2)
3. The Economist を読む (3)
4. The Economist を読む (4)
5. The Economist を読む (5)
6. The Economist を読む (6)
7. The Economist を読む (7)
8. The Economist を読む (8)
9. The Economist を読む (9)
10. The Economist を読む (10)
11. The Economist を読む (11)
12. The Economist を読む (12)
13. The Economist を読む (13)
14. The Economist を読む (14)
15. The Economist を読む (15)

たとえば、日本のニュースでも株価、為替レートなどがよく出てきますが、あなたはそれらを英語で言えますか。正解はそれぞれ、stock price, foreign exchange rate です。日本語のニュースでよく聞く経済用語も英語では意外と言えないものですね。

授業では世界の企業や業界の現状や各国の人々の生活など、産業や企業、消費生活についてのタイムリーな記事を取り上げ、参加意識を持ちながら楽しく読解に取り組みます。知らず知らずのうちに英文読解力を身に付けることができます。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度合で100%評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、インターネットやマスメディアで、ときどきの世界経済やアメリカ経済の状況を調べておいてください。
事後学習は、授業であえて最後のパラグラフを説明せずに残しますので、各自で読み解き理解しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業では、英文読解のコツを伝授したいと思います。経済学者による英文講読の授業で、英語を読む勉強と経済知識の獲得と、一挙両得を目論みませんか？英語は得意だがもっと読解に強くなりたい人にも、昔から英語に苦手意識のある人にも、面白く、ためになる授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気楽な気持ちで受講してください。英語力と経済知識がアップします。

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

The Economist 世界経済 業界 英語力 経済知識 発音 読解

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers using English in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, short conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 40%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers using English in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, short conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 40%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

ビジネス英語A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いて基礎的なビジネスコミュニケーションをとることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語A

ENG331M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。その第一歩としては、どのような場で英語が使われるかの理解から始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、必要な技能はリーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識の理解も目指します。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEICの対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネスコミュニケーションと英語(1) 【ビジネス、英語】
- 3回 ビジネスコミュニケーションと英語(2) 【わかりやすさ】
- 4回 レターとEメールのフォーマット(1) 【構成】
- 5回 レターとEメールのフォーマット(2) 【エチケット】
- 6回 オフィスの英語 電話の英語 (1) 【リスニング】
- 7回 オフィスの英語 電話の英語 (2) 【メッセージ】
- 8回 海外出張の英語(1) 【スケジュール】
- 9回 海外出張の英語(2) 【交渉】
- 10回 ビジネス社交の英語(1) 【招待】
- 11回 ビジネス社交の英語(2) 【案内】
- 12回 取引申込の英語(1) 【新規取引】
- 13回 取引申込の英語(2) 【信用照会】
- 14回 引合いの英語(1) 【インコタームズ】
- 15回 引合いの英語(2) 【見積もり】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

ビジネス英語A 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。
事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる表現に初めて出会い、特殊に見えるからだけです。習うより慣れるのが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みる事ができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers using English in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, short conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 40%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

Through a series of business related audio and video interviews, students will gain understanding and insight into a world of unique and interesting careers using English in Japan. Students will also have a chance to learn and practice important business related language and ideas through interviewing drills, short conversations, and reading challenges.

教科書 /Textbooks

Working in Japan (Video Interviews with 14 Professionals), Alice Gordenker and John Rucynski, Cengage Learning, ISBN: 978-4-86312-248-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 3回 Topic 1: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 4回 Topic 2: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 5回 Topic 2: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 6回 Review Quiz
- 7回 Topic 3: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 8回 Topic 3: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 9回 Topic 4: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 10回 Topic 4: Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 11回 Review Quiz
- 12回 Topic 5: Listening / Interviewing / and Focused Language Practice
- 13回 Topic 5 Speaking Practice / Idea Sharing / Reading and Discussion
- 14回 Review Quiz
- 15回 Final Test Review and Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 40%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary skills and practice listening accuracy and reading speed. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を用いたビジネスコミュニケーションを試みることができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語B

ENG332M

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との取引が必要です。国際ビジネスの領域は多岐にわたりますが、ここでは主たる状況を貿易の場に限定します。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学びます。ビジネス英語が初めての人もいますので、最初に英文ビジネスレター・メールの構成要素のような基本的なことから学び始めます。

英語によるビジネスコミュニケーションのスキルのうち、特にリーディング・ライティングの力の向上を目指します。英語を母国語としない学習者にとって、仕事で英語が必要な場合、リーディング・ライティングができることが中心になると考えます。その二つの領域のスキルを入門的なビジネスのレベルにまで高めておくことが大切です。また、貿易の様々な場面に伴う実務的な知識（貿易実務の知識）を習得します。テキストは、原則として二回の授業で一つのチャプターを終えます。

また、英語そのものの力を底上げするために、TOEIC対策のテキストを使い、リーディング・リスニングの力を高めます。TOEICのテキストは、400～500点レベルを対象としており、かなりわかりやすい英語です。TOEICのテキストは、二回の授業で一つの章を終えます。ビジネス英語Aと同じテキストを使いますが、Bの方が英語は少し難しくなっています。

教科書 /Textbooks

福田 靖 「Eメール時代のグローバル ビジネス英語」 成美堂 2010年
林 裕二 他 「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

ビジネス英語B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【グローバルビジネス、英語】
- 2回 オファーの英語 (1) 【オファー、インコタームズ】 レター等の構成要素
- 3回 オファーの英語 (2) 【カウンターオファー】
- 4回 注文の英語 (1) 【発注】
- 5回 注文の英語 (2) 【信用状態】
- 6回 契約書の英語 (1) 【契約】
- 7回 契約書の英語 (2) 【売買契約】
- 8回 信用状の英語 (1) 【当事者】
- 9回 信用状の英語 (2) 【取り消し不能信用状】
- 10回 出荷の英語 (1) 【船積み】
- 11回 出荷の英語 (2) 【船積書類】
- 12回 決済の英語 (1) 【支払い】
- 13回 決済の英語 (2) 【支払い方法】
- 14回 クレームの英語 (1) 【請求】
- 15回 クレームの英語 (2) 【処理】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、意味・発音等が分からない表現は、辞書等を使い調べておきます。日本語テキストの場合は、意味・読みが分からない表現を調べておきます。

事後学習としては次のようになります。英語テキストの場合は、授業で確認したことの理解を深めます。そのためには、テキスト付属のCDを何度も聞いて、文字・音声・意味が結びつくようにします。そして音読を繰り返します。日本語テキストの場合は、ビジネスについての実務の理解を深めるようにテキスト・ノートを読み込みます。英語・日本語のどちらにしても、事後学習で疑問点が出れば、次回授業で質問をしてください。メールでの質問もできます。

履修上の注意 /Remarks

次回の予告をします。「事前・事後学習の内容」にあることを、確実にすることが必要です。辞書、テキストを忘れると評価が下がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの人にとって、英語を使うビジネスの場、特に貿易には、なじみがないものです。最初の二ヶ月ほどは、難しく思える時期が続きます。それは、貿易の場に使われる英語に初めて出会うからであり、特殊に見えるからです。習うより慣れるが大事です。慣れてもらえれば楽になります。

キーワード /Keywords

ビジネス / 貿易 / コミュニケーション / レター

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、現実には保護主義的政策が多く実施されている理由について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 小国の貿易政策（1）【関税】
- 10回 小国の貿易政策（2）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 11回 小国の貿易政策（3）【有効保護】
- 12回 大国の貿易政策（1）【関税】
- 13回 大国の貿易政策（2）【最適関税率】【近隣窮乏化】
- 14回 大国の貿易政策（3）【輸出補助金】【輸入数量制限】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 20% 課題提出 20 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、保護貿易

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、自由貿易協定、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策の互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【ダンピング】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【製品差別化】【産業内貿易】
- 5回 不完全競争と貿易政策（1）【関税】
- 6回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量制限】
- 7回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】
- 8回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 9回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 11回 地域経済統合（1）【FTA】【CU】【EPA】
- 12回 地域経済統合（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 13回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 14回 貿易と環境（2）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 10% 課題提出 30 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、経済統合、海外直接投資、貿易と環境

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回) ...40%、課題...10%、期末試験...50%

変更する予定あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ファイナンス論【昼】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ファイナンスに関する専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	ファイナンスに関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りのファイナンスに関する諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ファイナンス論

ECN360M

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。またファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができます。

到達目標は以下のようになります。①現在価値分析を理解して、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式などの金融資産の価値を計算できるようになる、②ポートフォリオ理論におけるリスクとリターンの概念を理解して計算ができるようになる。

教科書 /Textbooks

榊原&城下&姜&福田&岡村著 (2013) 『入門証券論 [第3版]』有斐閣

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井・国枝監訳 (2014) 『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』『コーポレート・ファイナンス 第10版 下』日経BP社
- 小林孝雄・芹田敏夫 (2009) 『新・証券投資論 [I]』日本経済新聞出版社
- 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣 (2009) 『新・証券投資論 [II]』日本経済新聞出版社
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社
- 三井住友信託銀行マーケット事業 (2016) 『第6版 投資家のための金融マーケット予測ハンドブック』NHK出版
- 筒井義郎・佐々木俊一郎・山根承子・グレッグ・マルデワ (2017) 『行動経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券（1）【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券（2）【単利】【複利】
- 6回 株式（1）【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式（2）【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論（1）【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論（2）【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論（3）【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論（4）【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論（5）【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM（資本資産評価モデル）（1）【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM（資本資産評価モデル）（2）【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。
- ・ 日本経済新聞を購読して、金融・経済・経営に関する記事を中心に、毎日読んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回授業に出席して、内容を100%理解するように努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もあると思いますが、財政学（特に政府の役割）の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジюмеにベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にはNew Moodleから各自でダウンロードしてください。練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを考慮しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 2) マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- 3) マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 4) 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN: マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果: 公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収支率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にはNew Moodleから各自でダウンロードしてください。練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論を学ぶうえで必要な最低限のミクロ経済学の理論及びゲーム理論を確認したうえで、産業組織論で用いられる基本的な理論モデルについて解説する。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション・産業組織論とは
- 第2回：需要の特性1（価格効果，弾力性）
- 第3回：需要の特性2（消費の外部性）
- 第4回：費用の基礎概念
- 第5回：規模の経済・範囲の経済・経験の経済
- 第6回：完全競争市場の効率性
- 第6回：独占の基礎理論
- 第7回：独占の応用理論
- 第8回：ゲーム理論1（同時手番ゲーム）
- 第9回：ゲーム理論2（逐次手番ゲーム）
- 第10回：寡占と競争1（複占市場モデルの構築）
- 第11回：寡占と競争2（複占市場モデルの分析）
- 第12回：寡占と競争3（寡占市場モデルの構築）
- 第13回：寡占と競争4（寡占市場モデルの構築）
- 第14回：寡占と競争5（寡占市場モデルの応用）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。
講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論の基本的なツールを用いて、様々な応用問題についてのモデルの紹介、並びにモデル分析について解説を行う。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：完全競争市場と独占市場（復習）
- 第3回：市場集中
- 第4回：独占禁止法教室（予定）
- 第5回：クールノー競争
- 第6回：ベルトラン競争（同質財）
- 第7回：ベルトラン競争（製品差別化）
- 第8回：価格戦略1（第1次価格差別）
- 第9回：価格戦略2（第3次価格差別）
- 第10回：価格戦略3（第2次価格差別）
- 第11回：製品戦略1（バンドリング）
- 第12回：製品戦略2（水平的製品差別化）
- 第13回：製品戦略3（垂直的製品差別化）
- 第14回：製品戦略（過剰参入定理）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。
講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学 I

ECN343M

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.
『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.
『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経済学の視点から見た労働 【労働】【給与水準】
- 第2回 社会的分業と生産性 【分業の利益】【規模の経済】
- 第3回 労働市場という概念と機能 【労働力の取引】【労働市場】
- 第4回 労働力の質の質と技能 【人的資本】【一般的・企業特殊的技能】
- 第5回 企業の労働需要 【労働の限界収入】【企業の労働需要曲線】
- 第6回 市場の労働需要 【代替と補完】【市場の労働需要曲線】
- 第7回 個人の労働供給 【労働の限界不効用】【個人の労働供給曲線】
- 第8回 市場の労働供給 【市場の労働供給曲線】【労働移動】
- 第9回 労働市場のメカニズム 【市場メカニズム】【補償賃金】
- 第10回 中間試験
- 第11回 労働市場への介入とその帰結 【価格規制】【数量規制】
- 第12回 失業の原因と対策(1) 【オークンの法則】【賃金の下方硬直性】
- 第13回 失業の原因と対策(2) 【ミスマッチ】【摩擦的失業】【構造的失業】
- 第14回 公的部門の労働市場 【公的部門】【民間準拠】
- 第15回 労働市場の内部化 【内部労働市場】【正社員】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・・・40% 定期試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

履修済みであることが望ましい科目
経済学入門A・B、ミクロ経済学、マクロ経済学

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会的分業、労働市場、失業、賃金格差

労働経済学II 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学II

ECN344M

授業の概要 /Course Description

企業にとって「労働」は最も重要な生産要素であると同時に、最も扱いにくい生産要素の一つです。したがって、企業は「労働」をどのように活用していくべきかについて十分に考察しなければなりません。本講義では、企業の立場から「労働」をいかに活用していくべきかを経済学的に考えるために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版。
『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事経済学】
- 第2回 組織構造とインセンティブ 【情報伝達】【インセンティブ】【権限】
- 第3回 組織とフリーライド問題（1） 【ナッシュ均衡】【フリーライド】
- 第4回 組織とフリーライド問題（2） 【監督者】【残余利潤請求権】
- 第5回 事業規模と雇用量 【限界基準】【代替と補完】
- 第6回 採用選抜 【スクリーニング】【自己選抜】
- 第7回 雇用調整（1） 【調整費用】【長期的視野】
- 第8回 雇用調整（2） 【採用費用】【解雇費用】
- 第9回 離職と解雇 【解雇規制】【割増退職金】
- 第10回 インセンティブと報酬体系（1） 【参加制約】【インセンティブ制約】
- 第11回 インセンティブと報酬体系（2） 【プロフィットシェアリング】【モニタリング問題】
- 第12回 インセンティブと報酬体系（3） 【固定給】【出来高給】
- 第13回 報酬体系の設計（1） 【投入量ベース】【産出量ベース】
- 第14回 報酬体系の設計（2） 【絶対評価】【相対評価】
- 第15回 報酬体系の事例 【俸給表】【コミッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・ 40% 定期試験・・・ 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

履修済みであることが望ましい科目：労働経済学I
並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

国際貿易論I【昼】

担当者名 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国概説
- 6回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 7回 ASEAN4概説
- 8回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 9回 アジアNIES概説
- 10回 アジアNIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジアNIES】
- 11回 ヨーロッパ概説
- 12回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 13回 アメリカ概説
- 14回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学 I

ECN310M

授業の概要 /Course Description

< 講義の概要 >

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合の国際マクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の最新の動向」及び「日本経済の現状と課題」について「国際マクロ経済学」の視点から理解することが出来るようになるものと考えられる。なお、国際マクロ経済学では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が研究対象となるので、「国際収支表」と「国際収支の諸概念」等々の国際マクロ経済の統計指標（データ）の動向が分析対象になる。なお、国際収支表については、近年の国際金融の拡大を反映した国際通貨基金（IMF）による新改訂版「国際収支マニュアル：BPM」（第6版）についても言及していく予定である。

【追記】なお、本講義では、上記の授業概要のサブタイトル「通貨の視点から国際経済の動向を診る」を中心に、米国通貨ドル（\$）を基軸とした「国際通貨制度」の持続可能性について、「グローバル・インバラン」（Global Imbalances）問題について併せて考察していく予定である。これにより、現在の最大の課題である「国際金融危機」or「通貨危機」の解決の糸口が見えてくるものと考えられる。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 国際経済の課題（問題提起）：“グローバル・インバランス”とその持続可能性・・・【経常収支黒字・赤字】
【国際資本の動向】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅰ）：国際資本（国際剰余資金）とアメリカ経済・・・【国際資本】【基軸通貨：ドル】
- 第4回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済の動向と欧州連合（EU）&新興経済国（BRICs）の現状
EU離脱【欧州連合】【共通通貨：ユーロ】【ギリシャの財政危機】【中国経済の現状】 【英国の
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅰ）—マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）—・・・【総供給・総需要】 【閉鎖経済・開放経
済モデル】【輸入超過&輸出超過】【マクロ不均衡と経常収支】【世界経済の不均衡問題】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅱ）—国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）— 【アブソープション理論】
【内需・外需】【経常収支の黒字・赤字】【世界一の債権国】【世界一の債務国】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅰ）・・・【経常収支】【資本収支or金融収支】【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅱ）・・・【経常収支黒字と資本収支赤字】【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）・・・【経常赤字】【財政赤字】【外貨準備高】【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）・・・【資本の輸出】【対外投資】【対外純資産】【世界一の債権国】 第11回 日本経済の国際マ
クロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ）【資金循環】【財政収支】【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ）【過剰貯蓄】【資本輸出】【金融資産】
- 第13回 日本経済現状分析：経常収支の黒字問題と外貨準備高
【円高&円安の経済分析】【対外純資産】【円キャリートレード】【円高とデフレ】
- 第14回 世界経済の不均衡問題・・・【経常収支の黒字・赤字】【債権大国：日本・中国】【債務大国：アメリカ】
【グローバル・インバランス】【国際資本移動】【オフショアドル】
- 第15回 まとめ - 日本経済の再生：円の国際戦略&円の国際化 -

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み（授業の中で適宜指示します）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業内容に関連する資料（雑誌記事、新聞記事etc）を収集して、事前・事後の学習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、授業の補助教材ですので、テキストやノートと共に有効に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、事前に「マクロ経済学」や「国際金融論」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおくとよいでしょう。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給・バランス オープン・マクロ 国際収支表 アブソープション 経常
収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務 対外純資産 円
キャリートレード 貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本移動 円高・円安 基軸通貨：米ドル 共通通貨
：ユーロ グローバル・インバランス 世界経済の不均衡 国際通貨のトリレンマ オフショアドル

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	海外部門を考慮したマクロ経済分析についての専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	世界経済情勢に関連する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの世界経済情勢に関連する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際マクロ経済学II

ECN311M

授業の概要 /Course Description

< 講義の概要 >

国際マクロ経済学は、海外との経済取引を考察の対象とするので、究極的には、“外国為替レート”の問題が議論の中心になってくる。外国為替レートは、基本的には海外貿易や資本取引（国際金融）といった経済取引を反映した形で外国為替市場で決定されるが、今日では国際資本の動きが活発になってきており、国際資本の動向（投機的な動き）が各国の為替レートに大きな影響を及ぼし、各国の実体経済に深刻な影響を与えている。

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な“外国為替市場”に関する「基本概念」と「基本理論」をできる限り平易に解説していくことを目的としている。特に、現在の国際通貨システムの根幹を担っている米国通貨ドル（基軸通貨）の役割が大きく揺らいできている状況下、国際通貨（基軸通貨）ドルの不安定な動きが国際金融システムの波乱要因ともなっている。講義では、国際通貨“米ドル”の動きを基軸にして、海外との取引を視野に入れた国際マクロ経済学（オープン・マクロ経済学）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

< 講義の目的 >

本講義を受けることで、「国際マクロ経済学」を“通貨”（為替レート）の視点から理解し、各国のマクロ経済政策の在り方について理解を深めて頂けることを講義の目的としています。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際マクロ経済学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション：国際通貨システムの視点から見た「世界経済の動向」と「日本経済」	
第2回	国際通貨制度とその変遷・・・【金本位制度】【固定相場制度】【変動相場制度】【管理通貨制度】	【IMF体制】
第3回	SDR【国際通貨制度の三位一体説】【流動性ジレンマ】【最適通貨制度】【複数通貨制度】	
第3回	外国為替取引と為替レート・・・【外国為替市場】【邦貨(円)建てレート】【外貨(ドル)建てレート】	
第4回	外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度・・・【平価】【固定レート】【市場レート】	
第5回	外国為替レートの決定メカニズム・・・【ドル買い】【円売り】【フロー・アプローチ】 【アセット・アプローチ】【購買力平価説】	
第6回	変動為替相場(フロート)制度・・・【円高】【円安】	
第7回	固定為替相場制度・・・【平価】【為替介入】【外貨取引の規制】【マクロ経済政策】	
第8回	変動為替相場制度と為替介入(I)・・・【管理フロート制】【金融のグローバル化】 【国際資本移動】【為替リスク】	
第9回	変動為替相場制度と為替介入(II)・・・【外国為替資金特別会計】【FB：政府短期証券】	
第10回	為替介入と外貨準備高・・・【通貨当局】【ベース・マネー】【マネー・サプライ】【信用創造】	
第11回	外国為替レートとマクロ経済政策の効果・・・【財政政策】【金融政策】【資本移動】 【不胎化介入】【非不胎化介入】	
第12回	固定相場制と政策効果・・・【固定レート】【平価】【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】	
第13回	変動相場制と政策効果・・・【市場レート】【金融政策】【財政政策】	
第14回	グローバル経済化と資本移動・・・【マンデル＝フレミングモデル】【金融政策の効果】【財政政策の効果】	
第15回	まとめ-世界経済の動向と今後の展望-	

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) 授業への意欲益な取組み(授業中に適宜指示します)・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、授業単元(授業内容)の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連する資料(雑誌記事、新聞記事etc)を収集して、事前予習や事後復習に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布した資料は、テキストやノートと共に授業中の補助教材として活用します。予習や復習に役立
てると共に、授業には必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 経済学部学生は、マクロ経済学や金融論、財政学などの講義を事前に受講していれば本講義の理解に役に立つ
でしょう。
- (2) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業が
より効果的なものになるでしょう。
- (3) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料等をよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 基軸通貨(国際通貨) MF体制 SDR 国際通貨制度の三位一体 流動性ジレンマ 最適通貨制度 複数通貨制度 外国為
替市場 邦貨(円)建てレート 外貨(ドル)建てレート 平価 為替介入 外貨取引の規制 マクロ経済政策 国際金融 金融政策 為替政策
財政政策 円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外国為替資金特別会計 FB(政府短期証券) 不胎化介入 非不胎化介入 国際資本移
動

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済 I ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。
加えて日本は、人口減少社会に突入している。
大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。
本講義では主に以下の4つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。
4. 人口減少社会を迎えた日本の地域経済について考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】【経済地理学】【地域政策】
- 3回 経済発展と地域構造【産業構造】
- 4回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 5回 工業化の進展②【高加工度化】
- 6回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 7回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 8回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 9回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 10回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 11回 工業地帯から大都市へ【太平洋ベルト地帯】【東京一極集中】
- 12回 一体型国土構造の盛衰【一体型国土構造】
- 13回 人口減少と地域経済【生産年齢人口】【デフレの正体】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済II

ECN245M

授業の概要 /Course Description

今日われわれの経済システムは大きな変化に見舞われている。
その影響を受け、我々の生活も、またその生活の場である地域経済も大きな変化を強いられている。
本講義は「技術革新と経済システム」の関係づけがベースとなっている。

具体的には
「コンピュータ・ネットワーク（CN）が経済を変え、ひいては私たちの生活の場である地域経済を変える」ということを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか（講義の概要）
- 2回 資本主義が終わるって言われても【資本主義】
- 3回 人工知能で仕事なくなる？【AI】【IoT】
- 4回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 5回 ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
- 6回 技術革新と経済発展【技術論】
- 7回 インターネットの衝撃【CN（コンピュータ・ネットワーク）】
- 8回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 9回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 10回 市場の世界化②【労働市場】
- 11回 CNと都市【産業集積】
- 12回 イノベーションとクリエイション【イノベーション】
- 13回 クリエーションの場としての都市【クリエイション】
- 14回 地域経済の行方【セルフ・プロモーション】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策

ECN250M

授業の概要 /Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。
山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
- 10回 新産業育成と地域政策
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 交流人口と地域政策
- 13回 地域問題解決の新たな手法
- 14回 地域政策と地域経営
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 20% 期末テスト... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、1) 講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを3つにまとめること、2) 事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

北九州経済分析I【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができてい
	プレゼンテーション力	る。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析 I

ECN251M

授業の概要 /Course Description

1～5回は、北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、着目すべき企業や経営者について解説し、北九州市の特徴について考察を加えます。
6～9回は、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の動向を踏まえながら、企業戦略、産業動向・業態変化などのダイナミズムについて考察します。
10～14回は、都市としての北九州市の変容過程を説明するとともに、小倉などの中心市街地や東田開発などの地域開発について具体的に考察します。
そして、15回は1～14回を総括する形で、北九州市の特徴を考察し、今後について展望します。
よって、受講生には日常的に北九州市の経済社会や地元の企業の動向に興味を持って授業に望んで欲しいと思います。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』（2010年10月）
九州経済調査協会編『図説 九州経済2017』（2017年10月）
北村亘『政令指定都市』（2013年7月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【企業城下町】、【鉄鋼業】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 戦後の北九州の企業の動向【八幡製鐵所】、【安川電機】、【TOTO】
- 5回 安川電機の歴史とこれから《事例研究：ゲスト招聘予定》
- 6回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 7回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 8回 FCビジネスと外食産業【店舗展開】、【FCビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 9回 地域における小売業【デパート】、【スーパー】、【コンビニ】、【ドラッグストア】、【業態変化】
- 10回 政令指定都市としての北九州市【人口動向】、【少子・高齢化】、【政令指定都市】
- 11回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 12回 東田開発とスペースワールド跡地問題【テーマパーク】、【データセンター】、【アウトレット】
- 13回 北九州市における中心市街地の変容【商店街】、【繁華街】、【飲食業】、【サービス経済化】
- 14回 小倉の繁華街における安全・安心の街づくり《事例研究：ゲスト招聘予定》
- 15回 総括～北九州の特徴と今後の展望～

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに、講義で活用したパワーポイントや資料、さらには参考文献などをmoodleにアップしますので、各自きちんと振り返りを行なってください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、地域企業、グループ経営、業態変化、中心市街地、繁華街

北九州経済分析II 【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 北九州市の経済動向を理解するために専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 北九州市の経済動向に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 北九州市の事例を参考に、身の回りの地域経済の動向に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

北九州経済分析II

ECN252M

授業の概要 /Course Description

北九州の経済の実態を現場視線で学習します。具体的には、まず北九州で活躍する中小企業の動向を分析しつつ、経営の実態について、経営戦略、新規事業戦略、イノベーション戦略、組織マネジメント等の視点で考察します。また、後半部分では、北九州市八幡西区の黒崎地域にフォーカスして、街の変容について分析をしていくとともに、地域における協働やコラボレーションの実態やその意義についても検討します。なお、本授業においては、北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）を卒業して、活躍している経営者や地域のキーパーソン4名をゲストスピーカーとして招いて講義して頂きます。各ゲストスピーカーの事例や経験から現場の実情をしっかりと学んで下さい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- P. F. ドラッカー 『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社 (2001年12月)
- 遠藤功 『経営戦略の教科書』光文社新書 (2011年7月)
- クレイトン・クリステンセン他 『イノベーションのDNA』翔泳社 (2012年1月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域のリーダー、地域のマネジャー【リーダーシップ】、【マネジメント】、【マネジメントの3要素】
 - 2回 北九州地域における中小・中堅企業の役割とポジション【中小企業】、【下請け】、【脱・下請け】
 - 3回 《事例研究1》独自ポジションで活躍する中堅企業の実態【ニッチ戦略】、【イノベーション人材】【営業】
 - 4回 中小・中堅企業にとってのイノベーションのDNA【イノベーション】、【発見力】、【関連づける力】
 - 5回 北九州における鉄鋼業の構図と変容【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】
 - 6回 《事例研究2》鉄鋼業を支える中堅企業の経営戦略【中堅企業】、【海外戦略】、【新規事業創出】
 - 7回 都市鉱山ビジネスの変遷と今後の可能性【レアメタル】、【リサイクル】、【金メダルプロジェクト】
 - 8回 北九州における環境産業の変遷【環境産業】、【エコタウン】、【再生資源】、【SDG's】
 - 9回 《事例研究3》中小環境関連企業の新規事業戦略【新規事業創出】、【多角化】、【リサイクル】
 - 10回 企業における多角化戦略の実践【コア・コンピタンス】、【アンゾフの成長ベクトル】、【外部環境変化】
 - 11回 副都心・黒崎の変遷と現状の課題【商店街】、【商業】、【空洞化】、【百貨店】
 - 12回 《事例研究4》成熟時代の大型商業施設の経営の実態【コラボレーション】、【テナントリーシング】
 - 13回 これからの大型商業施設の展開方向【サービス化】、【飲食業】、【セレクトショップ化】
 - 14回 成熟時代の地域振興～あるもの探しの意義～【地域資源】、【地方創生】、【地域事業創造】
 - 15回 まとめ～北九州経済の今後と中小・中堅企業の可能性【マネジメント】、【イノベーション】
- * 3回目、6回目、9回目、12回目の授業にゲストスピーカーを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 40 % 課題レポート 10 % 定期試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、授業終了後に速やかに講義で活用したパワーポイントや資料や参考レポート等をできるだけMoodleにアップしますので、各自きちんと振り返りをしてください。
また、ゲストスピーカーの講義の前には、ゲストスピーカーの所属する企業をきちんと情報収集してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（北九州市立大学ビジネススクール）のOBの方々をゲストスピーカーとして招聘しますので、ゲストスピーカーの方々のマネジメントやリーダーシップについて意識して聞いてください。

キーワード /Keywords

地域企業、中小企業、中堅企業、新事業創出、イノベーション、コラボレーション、地域資源、リーダーシップ、マネジメント

地方財政論【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済【昼】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済

ECN350M

授業の概要 /Course Description

テキスト内容に沿ってマクロ的視点とミクロ的視点に分けて解説を加えていく。まずマクロ的視点としてテキストに記述されているように①「近年注目を集めている中国のGDP統計の信頼性をめぐる議論を整理し、中国の経済統計を読み解く上で必要なリテラシーについて解説する」、②「グローバル経済と中国の国内経済との相互関係について、人民元の国際化の観点から解説する」、③「従来の高成長を支えてきた<投資依存経済>の性質の問題点とそこから脱却に向けた新たな成長パターンへの転換の可能性について解説する」、④「中国経済の問題点として注目されている地域格差・所得格差の現状や地方政府の債務拡大問題」について解説を加えていく。次にミクロ的視点としてテキストに記述されているように①「近年学術界で注目を集めている農村の余剰労働力の枯渇、いわゆるルイスの転換点をめぐる論争を整理し、労働力不足が今後の中国経済に与える影響について解説する」、②「今後の中国経済に大きな影響を与える国有企業改革の行方、「ゾンビ企業」と呼ばれる生産性の低い国有企業が過剰な生産設備を抱え込み、成長の足かせになっていることなどについて解説する」、③「脆弱な財産権保護、貫徹しない法の支配、説明責任を持たない政府の経済への介入といった中国経済の<制度>的特徴を背景として、なぜイノベーションが生じるのか、そしてその持続可能性について解説する」、④「中国に進出した日本企業は以前よりビジネス慣行の違いなどから様々な問題に直面している」といった内容について理解を深めていける解説を加えていく。

併せて、新聞や経済雑誌のトピックスを取り上げ概説していく予定である。

教科書 /Textbooks

梶谷懐『中国経済講義』（中公新書）、中央公論新社、2018年、880円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの内容に沿って解説を加えていくと共に、中国経済の今をより理解していく手掛かりとして新聞や経済雑誌のトピックスに関しても概説を加えていく予定である。

第1回：オリエンテーション、中華人民共和国建国以降の経済発展過程を東アジア全体の中でのプレゼンスの変遷

第2・3回：序章中国の経済統計は信頼できるか、①GDP統計は擬装されているのか、②誤差が生まれた理由

第4・5回：第1章金融リスクを乗り越えられるか、①変調を招いたデット・デフレーション、②人民元の国際化と「トリレンマ」、③トランプ・ショック

第6・7回：第2章不動産バブルを止められるのか、①資本過剰経済に陥った理由、②不動産市場のバブル体質

第8・9回：第3章経済格差のゆくえん、①個人間の所得格差の拡大、②地域間経済格差の変動と再分配政策、③中国経済に立ちはだかる「ユーロ圏の罠」

第10・11回：第4章農民工はどこへ行くのかー知らざざる中国の労働問題、①中国の労働市場と農民工、②ルイスの転換点と新型都市化政策、

③「まだらな発展」が労働者にもたらすもの

第12・13回：第5章国有企業改革の行方ー「ゾンビ企業」は淘汰されるのか、①国有企業は特権を享受しているのか、②台頭する民間企業と国有企業の行方

第14・15回：第6章共産党体制での成長は持続可能かー制度とイノベーション

成績評価の方法 /Assessment Method

①期末定期試験（到達目標に掲げた項目に関して確認する試験内容）：50%

②学習レポート（課題取組の仕上がり内容<所定の授業外学習時間に取組んだ内容であるかどうか評価基準とする>）：50%を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回学習レポートを課す(12回程度実施予定)

学習レポートの内容は①授業準備としてテキストを読み、それに関する設問への解答、②新聞を毎日眺め、中国に関する記事のタイトルの列挙、③予備知識としての中国経済に関するキーワード調べなどを実施する予定である。

履修上の注意 /Remarks

学習レポートの実施内容については授業外学習時間を確保するための学習課題の分量を課します。そのため学習レポート取組に当たって、毎日コツコツと課題をこなす必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国経済の理解を深めていくには「いま」を知ることが必要です。新聞を毎日眺め、中国に関する記事を探してみましょう。あわせて、世界の経済動向や日本の経済動向についても興味関心を向けてみましょう。

キーワード /Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済

ECN351M

授業の概要 /Course Description

トランプ大統領のアメリカ・ファーストの政策は、経済グローバリズムの流れを経済ナショナリズムへと反転させたかのように見えます。トランプ大統領の経済政策によってアメリカ経済は世界経済成長の牽引車となるのでしょうか？それとも、保護主義的な通商政策によって新興経済を不安定な状況に陥らせてしまうのでしょうか？アメリカの中央銀行にあたるフェッドは、QE政策からの出口戦略を確実に進めつつあります。このことはアメリカ経済や各国通貨の為替レートにどのような影響を及ぼすのでしょうか？学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。

この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

若林栄四『アメリカ経済の終焉 - 破裂する資産バブルと政治の墮落』集英社、2018年10月。

倉石灯・中野博『なぜ、トヨタはテキサスに拠点を移したのか？アメリカ経済の未来を左右する「テキサス州」の戦略』日本実業出版社、2018年12月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

アメリカ経済 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください。

事後学習では、その日の講義内容を理解・記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

東アジア経済論【昼】

担当者名 柳 学洙 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジアが世界経済の成長エンジンと言われるようになって久しい。21世紀は東アジアの時代だとも言われる。だが、「東アジア」という言葉が指す地域は広大であり、それぞれの国・地域がたどった歴史と経済成長の経路も多様である。そのような東アジアの発展経路の多様性を知り、それぞれの特徴を比較して考える視点を持つことは、日本に生きる我々にとって必要な知的訓練である。

この授業では、アジア経済の将来を展望するために必要な基本的知識を得ることを目標として、第二次世界大戦後のアジア各国の経済発展の歩みと現在の課題を概観する。

また、日本と東アジアを比較して考えるためのトレーニングとして、隣国である韓国・中国と日本が共通して抱える社会・経済的課題を取り上げて解説する。

最後に、東アジアの経済統合がいかなる秩序とコンセンサスの下で可能なのかを探るために、現在進んでいる様々な経済統合の試みを分析する。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』 ミネルヴァ書房
- 遠藤環ほか編 (2018) 『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』 有斐閣
- 坂田幹男 (2013) 『ベーシック アジア経済論』 晃洋書房
- ジェット口・アジア経済研究所 『アジア動向年報』 各年版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，第二次世界大戦後の東アジア経済 - 社会主義と開発主義
- 第2回 「東アジアの奇跡」と開発主義国家
- 第3回 1997年のアジア通貨危機と従来の発展モデルの挫折
- 第4回 アジアNIEsの経済発展① 韓国
- 第5回 アジアNIEsの経済発展② 台湾
- 第6回 アジアNIEsの経済発展③ シンガポール
- 第7回 東南アジアの経済開発 - インドネシアとマレーシアの事例から
- 第8回 中国の経済発展 - 社会主義市場経済の挑戦
- 第9回 社会主義国の市場経済導入政策 - ベトナムと北朝鮮
- 第10回 日韓経済の比較 若年層の雇用と格差拡大
- 第11回 日中韓経済の比較 少子化問題と社会保障
- 第12回 2000年代の東アジア経済① 経済交流の深化と中国の台頭
- 第13回 2000年代の東アジア経済② 地域内の労働力移動と人の定着
- 第14回 2000年代の東アジア経済③ 広域自由貿易圏構想と中国主導の経済秩序
- 第15回 まとめ - アジアの経済統合の展望と日本の役割

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、JETROのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、授業で取り上げる国の基本データを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、自分が関心のある東アジア各国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「東アジア」という地域は、何となく知っているようでありながら、学んでみると知らないことや意外な側面がドンドン出てきます。この授業を通じて、皆さんがすぐ隣にある東アジアの人々と国のことを知り、親しみを感じられるようになったらいいと思います。

キーワード /Keywords

東アジアの開発主義，移行経済論，東アジアの少子化問題，労働力移動，国際分業，地域統合

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。
(旧版を購入しないよう注意すること。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
○坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

経営学入門 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

事後学習：毎回復習問題を配布するので、この内容を講義後に復習しておくことが期待される。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会（とくに政治経済領域）」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよ。
- (2) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (3) シラバスには記載されていないが、企業論との連動を鑑み、ファイナンスの内容もどこかで取り扱いたいと思っている。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。

履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

講義の進め方や、成績評価に関する詳細な情報は講義初回に説明する。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営学の理論および実践の理解に必要な基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関する諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学入門

BUS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを、企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2018)『経験から学ぶ経営学入門(第2版)』有斐閣。
(旧版を購入しないよう注意すること。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
○坂下昭宣(2014)『経営学への招待(新装版)』白桃書房。

基本的な用語集として、吉田和夫・大橋昭一編(2010)『最新基本経営学用語辞典』同文館出版が有用である。用語集は各概念の確認と理解のために用いる本であり、棒暗記を目的とするものではない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 13回 マーケティング【消費者行動】【流通】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
※ただし出席はとり、単位修得の要件とする。

経営学入門 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

事後学習：毎回復習問題を配布するので、この内容を講義後に復習しておくことが期待される。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会（とくに政治経済領域）」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよい。
- (2) 第3回「コーポレート・ガバナンス」は企業論全体の広い内容を含むので、1回の講義に収めるには難しい内容である。場合によっては2回に分けて講述するかもしれない。
- (3) シラバスには記載されていないが、企業論との連動を鑑み、ファイナンスの内容もどこかで取り扱いたいと思っている。
- (4) 私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。

履修上の注意にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

講義の進め方や、成績評価に関する詳細な情報は講義初回に説明する。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

企業論基礎 【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、会社の資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」のうち、「カネ」に関する理論を学習することである。会社が製品やサービスを提供するために、ヒトを雇ったり、モノを作ったり、情報を得たりする際には、カネが必要となる。そのような資金をどのように調達するのか、調達した資金は経営活動の中でどのように流れていくのかなど、ファイナンスに関する基礎的な事項を学習する。また、会社（特に株式会社）の基本的な仕組みや経営戦略などについても、実例をとりあげながら解説する。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleにアップするので、各自印刷のうえ、講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征 (2016) 『会社法 (第3版)』 有斐閣。
小佐野広 (2001) 『コーポレート・ガバナンスの経済学』 日本経済新聞社。
釜江廣志 編 (2015) 『入門証券市場論 (第3版補訂)』 有斐閣。
小松章 (2006) 『企業形態論 (第3版)』 新世社。
榎原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫 (2013) 『入門証券論 (第3版)』 有斐閣アルマ。
手嶋宣之 (2011) 『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』 ダイアモンド社。
沼上幹 (2008) 『わかりやすいマーケティング戦略 (新版)』 有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 証券と投資 (1) 【証券の役割、直接金融、間接金融】
- 第3回 証券と投資 (2) 【発行市場と流通市場、リスクとリターン】
- 第4回 株式会社と株式【会社の種類、株主の責任、情報の非対称性、財務諸表の役割】
- 第5回 企業分析 (1) 【比例縮尺財務諸表の作成】
- 第6回 企業分析 (2) 【収益性、安全性】
- 第7回 企業分析 (3) 【5つの競争要因、市場シェア】
- 第8回 企業分析 (4) 【競争戦略、コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略】
- 第9回 評価の基本原則 (1) 【単利、複利、将来価値】
- 第10回 評価の基本原則 (2) 【現在価値】
- 第11回 ポートフォリオ理論 (1) 【個別証券のリスクとリターン】
- 第12回 ポートフォリオ理論 (2) 【証券の連動性】
- 第13回 ポートフォリオ理論 (3) 【CAPM、効率的市場仮説】
- 第14回 行動ファイナンス
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30% (10回 × 3点) + 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: Moodleから講義資料を入手し、講義内容を予習しておくこと。
事後学習: 一部の回ではMoodleで小テスト(成績評価を参照)を実施するので、忘れずに受験すること。

企業論基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

- * 計算問題が多いので、毎回の講義に電卓を持参すること。
- * 小テストの公開期間は講義後の約1週間である。過去の小テストを遡及的に受験することはできないので忘れずに受験すること。
- * 講義中の私語や騒音、スライドおよび板書の写真・動画撮影を禁止する。禁止事項を行った学生に対して注意しても改善が見られなかった場合、成績評価から減点の措置を取る場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業を運営するために必要な経営管理・マネジメントの基礎的知識について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待（第3版）』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【組織と個人】【統合】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

マネジメント論基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

経営組織論 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第3回 管理とは何か① 【管理過程】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【事実の認識】【イナクトメント】【円環的対応】
- 第5回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第6回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第7回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第8回 中間テスト
- 第9回 組織構造① 【権限の原則】【権限と権威】
- 第10回 組織構造② 【ライン組織】【コンテインジェンシー理論】
- 第11回 組織構造③ 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第12回 動機づけ理論① 【金銭による動機づけ】【人間関係】
- 第13回 動機づけ理論② 【欲求階層説】【自己実現】【X-Y理論】【動機づけ-衛生理論】【達成動機】
- 第14回 現代組織と意思決定 【随伴的結果】【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・40% 中間テスト・・・30% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。また、適宜、レポート課題の提出を求めます。

経営組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の三要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジユメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 産業進化とイノベーション【技術】【市場】【オープン・クローズ】
- 第12回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】
- 第14回 経営戦略と組織3-事例研究-【組織文化】【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によります。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie,『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回 コーポレート・ファイナンスの世界(1)【期待リターン，リスク（標準偏差）】
- 3回 コーポレート・ファイナンスの世界(2)【証券，発行市場，流通市場】
- 4回 コーポレート・ファイナンスの世界(3)【ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(1)【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株】
- 7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(2)【ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(1)【普通社債，フロント債】
- 9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(2)【転換社債，MSCB】
- 10回 配当の基礎知識(1)【配当政策，配当性向，配当利回り】
- 11回 配当の基礎知識(2)【自社株買い戻し，株式分割】
- 12回 コーポレート・ガバナンス(1)【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード】
- 13回 コーポレート・ガバナンス(2)【取締役会制度，執行役員制度，大株主】
- 14回 コーポレート・ガバナンス(3)【敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等をMoodleに挙げていますので，必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回 現在価値計算(1)【現在価値 (PV)，将来価値 (FV)，安全利子率】
- 3回 現在価値計算(2)【リスクプレミアム，投資信託】
- 4回 株式価値・負債価値と企業価値(1)【金融商品，利付債，割引債，クーポン】
- 5回 株式価値・負債価値と企業価値(2)【配当割引モデル (DDM)】
- 6回 株式価値・負債価値と企業価値(3)【企業価値，株式価値，負債価値】
- 7回 資本コスト(1)【資本コスト，最低要求収益率】
- 8回 資本コスト(2)【加重平均資本コスト】
- 9回 資本コスト(3)【マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル (CAPM)， β (ベータ)】
- 10回 投資決定の基礎理論(1)【投資決定，割引キャッシュフロー (DCF) 法，正味現在価値 (NPV)】
- 11回 投資決定の基礎理論(2)【内部収益率 (IRR)，回収期間法】
- 12回 資本構成の基礎理論(1)【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引】
- 13回 資本構成の基礎理論(2)【法人税，倒産コスト】
- 14回 資本構成の基礎理論(3)【トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等をMoodleに挙げていますので、必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には、授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスII【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マーケティングの理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティング I

BUS230M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティング(前期)では、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣、
P・Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
林田実「サイコロを振って、統計学!」創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの意義と歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・50% テスト・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

マーケティングI【昼】

履修上の注意 /Remarks

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マーケティングの理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● マーケティングに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● マーケティングに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マーケティングII

BUS231M

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。
本講義では、マーケティングの基本構造を明らかにした後、演習を交えながら効果的・効率的なマーケティングのあり方を理解し、マーケティング課題の解決方法を身につけることを目標にする。
そこでマーケティングII(後期)では、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦「マーケティング戦略」有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館
小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取り組み度合・50% テスト・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

マーケティングII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論Ⅰ

BUS210M

授業の概要 /Course Description

- この授業では、企業、とりわけ株式会社の歴史や仕組み、役割、実態等について説明する。具体的には、企業とは何か、その基本的な性格や役割を議論し、日本における会社の種類や株式会社の特徴、課題について、企業統治（コーポレート・ガバナンス）の観点から考察する。
- 原則、毎回授業資料を配布し、パワーポイントを用いて講義する。
- 毎時間、ミニツツペーパーに書かれた受講生の質問や意見を紹介し、理解の共有を図る。

教科書 /Textbooks

「なし」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・佐久間信夫編『よくわかる企業論（第2版）』ミネルヴァ書房(2016年) 2,700円＋税 ○
- ・汪志平『企業論テキスト』中央経済社(2015年) 2,700円＋税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 授業の概要と目的、評価方法等の説明
- 2回 企業とは何か（1） 【企業の定義と目的】
- 3回 企業とは何か（2） 【企業の役割と存在意義】
- 4回 企業とは何か（3） 【企業は誰のものか、誰のために存在するのか】
- 5回 企業形態（1） 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態（2） 【会社形態】 【合名会社】 【合資会社】 【合同会社】 【株式会社】
- 7回 企業形態（3） 【株式会社発展の歴史】
- 8回 企業形態（4） 【株式会社の制度的特徴】
- 9回 企業形態（5） 【株式会社と証券市場】
- 10回 企業統治（1） 【会社の所有と支配】
- 11回 企業統治（2） 【企業統治の概念と目的】
- 12回 日本の企業統治（1） 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 13回 日本の企業統治（2） 【取締役会の改革と執行役員制】
- 14回 日本の企業統治（3） 【指名委員会等設置会社】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 予習：事前に配布される授業資料には必ず目を通して授業に望むこと。
- ② 復習：その日のうちに重要な内容や用語などを整理・理解するようにすること。

履修上の注意 /Remarks

- ・1年次の「企業論基礎」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業、会社というものは、実に身近な存在です。企業を身近に感じ、その活動に興味をもって企業論を学ぶことにしましょう。

キーワード /Keywords

企業 企業形態 株式会社 専門経営者 企業統治 (コーポレート・ガバナンス)

企業論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論II

BUS211M

授業の概要 /Course Description

- ① この授業では、企業と社会の関係を、とりわけCSR（企業の社会的責任）の観点から説明する。また、企業統治（コーポレート・ガバナンス）の国際比較を通じて、企業統治上の各国企業の特徴と問題点を考察する。
- ② 原則、毎回授業資料を配布し、パワーポイントを用いて講義する。
- ③ 毎時間、ミニツッパーパーに書かれた受講生の質問や意見を紹介し、理解の共有を図る。

教科書 /Textbooks

「なし」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 佐久間信夫編『よくわかる企業論（第2版）』ミネルヴァ書房(2016年) 2,700円＋税 ○
- ・ 汪志平『企業論テキスト』中央経済社(2015年) 2,700円＋税 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 授業の概要と目的、評価方法等の説明
- 2回 企業と社会の関係 【ステークホルダーからの社会的要請】
- 3回 CSR（企業の社会的責任）（1） 【CSRの概念と基本的な考え方】
- 4回 CSR（企業の社会的責任）（2） 【コンプライアンス経営】
- 5回 CSR（企業の社会的責任）（3） 【社会貢献活動】
- 6回 CSR（企業の社会的責任）（4） 【企業倫理】
- 7回 CSR（企業の社会的責任）（5） 【環境経営】
- 8回 CSR（企業の社会的責任）（6） 【日本企業のCSR経営の現状と課題】
- 9回 CSR（企業の社会的責任）（7） 【ソーシャル・エンタープライズ（社会的企業）】
- 10回 企業統治の国際比較（1） 【企業統治の概念と目的】
- 11回 企業統治の国際比較（2） 【アメリカの企業統治】 【取締役会の改革】
- 12回 企業統治の国際比較（3） 【アメリカの企業統治】 【機関投資家の台頭】 【エンロン事件】
- 13回 企業統治の国際比較（4） 【ドイツの企業統治】
- 14回 企業統治の国際比較（5） 【中国の企業統治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 予習：事前に配布される授業資料には必ず目を通して授業に望むこと。
- ② 復習：その日のうちに重要な内容や用語などを整理・理解するようにすること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1年次の「企業論基礎」及び2年次の「企業論I」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業、会社というものは、実に身近な存在です。企業を身近に感じ、その活動に興味をもって企業論を学ぶことにしましょう。

キーワード /Keywords

CSR (企業の社会的責任) 企業倫理 ソーシャル・エンタープライズ (社会的企業) 企業統治の国際比較

人的資源管理論【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行います。本講義では、教科書を指定するので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できるとは思いますが、講義の順序を教科書の配列とは少し変える可能性があります。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(税込3,024円)
(旧版を購入しないよう注意してください。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白木三秀編(2018)『人的資源管理の力』文真堂。
○上林憲雄編(2016)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。
岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 人間モデルの変遷【科学的管理法】【人間関係論】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 安全と衛生の管理【リスクマネジメント】【ハラスメント】
 - 11回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】、
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。

事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) 教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と異なります。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出不をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

証券市場論 【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組みの理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況など、証券に関する制度および実務的側面についても触れる。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleで配布するので、各自印刷のうえ、講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

釜江廣志(編)(2015)『入門証券市場論(第3版補訂)』有斐閣。
小林 孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券投資論I—理論篇』日本経済新聞出版社。
手嶋宣久(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
花枝英樹(2005)『企業財務入門』白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原則
- 第 6 回: 債券の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: 株式の評価
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】【2つの証券の連動性】
- 第 10 回: ポートフォリオ理論(2)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 11 回: 資本資産評価モデル(CAPM)
- 第 12 回: テリバティブ取引
- 第 13 回: 投資家と投資戦略
- 第 14 回: 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20% + 中間テスト30% + 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認する。
事後学習: 講義内容を復習する。なお、一部の回では講義後の約1週間に限定して小テスト(成績評価を参照)実施するため、Moodleで小テストを受験する。

証券市場論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- * 計算問題が多いので、毎回の講義に電卓を持参すること。
- * 小テストの公開期間は講義後の約1週間である。過去の小テストを遡及的に受験することはできないので忘れずに受験すること。
- * 講義中の私語や騒音、スライドおよび板書の写真・動画撮影を禁止する。禁止事項を行った学生に対して注意しても改善が見られなかった場合、成績評価から減点の措置を取る場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標とする。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定である。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2018年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経営の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	国際経営、グローバルビジネス全般に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経営

BUS311M

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する国本土の企業制度（企業統治またはコーポレートガバナンス）と企業経営システム(内部特性：経営目標、経営戦略、経営組織、管理スキーム)の比較を中心に講義を進めていく。
現地企業調査で得た一次資料を活用し、具体的な企業事例を織り交ぜながら、日本と東アジア地域の企業経営様式の異同について学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会
王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会
末廣昭『ファミリービジネス論-後発工業化の担い手』名古屋大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 第2回 比較アプローチの意義と課題
- 第3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 第4回 企業制度比較I【企業統治】、【同族企業】
- 第5回 企業制度比較II【利害関係者】、【経営権市場】、【インセンティブシステム】
- 第6回 経営システムの捉え方【経営の内部特性】
- 第7回 内部特性I：経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 第8回 内部特性II：経営戦略【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】、【事前合理性】
- 第9回 内部特性III：経営組織【公式化】、【集権化】、【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 第10回 内部特性IV：管理スキーム【業績評価】、【人材養成】、【情報伝達】
- 第11回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 第12回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】、【エクセレントカンパニー】
- 第13回 事例紹介I【日本企業のケース】
- 第14回 事例紹介II【中華圏企業のケース】
- 第15回 グローバル化と東アジア型企業経営

国際経営【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 3・小テスト 40%
- ・期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料を熟読すること
参考文献について掲示資料のほかに適宜追加提示するが、各自入手し、活用すること

履修上の注意 /Remarks

- ・私語を慎んで下さい
- ・遅刻・早退を慎んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・経営学の基礎知識が取得済みであることを前提に講義を進めていく
- ・質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい
- ・講義中に小テストを複数回実施する

キーワード /Keywords

地域企業分析 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科, 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業経営に必要とされる諸理論を経営の実践において活用するための専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営の実践上の諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営の実践に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域企業分析

BUS400M

授業の概要 /Course Description

本科目は経営情報学科の学生が1年生から学んできたマネジメント理論修得の総仕上げにあたるものです。学生が修得してきた理論と企業経営の実践とを統合的に理解することを目的としています。

また、経済学科の学生にとっては、経営学にくわえ自身が学科で学んできた経済学ないし地域経済論の知見を加味しながら、企業経営の実践を理解することを目的としています。

授業内容は、スケジュールの前半部分で学内教員が様々な視点から企業経営を分析する手法を提示し、後半部分では学外から経営者を中心に経済界の方々を特別講師として招聘して企業経営の実践を講演していただきます。

本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営学の応用力を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な際には随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「全体説明」
 - 第2回 「経営戦略の分析」
 - 第3回 「経営組織の分析」
 - 第4回 「人的資源管理の分析」
 - 第5回 「企業ファイナンスの分析」
 - 第6回 「経営理念の分析」
 - 第7回 「ソーシャルビジネスの分析」
 - 第8回 「中小企業経営の分析」
 - 第9回 中間まとめ
 - 第10回 外部講師
 - 第11回 外部講師
 - 第12回 外部講師
 - 第13回 外部講師
 - 第14回 外部講師
 - 第15回 まとめ
- (なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポート70% 学期末テスト(あるいはレポート)30%

地域企業分析 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
特に外部講師登壇の際には講師の所属企業・組織について情報集すること。
授業後はレジюмеと参考文献、および講師の講義の資料・メモを用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

3年時までに学んだ経営学系の科目の復習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修ガイドの履修モデルを見てもわかるように、1年時から学んだ知識の総仕上げとなります。

キーワード /Keywords

理論と実践

コンピュータシステム【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 データ集合を効率よくコンピュータ処理する際の形式化【データ構造】
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 情報と情報量、あいまいさ【エントロピー】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【電子自治体】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

コンピュータシステム【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

オペレーションズ・マネジメント 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	オペレーションズ・マネジメントの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのオペレーションズ・マネジメントに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に理解し、その解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の数理的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

オペレーションズ・マネジメント INF200M

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。
この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ、工程管理とは
- 3回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ、PERT図の作成
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅲ、所要時間の評価
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ、金利を踏まえた意思決定のあり方
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ、金利を踏まえた変換式の導出
- 8回 【経済性工学】の実習
- 9回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 10回 【線形計画法】の実習
- 11回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ、待ち行列の定義
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ、待ち行列に関する指標の導出
- 13回 【待ち行列理論】の実習
- 14回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理解できなくても構いませんので、教科書の該当章をあらかじめ読み、どのような内容になるのか、こういった点が重要と考えられるかなど、考えておくことで講義での理解が深まります。

講義のあとは、練習問題を解いてみることで、講義で習った手法の実際場面での利用について考えることで理解が深まります。

オペレーションズ・マネジメント【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なアルゴリズム・データ構造の基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータ構造に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータ構造を通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データ構造

INF231M

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【シェルソート】【マージソート】
- 11回 ソート法2、グラフ【ヒープソート】【グラフ】【隣接行列】
- 12回 応用例1【ダイクストラ法】【ハノイの塔】
- 13回 応用例2【動的計画法】
- 14回 応用例3【最大流問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%

課題... 20%

データ構造【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報科学の理解に必要なデータベースの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのデータベースに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてデータベースを通じて効率的に提案することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

データベース

INF232M

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの基本知識、設計技術を中心に学びます（データベースの利用者の立場からではなく、作成者、設計者の立場としての内容です）。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

個々の情報科目への適性にもよりますが、資格試験にも対応できるよう基礎をしっかりと勉強するため、「難易度は高めです」。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -
その他、講義中に指示

データベース【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義時間の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 小テスト・課題...15% 期末試験...70%

詳細は第1回目に説明するので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

講義後にはノート、参考書等により、内容の復習、課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。図表など部分的に配布します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが、資格試験に対応できるように、「難易度は高めです」。データベースの仕組みに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。他に履修するものがない、友達が履修するなどの理由では選択しない方がよいと思います。

キーワード /Keywords

Webプログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なWebプログラミングの基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのWebプログラミングに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてWebプログラミングを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Webプログラミング

INF212M

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミングを中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのPHP言語の習得を目的とします。

PHPとは、Webページ上での処理を目的とした言語で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をするプログラムなどが作成可能です。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他、アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどにも応用可能です。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。まとめ資料も配布しますが、最低限の内容しか記載していません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

谷藤賢一著、『いきなり はじめる PHP』、リックテレコム
小川雄大他『パーフェクトPHP』、技術評論社
山田祥寛『独習PHP 第2版』、翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、PHPとは【PHP】
- 第2回：PHPに必要なソフトのインストール
- 第3回：PHPの仕組み、HTML作成方法
- 第4回：HTMLによるフォームの作成方法
- 第5回：PHP言語入門：変数【PHP言語】【変数、配列】
- 第6回：HTMLとPHPによるデータの受け渡し方法【データ受け渡し】
- 第7回：PHP言語入門：条件分岐1【条件分岐】
- 第8回：PHP言語入門：条件分岐2【複雑な条件分岐】
- 第9回：PHP言語入門：繰り返し1【繰り返しfor】
- 第10回：PHP言語入門：繰り返し2【繰り返しwhile】
- 第11回：PHPによるファイル操作1【ファイル操作】
- 第12回：PHPによるファイル操作2【データの入れ替え】
- 第13回：乱数の利用【乱数】
- 第14回：クリックابلマップの利用【クリックابلマップ】
- 第15回：PHP技術の応用【PHP応用】

(進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

Webプログラミング【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...15% 課題・小テスト...25% 期末試験...60%

詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回内容を復習し、理解できていない場合にはテキスト、参考資料、Web検索などでしっかりと勉強し、次回までには理解しておくこと。定期的な課題にもしっかりと時間をかけて取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPHP言語というプログラミング言語によるWeb上で動作するプログラミングをします。PHPはJAVAに似ていますので、JAVA経験者はJAVAの文法を復習しておくとう理解しやすいと思います。

PHPについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

基礎から勉強しますが、プログラミング未経験者は、各自予習復習をしっかりする必要がありますと思います。

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。必要なソフトのコピーをするので、この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業データ分析【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	データ解析法の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	経済・経営に関する諸問題を数理的に解決するためのデータ解析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経済・経営に関する諸問題を統計的に理解し、課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経済・経営の統計的表現に関する諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業データ分析

INF341M

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まり、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値についてI【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 変数の代表値についてII【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 5回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 6回 連続的な分布の扱い方I【正規分布】，【確率密度関数】
- 7回 連続的な分布の扱い方II【正規分布】，【累積分布関数】
- 8回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】，【標準誤差】
- 9回 標本平均の安定性についてII【中心極限定理】，【標準誤差】，【信頼区間】
- 10回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 11回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 12回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 13回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% レポート...30%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎週前もって講義資料を所定の場所にアップロードしますので、ダウンロード、読んでおいてください。

講義中の実習のほかに練習問題も出します。講義のあとは、練習問題を解いて理解度を確認してください。

企業データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、1GB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム分析 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートは学習支援ホルダーに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

システム分析 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報科学の理解に必要なコンピュータネットワークの専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● コンピュータネットワークの活用に関する問題を解決するための情報ネットワークに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● コンピュータネットワークを活用する上での課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● コンピュータネットワークに係わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報ネットワーク

INF320M

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにキーワードについて調べておくこと。
授業終了後には授業の内容を反復すること。

情報ネットワーク【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味をきちんと調べて受講してほしい。

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

システム設計 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム設計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム設計に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム設計の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム設計

INF420M

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノート Moodle にアップする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
- 2回 アプリ開発とは？【AndroidStudio】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
- 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
- 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
- 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
- 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
- 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
- 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
- 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
- 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
- 14回 コンテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。講義ノートはMoodleにアップしておくので、予め予習し、分からない点は講義中に質問すること。

システム設計 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 簿記の理論および実践の理解に必要なより高度な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 簿記に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論III

ACC210M

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに特に主眼をおきたい。

日商簿記検定2級の新しい出題範囲である連結会計、外貨建取引、リース会計などの問題についても慣れてもらうようにしたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布。テキストは新しい出題範囲を盛り込んだものを購入してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに（講義の概要について）
- 2回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第150回）】
- 3回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第150回）】
- 4回 第150回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 5回 第150回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 6回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第151回）】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第151回）】
- 8回 第151回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 9回 第151回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）①：商業簿記第1問・第2問【日商簿記検定試験2級（第152回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）②：商業簿記第3問・工業簿記第4問・第5問【同上（第152回）】
- 12回 第152回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説①
- 13回 第152回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説②
- 14回 第152回試験問題に関連するテーマ（新しい出題範囲）について解説③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を必ず行っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

簿記論III 【昼】

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 典生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	工業簿記の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	工業簿記の諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	工業簿記に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	工業簿記に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

工業簿記

ACC211M

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業で用いられる簿記で、商業簿記と対比して論じられます。すなわち、工業簿記は、材料を購入、加工して製品化する製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記と大きく異なっています。
工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していきます。したがって、工業簿記をよりよく理解するためには、原価計算の仕組みを把握し、これを簿記システムと関連付けることが重要です。
本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、工業簿記の理論と実践の双方を理解するために必要な知識を習得することができます。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

問題集等必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 工業簿記に特有の勘定科目
4. 材料費の計算と記帳
5. 労務費の計算と記帳
6. 経費の計算と記帳
7. 個別原価計算の仕組み
8. 製造間接費の配賦法
9. 部門別個別原価計算
10. 総合原価計算の特色と単純総合原価計算
 11. 等級別総合原価計算
 12. 組別総合原価計算
 13. 工程別総合原価計算と減損
 14. 標準原価計算
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常的な授業への取り組み (15%)、課題の提出状況 (35%) を目安として、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習のため、類似問題を解いてください。

工業簿記【昼】

履修上の注意 /Remarks

商業簿記の基礎を理解しておいてください。
電卓等を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論 I

ACC212M

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。

本講義では、造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。

なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』あるいは『Moodle』に資料をupしておくので印刷して持参してくること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座.『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.
TAC簿記検定講座.『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 原価計算の基礎【原価】
- 3回 個別原価計算の概説【個別原価計算】
- 4回 材料費の計算①【材料費】
- 5回 材料費の計算②【材料費】
- 6回 労務費の計算①【労務費】
- 7回 労務費の計算②【労務費】
- 8回 経費費の計算【経費】
- 9回 前半のまとめ
- 10回 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 11回 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 12回 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 13回 部門別個別原価計算①【部門別個別原価計算】
- 14回 部門別個別原価計算②【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前にはレジュメや参考書を一読し、授業のあとは復習をすること。

原価計算論I【昼】

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	原価計算の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	原価計算に関する諸問題を解決するための分析手法を維持する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	原価計算に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	原価計算に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原価計算論II

ACC213M

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」＝「利益」＋「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。

本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

『学習支援フォルダ』あるいは『Moodle』に資料をupしておくので印刷して持参してくること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。
TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記2級工業簿記(よくわかる簿記シリーズ)』TAC出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 財務諸表
- 11回 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前にはレジュメと参考書を一読し、授業のあとは復習をすること。

原価計算論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

電卓を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か? - 【コンテンツラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か? 【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題 ... 10% 期末試験 ... 80%

財務会計論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト（簿記2級程度の仕訳）や、財務会計論の入門書及び教科書（例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍）を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名
/Instructor

工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義 A

BUS390M

授業の概要 /Course Description

本講座のメインテーマは、公共経営です。
資本主義経済の成熟化や超少子・高齢社会の到来などにより、公益性の高い仕事は国や地方公共団体などの政府部門（公）だけではなく、営利法人や非営利法人などの民間事業者がその担い手として活躍する仕組み（公共）が形成されつつあります。
歴史的に見ると、1970年代～80年代においては米国のレーガノミクス、英国のサッチャリズムによってNPM (New Public Management: 新しい公共経営) と呼ばれる取り組みが行われるとともに、わが国においては1980年代からの規制改革や公益法人改革などによって市場原理の導入が進められました。1990年代には、地方公共団体による行政評価や企業会計手法の導入など、公的部門への民間の経営手法の導入が試みられ、やがて国において制度化されたNPMの取り組みが推進されるようになりました。
公的部門への市場原理の導入は自由放任ではなく、一定のルールや規制によることが必要ですが、今後はNPMの成果を生かしつつ、ポストNPMの取組み、すなわち公共空間の主要なステークホルダーとしての市民や企業が自ら公共サービスや公共空間を民主的かつ効率的・効果的にコントロールするNPG (New Public Governance: 公共ガバナンス) が重要となります。
本講座では、これらの歴史的経緯と制度的内容、実践例や社会保障分野における展開などを紐解き、今後の経済社会の枠組みを展望します。

教科書 /Textbooks

授業において適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「世界の経営学者はいま何を考えているのか」入山章栄（英治出版）
- 「行政学」西尾勝（有斐閣）
- 「教養としての社会保障」香取照幸（東洋経済新報社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	公共経営総論 (1)	【公共とは何か、歴史、公共セクターの役割や特性】
第 2 回	公共経営総論 (2)	【公共セクターの職業倫理、ソーシャルキャピタルの概念】
第 3 回	公共経営総論 (3)	【NPMとNPG】
第 4 回	公共経営総論 (4)	【財政と公共ガバナンス】
第 5 回	公益事業とその担い手 (1)	【公益事業とその経営組織 (営利・非営利)】
第 6 回	公益事業とその担い手 (2)	【公益法人やNPO法人とその事業構築、活動資金】
第 7 回	中間まとめ	【中間的なふりかえりと総括】
第 8 回	中間レポートの作成と提出	
第 9 回	公共サービスの改革 (1)	【官民連携とガバナンス】
第 10 回	公共サービスの改革 (2)	【公共法人の多様化とガバナンス】
第 11 回	公共政策と規制緩和	【規制改革の事例：基礎構造改革と21世紀の介護・福祉】
第 12 回	公共政策の担い手 (1)	【行政職員：ゲストスピーカー】
第 13 回	公共政策の担い手 (2)	【NPO法人：ゲストスピーカー】
第 14 回	期末まとめ	【期末のふりかえりと総括】
第 15 回	期末レポートの作成と提出	

経営学特殊講義 A 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのレポート提出 (毎回) 15 %
中間レポート (1回) 10 %
期末レポート (1回) 75 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日常的に新聞を閲覧し、経済社会のイポックの理解・整理を行うように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業においては、履修生からの積極的な質問や意見表明を歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済のグローバル化などにより、既存の価値観は大きく揺らいでいます。企業や経営者、市民や政府・行政とは何かが改めて問われているのです。
社会全体にかかわる課題 (公共的課題) を解決するためには、政府、企業、消費者 (市民) など多様なステークホルダーが、他人事を我が事として捉え直し、主体的に役割を果たす必要があります。現代社会の仕組みを概観し、自ら積極的に社会的課題に関与したいという皆さんの参加を期待します。

キーワード /Keywords

公と公共、私益と公益、NPM、規制改革、官民パートナーシップ、NPG

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	時勢に応じた経営学分野の専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営学特殊講義B

BUS391M

授業の概要 /Course Description

本講義は、消費者行動にかかわる人間特性について、認知心理学や社会心理学の見地から概観していきます。社会においてヒトがどのように世界を見聞きし、理解し、判断を行っているか、さらにはコミュニケーションがどのようになされるかを知ることは重要だと言えます。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を紙面配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松井剛・西川英彦(編著)『1からの消費者行動』中央経済社 2016年 ¥2400
他にも、講義内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 消費者行動と経営学1：ガイダンスと授業の概要説明，経営学と心理学との接点
- 2回 消費者行動に関わる人間の特性1：感覚と知覚1
- 3回 消費者行動に関わる人間の特性2：感覚と知覚2
- 4回 消費者行動に関わる人間の特性3：多感覚統合
- 5回 消費者行動に関わる人間の特性4：選択的注意
- 6回 消費者行動に関わる人間の特性5：よさと感性
- 7回 消費者行動に関わる人間の特性6：感情と情動
- 8回 消費者行動に関わる人間の特性7：学習理論
- 9回 消費者行動に関わる人間の特性8：強化スケジュール，動機づけ
- 10回 消費者行動に関わる人間の特性9：記憶
- 11回 消費者行動に関わる人間の特性10：対人認知，対人感情
- 12回 消費者行動に関わる人間の特性11：コミュニケーション
- 13回 消費者行動に関わる人間の特性12：説得と態度変容
- 14回 消費者行動に関わる人間の特性13：確率判断，リスク認知，認知バイアス
- 15回 消費者行動と経営学2：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内小テスト ... 40% 授業内レポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

授業中に模擬実験を行う場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業の人的資源の活用や顧客とのコミュニケーション等を学んでいくにあたって、心理学の知識を得ることは有益となります。

経営学特殊講義B 【昼】

キーワード /Keywords

経営学 認知心理学 社会心理学

法学総論 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、六法は各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。(¥1,620)
長谷部恭男、『増補新版 法とは何か』、河出書房新社、2015年。(¥1,512)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしポティガードが殴ってきたら？…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私】の区別
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか/反対ですが、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 日常の授業への取り組み… 30%
- (進行状況により、コメントカードの提出を求められることがあります)
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%

法学総論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまずそれを着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、例外的な考えや細かな考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法

LAW223M

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第7版】』（有斐閣、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回	地方自治の基礎理論 (1) わが国における地方制度の沿革	第16回	住民の権利義務 (3) 参加権	
第 2回	地方自治の基礎理論 (2) 地方自治の意義、地方自治に関する法源	第17回	住民の権利義務 (4) 公の施設利用権	
第 3回	地方自治の基礎理論 (3) 自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み	第18回	国と地方公共団体との関係 (1) 相互関係の在り方、関与の在り方	
第 4回	地方公共団体の種類 (1) 普通地方公共団体、特別地方公共団体	第19回	国と地方公共団体との関係 (2) 係争処理の仕組み	
第 5回	地方公共団体の種類 (2) 基礎的地方公共団体、広域の地方公共団体 大都市制度、市町村合併、道州制	第20回	国と地方公共団体との関係 (3) 事務配分と財源配分	
第 6回	地方公共団体の事務 (1) 地方公共団体の事務の区分	第21回	国と地方公共団体との関係 (4) 地方公共団体の財政、税源、補助金	
第 7回	地方公共団体の事務 (2) 事務配分のあり方	第22回	情報公開制度 (1) 情報公開制度の概要	
第 8回	地方公共団体の権能 (1) 自治のための権能	第23回	情報公開制度 (2) 情報公開制度の諸問題	
第 9回	地方公共団体の権能 (2) 自治行政権とその統制原理	第24回	個人情報保護制度 (1) 個人情報保護制度の概要	
第10回	地方公共団体の権能 (3) 自治立法権の意義と限界	第25回	個人情報保護制度 (2) 個人情報保護制度の諸問題	
第11回	地方公共団体の機関 (1)	第26回	住民監査請求 (1) 住民監査請求の制度	地方議会
		第27回	住民監査請求 (2) 住民監査請求と住民訴訟	
第12回	地方公共団体の機関 (2) 執行機関、補助機関	第28回	住民訴訟 (1) 住民訴訟の意義と要件	
第13回	地方公共団体の機関 (3) 長と議会との関係	第29回	住民訴訟 (2) 住民訴訟における諸問題	
第14回	住民の権利義務 (1) 住民の参政権	第30回	まとめ	
第15回	住民の権利義務 (2) 直接請求権			

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論)および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。

授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第8版]』（有斐閣、2018年）

同 『個人情報保護法の逐条解説[第6版]』（有斐閣、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）

園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）

行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

情報公開・個人情報保護法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

情報公開とは

- 第1回 情報公開の意義
何か
- 第2回 情報公開制度の憲法上の基礎
知る権利、国民主権、説明責任
- 第3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)
情報・行政文書の意義
- 第4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)
個人情報の不開示とプライバシー保護
- 第5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)
法人等情報及び意思形成過程情報の不開示
- 第6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)
事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示
- 第7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)
部分開示、応答拒否、裁量的開示
- 第8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)
開示手続、不服申立て、審査会による審査等
- 第9回 個人情報保護の意義
個人情報保護とは何か
- 第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎
個人の尊厳とプライバシー
- 第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(1)
個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
- 第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(2)
個人情報の収集、管理、利用
- 第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(3)
開示請求、非開示情報、訂正等請求
- 第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(4)
不服申立て、審査会による審査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 井川 志郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

この講義では、「労働法」のうち主に「集団的労働法」を扱います。労働者は、何か納得できない状況があるとき、労働組合という仲間組織を作って、使用者側と交渉したり、圧力をかけたりすることができます。このような集団的な関係（労使関係）を規律する法領域を集団的労働法といいます。

なお、前期開講の「雇用関係法」の知識もある程度必要になるので、これを補足ないし復習するための講義も予定しています。

また、集団的労働法と個別的労働法双方に関連するものとして、企業組織の変動、そして、労働法の履行確保と紛争処理についても考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（集団的労働法とは何か、何故学ぶのか）
- 第2回 基礎知識の補足ないし復習（個別的労働法の要点）
- 第3回 集団的労働法総論
- 第4回 集団的労働法の主体
- 第5回 不当労働行為制度1（概要、不利益取扱い）
- 第6回 不当労働行為制度2（団交拒否、支配介入）
- 第7回 不当労働行為制度3（救済）
- 第8回 労働組合の組織・内部運営
- 第9回 団体交渉
- 第10回 労働協約
- 第11回 争議行為
- 第12回 組合活動
- 第13回 横断的領域（企業組織の変動）
- 第14回 労働法の履行確保と紛争処理
- 第15回 調整回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験による評価 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義内容の復習を行うこと。講義はパワーポイントを用いて行い、パワーポイント資料は配布するが、自分でもノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 井川 志郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

この講義では、「労働法」の一部（労働法総論および個別的労働法）を中心に学習を進めます。

みなさんの多くは、この先就職して、雇用社会に本格的に身を投じることになるわけですが、そのために内定を獲得することだと思います。しかし、内定を得て喜んでいたら、この内定を急に取り消されてしまったら、どうしたらよいでしょうか。あるいは、入社してみたらいわゆる「ブラック企業」で、賃金がきちんと支払われないとか、長時間労働が当然であるとか、暴言を吐かれるとか、ひどい扱いを受けた場合は、どうしたらよいでしょうか。はたまた、良い環境で働いていたとしても、ある日急にクビを言い渡されたら、どうでしょうか。もう少し身近な例でいえば、みなさんの中にはアルバイトをしている人も少なくないと思いますが、そのなかで「納得できない」経験はなかったでしょうか（最近では、「ブラックバイト」などという言葉もありますね）。

労働法は、このような、みなさんが直面しうる「納得できない」状況を解決しうる、重要なルールです。例えば、理由もなく内定を取り消したり、クビにする（解雇する）ことは、法的に許されていません。また、賃金未払いや、不適切な残業（時間外労働）には、罰金や懲役といった刑罰が科されることもあります。そして、このように個別的労働者・使用者間の関係（雇用関係）を規律する法領域を、「個別的労働法」といいます。

本講義では、以上のような雇用労働に関わるルールの基本について、具体的な事例も交えながら学習していきます。なお、労働法の残りの部分（集団的労働法）については、後期開講の「労使関係法」において扱います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（労働法とは何か、何故学ぶのか）
- 第2回 労働法総論 1（労働法の目的と方法）
- 第3回 労働法総論 2（労働法の中核と外延）
- 第4回 個別的労働法 1（労働契約の成立）
- 第5回 個別的労働法 2（労働契約上の権利義務）
- 第6回 個別的労働法 3（労働関係の終了）
- 第7回 個別的労働法 4（労働条件の形成）
- 第8回 個別的労働法 5（賃金）
- 第9回 個別的労働法 6（労働時間および休息）
- 第10回 個別的労働法 7（人事）
- 第11回 個別的労働法 8（労働者に対する制裁）
- 第12回 個別的労働法 9（安全衛生と労災補償）
- 第13回 個別的労働法 10（平等と人格権保護）
- 第14回 個別的労働法 11（非典型雇用）
- 第15回 調整回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験による評価 100%

雇用関係法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義内容の復習を行うこと。講義はパワーポイントを用いて行い、パワーポイント資料は配布するが、自分でもノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インタロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係（保険者・被保険者）
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医～
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題～
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 森田 崇雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

わが国の環境法は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、地盤沈下といった公害問題に対処するための公害規制法として誕生した経緯を持ち、その後、廃棄物問題、化学物質問題、地球温暖化問題等の新たな環境問題に対処すべく、様々な法律が制定されてきた。本講義では、これら様々な環境問題に対してわが国の環境法がどのように整備されているのか、環境法の全体像について知識を深めることを目的とする。また、環境法に関連する裁判例についても適宜検討を加え、環境紛争の現状と問題点についても基礎的な知識を習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

黒川哲志＝奥田進一編『環境法のフロンティア』（成文堂、2015年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北村喜宣『環境法（第4版）』（弘文堂、2017年）○
大塚直『環境法BASIC（第2版）』（有斐閣、2016年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 環境法とは
- 第2回 わが国の環境法の生成史
- 第3回 環境法の基本原則
- 第4回 環境法の手法 / 小テスト①
- 第5回 環境基本法
- 第6回 環境影響評価法
- 第7回 水質汚濁防止法制
- 第8回 大気汚染防止法制 / 小テスト②
- 第9回 土壌汚染対策法制
- 第10回 廃棄物処理法制（1）廃棄物の定義
- 第11回 廃棄物処理法制（2）業・施設許可制と適正処理の確保
- 第12回 地球温暖化対策法制 / 小テスト③
- 第13回 自然保護法制（1）土地利用規制
- 第14回 自然保護法制（2）生物多様性の保全
- 第15回 総括 / 小テスト④

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回・・・100%（1回あたり25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業計画を参照し、各講義テーマについて教科書の該当部分を一読し、予習すること。
- ・ 教科書と講義レジュメ（講義中に配布）を参照し、授業内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

講義は各回に配布するレジュメに沿って進める。教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時はしっかりと話を聞き、適宜レジュメにメモをすること。なお、予習として教科書を一読しておくこと。

環境法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4回（最終日は3回）ごとに小テストを行いますので、それを前提に集中して講義を聞くようにして下さい。

キーワード /Keywords

独占禁止法 【昼】

担当者名 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対する措置の内容を学びます。まず、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不公正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

教科書 /Textbooks

土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（有斐閣、2019年予定）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税
鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2017年）4600円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最新の独占禁止法の条文を必ず手元に用意してください。(独占禁止法48条の2から48条の9等の条文が入っていること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW160M

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家庭生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

山田卓生他著『民法I-総則第4版』有斐閣Sシリーズ 有斐閣 2018年 1,944円+税
潮見佳男=道垣内弘人編「民法判例百選①総則・物権[第8版]」有斐閣 2018年 2,200円+税
*レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第4版]総則・物権総論』東京大学出版会 2008年 3,300円
- 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 2005年 3,800円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第8版』弘文堂 2010年 3,300円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円
- 佐久間 毅著『民法の基礎I総則(第3版)』有斐閣 2018年 3,100円

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限超越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……40% 定期試験……60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所や関連判例を読んで講義に参加してください、事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

レジュメに添って講義を行います。教科書の該当箇所、参照判例は適宜指示します。教科書の他に毎回必ず六法、判例百選も持参してください。

「民法入門」を履修し、「親族法」と併せて履修すると理解が一層深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで、『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても、適宜、取り上げていきます。

本講義の最終目標は、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日の法律問題や課題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることにあります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【営利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

企業活動と法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、随時、以下の事項が記載されていきます。

- ①予習すべき教科書の箇所、
- ②授業後に取り組むべき復習問題、
- ③レポート提出用の課題など

事前に配布される「レジユメ」や「判例資料」をよく読んで、指示された範囲の予習・復習を心がけ、課題に積極的に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

1, 本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

2, 配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

3, 欠席した場合には、教員研究室前に置かれている残余分レジユメを受領してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法II

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法 I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこられるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認

第3回 国家の基本的権利

第4回 国家の基本的義務

第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から3点程度減点します。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉国家論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
- 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
- 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
- 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート50%、期末試験50%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

都市経済論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁とします。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
- 6回 縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
- 7回 縮小する地方財政の中で②【地方債】
- 8回 縮小する地方財政の中で③【ふるさと納税】
- 9回 合併の価値は①【市町村合併】
- 10回 合併の価値は②【自治体内分権】
- 11回 地域の戦い①【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
- 12回 地域の戦い②【外発型発展】【原子力発電】
- 13回 地域の戦い③【交流人口】【インバウンド】
- 14回 地域の戦い④【アニメ聖地巡礼】
- 15回 地域の戦い⑤【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

地方自治論 【昼】

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分は何のような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「下流老人」、「介護離職」の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと若者政策
- 15回 まとめ

公共政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政治過程論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
久米郁男（2013）『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。
坂本治也編（2017）『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学（1） 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学（2） 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2)【ダウンズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェンシー・スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：90%
- ・ 日常授業への取り組み：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと。また、政治過程論は連続しているテーマを扱うため、各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと。

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろんな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないのでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか？-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か？
- 10回 北九州市の局地的高齢化
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 ふるさと納税
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない！！

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

自治体政策研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何も始まりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 秦 正樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、①「政治」が必要であること理由、②戦後日本における政治過程、③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など、政治学の基盤となる理論や概念について概説します。また本講義では、現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し、その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹(2017)『政治学』有斐閣。
砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社。
伊藤光利編(2009)『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【政治と政治学】【規範】【実証】
2. 政治と権力(1) 【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3. 日本の政治(1) 【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
4. 日本の政治(2) 【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
5. 日本の政治(3) 【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
6. 政治制度 【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
7. 政党制度 【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
8. 議員と官僚 【官僚主導】【政治主導】【本人—代理人理論】
9. 地方政治(1) 【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
10. 地方政治(2) 【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
11. 市民と政治(1) 【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
12. 市民と政治(2) 【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
13. メディアと政治(1) 【限定効果論】【新しい強力効果論】【皮下注射モデル】
14. メディアと政治(2) 【選択的接触】【SNS】【世論調査政治】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：90%
- ・ 講義への参加の積極性（リアクションペーパー・授業中の質問など）：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください。また、各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているため、それら文献を読むなどの復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上、授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので、積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう。

政治学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが、本講義では、むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています。政治学の知見の習得を通じて、さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書 /Textbooks

真山達志（編）(2016). 政策実施の理論と実像. 京都:ミネルヴァ書房.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 公共サービス①【公共サービス】【サービス提供】
- 5回 公共サービス②【供給制度】【行政の役割】
- 6回 行政責任①【行政責任】
- 7回 行政責任②【指定管理者制度】
- 8回 職員のあり方①【パートナーシップ】【ネットワーク】
- 9回 職員のあり方②【生活保護】【ソーシャルワーカー】
- 10回 職員のあり方③【観光】
- 11回 住民自治と職員①【参加と協働】
- 12回 住民自治と職員②【地域自治組織】
- 13回 住民自治と職員③【公民館】
- 14回 市民参加①【市民とは】
- 15回 市民参加②【討議的民主主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います（もちろん、2年生でも受講は可能です）。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで） | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源分配】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴しててください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。

キーワード /Keywords

開発途上国 (インド・ バングラデシュなど)、アマルティイ・ セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

都市政策論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の状況と、政策展開の実際を学んでいく。
都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
・ 講義の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法
5. 政策形成の実際
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. 都市文化政策と文化創造
13. インバウンドと観光まちづくり
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

都市政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁とします。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市経営論と併せての受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業や本の紹介など (自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2 回 公害、環境 (問題) とその構造 (被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造 (環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3 回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴 1 (日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国)
- 4 回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5 回 環境権、環境政策の特徴 2 (日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国)
- 6 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 2; 有料化、road pricing等
- 8 回 ポスター発表会
- 9 回 自治体の環境政策 (環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10 回 廃棄物はどこにいくのか (アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12 回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13 回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15 回 まとめ (試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない (原発なくても) と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策 (政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力。

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジアの政治と外交

ARE216M

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN---新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡---'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦---「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構: マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み: AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

東南アジアの政治と外交 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

講義内容は「国際経営論応用編」です。
国際経営論の学習を通じて、将来、国際的なビジネスに携わりたいと希望する学生諸君に必要な基礎知識を提供し、学習能力を育成します。
講義では適宜テーマに沿って英文テキストやケース（英文の事例研究）を輪読し、国際経営の専門用語を含んだ英語で討論できる実力を養成します。そのために、英文を日本語に訳す力の養成、英文法の再確認、専門用語を含んだリスニング訓練（英日、日英）を行います。ビジネスに関する専門的知識の獲得、英語プレゼンテーション技法、論理的思考能力、日本語力、コミュニケーション能力を高めることを目標とします。英語力はスポーツや筋トレと同様に、毎日の絶え間ない訓練が重要であることを知り、勤勉な学生の参加を歓迎します。

教科書 /Textbooks

[教科書]
テキストは指定しませんが、複数のテキストより引用します。詳しくは開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

[参考書]
講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	グローバル化の本質	日本企業、海外企業動向
第2回	-上記テーマについてケース討論	
第3回	グローバルマーケティング	英文資料輪読
第4回	-上記テーマについてケースの討論	
第5回	グローバルサプライチェーン	英文資料の輪読
第6回	-上記テーマについてケースの討論	
第7回	地域経済統合	英文資料の輪読
第8回	-上記テーマについてケースの討論	
第9回	中間試験	
第10回	国際資金移動と外国為替	英文資料の輪読
第11回	-上記テーマについてケースの討論	
第12回	グローバルファイナンス	英文資料の輪読
第13回	-上記テーマについてケースの討論	
第14回	多国籍企業と会計・税制	英文資料の輪読
第15回	-上記テーマについてケースの討論	

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクトへの参加、貢献度（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）

ビジネス英語研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義内容やディスカッショントピックは全て学習支援システムmoodleに事前に配置しますので予習、復習に活用ください。講義中に適宜質問や意見等を求めます。特に講義内容の要旨を事前に配置しますので予習してからクラスに参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

学生には、「Introduction to Economics」「ビジネス英語演習/国際経営論基礎」の履修を強く勧めます。

授業時間には英文テキストを輪読することもあります。報告者が担当箇所の訳文や要約をつくり、その訳文の意味がただしいかをゼミ全員で確認しながら、英文を理解します。国際語としての英語力も磨くよう指導します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私自身企業出身者(丸紅)ですので、現実的で時事的な話題を各テーマに沿って講義にできるだけ盛り込むように努めております。

学生が将来グローバル企業に従事することを強く願い、私自身の国際ビジネスの実態経験を踏まえ熱心に講義しますので、勤勉に学習する学生の履修態度を求めます。

キーワード /Keywords

foreign direct investment (FDI), forward market, arbitrage, purchasing power parity (PPP), interest rate parity (IRP), call option, put option, Export-Import (Ex-Im) Bank, trade finance, Bank of International Cooperation (JBIC), net present value, country risk

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集) Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
- 3.Philosophy/political theory (Argumentation) A
- 4.Philosophy/political theory (Discussion) B
- 5.Philosophy/political theory (Debate) C
- 6.International relations (Textual/Source Study)
- 7.International relations (Argumentation) A
- 8.International relations (Discussion) B
- 9.International relations (Debate) C
- 10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
- 11.Social, moral, and religious (Argumentation) A
- 12.Social, moral, and religious (Discussion) B
- 13.Social, moral, and religious (Debate) C
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

Advanced English I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic

Advanced English II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジュメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想【イデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想【旅と Cogito】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想【承認とコルポラティオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『見玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』（中央公論新社）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【見玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【見玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教と近代化

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 中間テストの解説

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など 40%、期末テスト 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ Moodleで適宜身に課題を出します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時にちょっとお金を払えば入手できます。この授業では、そのような小手先の異文化理解でなく、文化が異なるとはそもそもどういうことについて、もっと根本に戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなたの考えを知りたいと思う人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 近代とは何か【概説】
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 6回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 9回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 10回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 11回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 12回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 13回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学び、生命と環境に関する身近な課題を自ら発見・解決するための基礎的な力を身につける。また、(4)生命や宇宙がこれまでどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

生命と環境 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）の基礎は、国連が定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に随時提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。その他、ICTに関するニュースなどの世の中の動きを注視して情報収集することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。本授業で基本的な環境に対する見方・考え方を身に付ける事によって、その後、環境問題に対し自立的に課題を発見し分析、解決することができる知識の充足を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容 : 50%
レポート試験 : 50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、夜間授業のため少人数授業となる可能性が高い。そのため、一方的な講義型の授業形態ではなく、双方向の対話型授業にて実施する。授業中に発言を求める機会が多く存在することを理解して臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを目の中ではなく外にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。その上で、「こころ」の問題で苦しさを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

印刷物は配布しません。学習支援フォルダにアップしますので、講義前にダウンロードしておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2.知覚1：目の前に見えることも「こころ」の一部である
- 3.知覚2：色はなぜ見える？
- 4.知覚3：形はなぜ見える？
- 5.知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6.目の動きから「こころ」を探る。
- 7.まばたきから「こころ」を探る。
- 8.注意1：どうしてわれわれは騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9.注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10.記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11.記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12.発達1：「こころ」はどのようにして芽生えてくる？
- 13.発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14.発達3：発達の問題に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15.まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：25点 レポート：25点 期末試験：50点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示します。

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業中に近くの人と話し合ったり、近くの人同士で観察し合ったり、ということを行います。
授業中にコメント（認識を新たにした点、疑問点、コメント）を書いてもらいます。
指定した図書についての要約をレポートとして提出してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

心理学，色知覚，奥行き知覚，形の知覚，眼球運動，瞳孔運動，まばたき，選択的注意，注意の見落とし，ワーキングメモリ，長期記憶，微笑，指さし，共同注意，心の理論，発達障害

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりと豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
 - 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

思想と現代【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

昼間に実施される同名授業（「思想と現代」）とは評価法がまったく異なるので、登録の際に混同しないよう注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 基礎的概念整理【民主制】【独裁制】【共和制】【君主制】
3. 近代的分類法【防禦民主主義】【均衡民主主義】【人民民主主義】
4. 民主主義の暴走【立憲主義】【司法独立】【指揮権】
5. 実証的民主体制論【ポリアーキー】【ダール】
6. デモクラシーの指標化【PolityIV】【Freedom House】
7. 民主制の多様性とその生存・品質 1：制度【議会制】【大統領制】
8. 民主制の多様性とその生存・品質 2：選挙【SMD】【PR】
9. 民主制の多様性とその生存・品質 3：運用【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 民主制の多様性とその生存・品質 4：社会【コンソリデーション・モラリティー】【民族問題】
11. 公正な意思決定の不可能性【社会的選択】【選挙制度】【サイクル】
12. 民主制と独裁制の間で【経済成長】【社会厚生】
13. 権威主義体制とその分類【軍事独裁】【政党独裁】【個人・君主独裁】
14. 権威主義体制と選挙・政党【選挙の独裁強化機能】
15. 民主制⇄独裁制の体制変動【民主化】【独裁化】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それがない人を想定して授業を行います）。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。	
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。	
	コミュニケーション力			
			社会調査	SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、
(1) 意味のある「問い」をたてること
(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること
(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること
(4) データを統計的に処理すること
(5) データを解釈すること
について学ぶ。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004、¥2592
入門・社会調査法（第3版）：2ステップで基礎から学ぶ、有斐閣、2017、¥2700
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007、¥3132

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会調査の種類と倫理
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング1【質問文を作る】
- 第6回 ワーディング2【選択肢を作る】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方と方法
- 第9回 実査とデータファイルの作成
- 第10回 度数分布、代表値、分散と標準偏差
- 第11回 検定の考え方
- 第12回 平均値の差の検定
- 第13回 変数間の関連1【クロス表】
- 第14回 変数間の関連2【相関係数】
- まとめ

社会調査【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、度数分布、検定、推定、クロス表、相関係数

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	
		市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2268円（税込）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科, 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野 日中台関係：ボーダーエリア
- 第3回 下野 日中台関係：国家の枠組みと社会
- 第4回 ウェイン The Rle of Public Spaces in Cities
- 第5回 大平 変容するアジア情勢（1）中国とインドの台頭
- 第6回 大平 変容するアジア情勢（2）日本の防衛力強化
- 第7回 大平 変容するアジア情勢（3）開発協力における熾烈な争い
- 第8回 金 日本の「戦後」の終わり
- 第9回 金 日本の対外関係の諸問題
- 第10回 金 戦後の国体、永続敗戦
- 第11回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第12回 寺田 インターネットを巡る国際情勢
- 第13回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト【世銀保証、IFC、Bローン、商社】
- 第14回 下野 台湾：歴史
- 第15回 下野 台湾：社会

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（7～14回）100% ※小テストは原則として各回実施しますが、詳細は各担当者が指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		
			開発と統治
			IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

*『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

*大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるとして		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあて	【米国】	担当：申
第7回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回	世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
第9回	NPOフードバンク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回	子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回	フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回	グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回	教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回	まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

開発と統治【夜】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連 IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1970's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1980's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

阿部香織「情報活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社、2016年、1200円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加 (タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 統計分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を発見するのに必要な統計的分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学 I

ECN130M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方(推定、検定)を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ 確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をやっておくこと。

事後学習:Pythonのプログラムを使って復習しておくこと。

統計学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 統計分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済の諸問題を解決するために必要な統計的手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力) 生涯学習力 コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

統計学II

ECN230M

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実(2013)『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔(2011)『コア・テキスト 統計学』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イントロダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 乗の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

統計学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を事前に熟読し、excelを使って実際に演習をしておくこと。
事後学習：Pythonプログラムを実行することによって、講義内容の理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

教科書の各章を順に講義していく。事前・事後学習を必ず行わないと、単位修得は難しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ノートパソコンを持っている学生はPythonをインストールして、講義に持参することが望ましい。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

ミクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学(旧カリ科目)」の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
- ・ J. E. スティグリッツ(戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年(再履修)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【資産価格バブル】【投機的取引】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【バブルと資源配分】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【完全雇用GDP】【有効需要原理】【ベビーシッター組合の寓話】
- 11回 GDP決定理論(2) 【消費関数】【45度線分析】
- 12回 GDP決定理論(3) 【比較静学】【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル(=45度線モデルやIS-LMモデル)を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデル(=新古典派成長モデル)を説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】 【ケインズ政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】 【貨幣と債券】 【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】 【貨幣需要】 【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】 【公開市場操作】
- 7回 流動性選好理論(4) 【信用創造】 【貨幣乗数】
- 8回 流動性選好理論(5) 【地域通貨】 【仮想通貨】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】 【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】 【金融政策】
- 11回 新古典派成長理論(1) 【マクロ生産関数】
- 12回 新古典派成長理論(2) 【一人当たりGDPの決定要因】 【全要素生産性】 【資本労働比率】
- 13回 新古典派成長理論(3) 【新古典派成長モデル】
- 14回 新古典派成長理論(4) 【貯蓄率】 【収束】 【黄金律】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題: 25%, 期末試験: 75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門A

ECN110M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第3版）東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を予定している。担当教員の情報収集、受講生の関心等によって変更する場合がある。

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について (2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について (3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

経済学入門 A 【夜】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な初歩的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学入門B

ECN111M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

経済学入門B 【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【夜】

担当者名 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基礎的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基礎的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論I

ACC110M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業活動を記録する方法である簿記を学習します。具体的には、日商簿記3級の範囲を対象とし、論点の解説と問題の演習を行います。日商簿記3級という資格は、公認会計士・税理士といった会計専門職を志す学生はもちろんのこと、企業業績の良し悪しを把握できるようになりたいという願望を持つ学生にとって、必要不可欠なものです。主な学習対象は、商品の売買、資金の貸し借り、建物等の購入といった活動の記録方法であり、それらの学習を通じて、簿記の基本を身につけます。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座「合格トレーニング 日商簿記3級」TAC出版（最新のものをご購入してください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座「合格テキスト 日商簿記3級」TAC出版（最新のものをご参照してください）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回簿記の基礎と記帳のルール
- 第2回商品売買I（記帳方法）
- 第3回商品売買II（掛け・手付金等）
- 第4回商品売買III（返品等）
- 第5回商品売買IV（当座取引）
- 第6回商品売買V（手形）
- 第7回商品売買VI（送料等）
- 第8回商品売買VII（帳簿）
- 第9回確認テストI
- 第10回その他の取引II（小口現金等）
- 第11回その他の取引III（借入れ・貸付け等）
- 第12回その他の取引III（給料等）
- 第13回その他の取引VI（固定資産等）
- 第14回その他の取引V（株式会社の設立・増資）
- 第15回確認テストII

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出状況：10%、確認テスト（2回）：20%、定期試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を中心に授業時間外の学習に取り組んでください。毎回の講義の最後に問題演習を行い、課題として提出してもらいますので、間違えた問題を再度解答し、満点が取れるまで繰り返してください。（60分）

履修上の注意 /Remarks

教科書と電卓を必ず持参してください。担当者が作成したレジュメに沿って、論点の解説を行います。

簿記論I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 森脇 敏雄 / Toshio Moriwaki / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	簿記の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	簿記に関する基本的な諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	簿記に関わる基本的な諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	簿記に関わる基本的な諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

簿記論II

ACC111M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業活動を記録する方法である簿記を学習します。具体的には、日商簿記3級の範囲を対象とし、論点の解説と問題の演習を行います。日商簿記3級という資格は、公認会計士・税理士といった会計専門職を志す学生はもちろんのこと、企業業績の良し悪しを把握できるようになりたいという願望を持つ学生にとって、必要不可欠なものです。主な学習対象は、企業活動を記録した結果である財務諸表の作成方法であり、作成時に必要となる記録・集計の方法を学びます。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座「合格トレーニング 日商簿記3級」TAC出版（最新のものをご購入してください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TAC簿記検定講座「合格テキスト 日商簿記3級」TAC出版（最新のものをご参照してください）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回簿記論Iの復習
- 第2回訂正仕訳
- 第3回決算整理I（現金過不足）
- 第4回決算整理II（売上原価）
- 第5回決算整理III（貸倒れ）
- 第6回決算整理VI（減価償却）
- 第7回決算整理V（繰延べ・見越し）
- 第8回精算表
- 第9回確認テストI
- 第10回帳簿の締め切り
- 第11回損益計算書と貸借対照表
- 第12回伝票
- 第13回問題演習（精算表）
- 第14回問題演習（帳簿の締め切り・損益計算書と貸借対照表）
- 第15回確認テストII

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出状況：10%、確認テスト（2回）：20%、定期試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を中心に授業時間外の学習に取り組んでください。毎回の講義の最後に問題演習を行い、課題として提出してもらいますので、間違えた問題を再度解答し、満点が取れるまで繰り返してください。（60分）

履修上の注意 /Remarks

教科書と電卓を必ず持参してください。担当者が作成したレジュメに沿って、論点の解説を行います。

簿記論II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジユメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学

ECN340M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・藪田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引 聡、有村俊秀（2002）、『入門 環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回)...40%、課題...10%、期末試験...50%
変更する予定あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーテンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 伸也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社の仕組みや企業経営の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業経営で生起する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業経営に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業論基礎

BUS110M

授業の概要 /Course Description

テレビや新聞では、企業や証券市場に関することが報道されている。例えば、次のようなニュースを耳にした、あるいは目にしたことはないだろうか。

「A社は○億円規模の投資を行うことを決定した。必要資金は株式発行で調達する。」

「B社の今期の利益は△億円で、株主に対する配当額を10円増やす予定である。」

「C社は社外取締役を導入し、コーポレートガバナンスを強化する。」

「日経平均株価が◇円まで下落し、世界経済の減速に市場が懸念を強めている。」

しかし報道の内容についてよくわからず、そのままにしている場合も多いのではないだろうか。本講義ではこのようなニュースや新聞記事が少しでも理解できるように、企業と証券市場に関する基本的な考え方や知識を提供する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、配布する資料（レジュメ）に基づいて行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 榎原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫『入門証券論』第3版、2013年、有斐閣
- 内田交謹『すらすら読めて奥までわかるコーポレートファイナンス』2004年、創成社

企業論基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 【授業内容と評価方法】、【質問方法】
- 第2回 資本調達の種類①：【直接金融と間接金融】、【自己資本と負債】、【市場の種類】、【証券取引所の機能】、【証券会社の役割】
- 第3回 資本調達の種類②：【株主割当増資】、【公募時価発行】、【第三者割当増資】、【優先株と普通株】、【個人投資家と機関投資家】、【内部留保】
- 第4回 資本調達の種類③：【銀行借入と普通社債】、【転換社債とワラント債】、【最適資本構成】
- 第5回 実際の株価の決定と株価指数：【板寄せ方式】、【ザラバ方式】、【日経平均株価】、【東証株価指数 (TOPIX)】
- 第6回 証券の理論価格①：現在価値計算 【キャッシュフローの種類】、【割引率】、【安全利子率】、【リスクプレミアム】
- 第7回 証券の理論価格②：【社債と株式の理論価格の計算】
- 第8回 証券の理論価格③：【企業価値の計算】、【資本コスト】
- 第9回 投資意思決定①：【投資の種類】、【貸借対照表と損益計算書】、【ROAとROIC】、【ROEとROA (またはROIC) との違い】
- 第10回 投資意思決定②：【正味現在価値 (NPV) 法】、【内部収益率 (IRR) 法】、【回収期間法】、【企業価値と投資の関係】
- 第11回 コーポレートガバナンス① 【所有と経営の一致】、【所有と経営の分離】、【エージェンシー問題】
- 第12回 コーポレートガバナンス② 【機関形態の種類】、【社外役員と独立役員】、【執行役員制度】
- 第13回 デリバティブ 【先物】、【オプション】、【スワップ】
- 第14回 投資信託と証券化商品 【REIT】、【ABSとMBS】、【SPV】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課す小レポート：20%
期末試験：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、可能な限り経済に関する新聞記事やニュース (TV、あるいはネット) に目を通すこと。

事後学習として、上記で指摘した参考書を読み、講義内容を復習すること。あるいは本講義で得た知識を用いながら、新聞記事やニュースに目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

1. 講義を進めるうえで、簡単な数式 (四則演算) を用いる。高度な数学を用いることはないので、その点は心配しないでほしい。
2. 1.に関連して、電卓を用いることがある。授業で電卓を用いる際は事前に伝えるので、忘れずに持参すること。
3. 受講者の理解度をみながら授業を進めていくので、シラバスのとおりに進まない場合もある (シラバスに掲載したテーマは取り扱う)。
4. 期末試験のウェイトが大きいため、きちんと勉強すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マネジメントの理論および実践の理解に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	マネジメントに関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	マネジメントに関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マネジメント論基礎

BUS111M

授業の概要 /Course Description

これまでの経営管理論と異なり、学生の立場から企業経営のあり方を考察した、新しい経営管理論を学んでいく。
学生諸君が21世紀の企業社会で働き、生きていくことを支援するための知識を広範に獲得することができるように、講義していく。

教科書 /Textbooks

齋藤毅憲・渡辺峻編著『個人の自立と成長のための経営学入門』文真堂、2016年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて講義内容に関連した資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業の概要
- 2 これからの企業社会をいかに生きていくのか
- 3 企業社会と会社人生の変貌
- 4 個人に求められる4つの能力開発
- 5 現代企業の変貌と自律型人材への期待
- 6 新たなワーキング・スタイルの登場
- 7 現代企業の雇用管理
- 8 キャリアデザインとは何か
- 9 知識労働者に求められる能力
- 10 社会人基礎力とは何か
- 11 自立と成長のためのキャリア戦略
- 12 ビジネスを起こして生きる戦略
- 13 社会的企業を起こして生きる戦略
- 14 NPOで働いて生きる戦略
- 15 講義全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト70点(随時行う、1回の小テストが20分程度)
定期試験30点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で予定されているテキストの章に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行います。本講義では、教科書を指定するので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できるとは思いますが、講義の順序を教科書の配列とは少し変える可能性があります。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(税込3,024円)
(旧版を購入しないよう注意してください。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白木三秀編(2018)『人的資源管理の力』文真堂。
○上林憲雄編(2016)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。
岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 人間モデルの変遷【科学的管理法】【人間関係論】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 安全と衛生の管理【リスクマネジメント】【ハラスメント】
 - 11回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。

事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) 教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と異なります。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

中小企業論【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2018年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

中小企業論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	コンピュータシステムの理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	情報科学的手法を用いて問題を解決するためのコンピュータシステムに関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身近に存在する問題を自ら発見し、その解決策についてコンピュータシステムを通じて論理的に考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

コンピュータシステム

INF220M

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 データ集合を効率よくコンピュータ処理する際の形式化【データ構造】
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 情報と情報量、あいまいさ【エントロピー】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【電子自治体】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

コンピュータシステム【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
授業では、多くのIT用語が出てくる。授業中にwebで調べておくように指示され用語は、必ず調べてある程度は理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容欄に示すように授業内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等積極的に自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

システム分析 【夜】

担当者名 劉 怡 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報システム分析の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 情報科学的手法を用いて問題を解決するためのシステム分析に関するスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経済・経営に関する諸問題を体系的に理解し、情報システム分析の手法を用いて自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 情報科学的手法を用いた問題解決に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

システム分析

INF340M

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、講義ノートは学習支援ホルダーに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○
平山克己著 『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに講義ノートをアップするので事前に目を通してください。
課題を出すので、課題に取り組んで下さい。

システム分析 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。
Moodleを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義内容は予め学習支援ホルダーにアップしておくので、予習し、分からない点は講義中に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

会社法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると考えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】【主務大臣の包括的指揮監督権】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【首長と議会】【二元代表制】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【中央地方関係】
- 6回 縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
- 7回 縮小する地方財政の中で②【地方債】
- 8回 縮小する地方財政の中で③【ふるさと納税】
- 9回 合併の価値は①【市町村合併】
- 10回 合併の価値は②【自治体内分権】
- 11回 地域の戦い①【外発型発展と内発型発展】【交流人口】【定住人口】
- 12回 地域の戦い②【外発型発展】【原子力発電】
- 13回 地域の戦い③【交流人口】【インバウンド】
- 14回 地域の戦い④【アニメ聖地巡礼】
- 15回 地域の戦い⑤【定住人口】【婚活支援】【恋愛と結婚】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

地方自治論 【夜】

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化